

元総社蒼海遺跡群(21)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群(21)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

口絵写真 1



9地点W-1号溝全景



9地点W-1号溝埋没状況

口絵写真2



27 地点全景（上が北）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社着海遺跡群（21）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの堅穴式住居跡を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 依田 三次郎

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（21）発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市元総社町 2171 番ほか 5 箇

遺　　跡　　コ　　ー　　ド　　20 A 130-21

発　　掘　　調　　査　　期　　間　　平成 20 年 10 月 7 日～平成 21 年 1 月 16 日

整　　理　　・　　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　　平成 21 年 1 月 19 日～平成 21 年 3 月 6 日

発　　掘　　・　　整　　理　　担　　当　　者　　日沖剛史・水谷貴之（有限会社毛野考古学研究所）

4. 本遺跡に關わる遺構測量に関しては、高木義明（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

5. 本書の編集は日沖・和久拓熙・小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆は I を山下歳信（前橋市教育委員会）、他を日沖が担当した。

6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】石倉稔夫・一場友香里・神山早苗・金子稚加・川嶋祥子・小松川早苗・佐藤　修・佐藤安男
椎原京子・高野　繁・田辺　昇・角田宇三郎・庭山皓正・橋元裕児・船戸　登・牧野完一
森山恵子・山崎一男・諒貫瑛一

【整理作業】一場友香里・樺沢美枝・武士久美子・伴場りく

7. 発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

8. 以下の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

秋本太郎・飯森康弘・石守　晃・上野尚美・大西雅広・小川卓也・小野正敏・折笠伸二・黒澤照弘
坂口　一・佐々木清貴・清水　豊・早田　勉・都木真渡・高橋　敦・高林真人・中島直樹・中村岳彦
藤原良祐・松元美由紀・三浦京子・三宅敦氣・山口辰一・山口逸弘・元総社町自治会・株式会社測研
山下工業株式会社・カネコハウス有限会社・株式会社スカイサーブエイ

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載し、挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1 ～ 1 / 4 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3. 遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。

灰軸



煤



黒色処理



4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

W : 溝跡　D : 土坑　P : ピット　SX : 態穴状遺構

5. 遺構及び土器の色調觀察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

6. 船來陶磁器の分類については『横地域跡』1999 静岡県菊川町教育委員会の見解に従っている。

7. 「蒼海城」における各郭の名称は山崎一 1978 『群馬県古城墨跡の研究 上巻』に従っている。

目 次

口絵写真

はじめに

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	3
III 調査方針と経過	9
1 調査方針	9
2 調査経過	9
IV 標準堆積土層	10
V 9地点	11
1 9地点概要	11
2 竪穴状遺構	11
3 土坑	16
4 溝	17
5 ピット	18
VI 27地点	28
1 27地点概要	28
2 土坑	28
3 溝	39
4 ピット	40
VII 付録	58

抄録

写真図版

奥付

図版目次

Fig. 1 調査区域図	1
Fig. 2 元始社蒼海遺跡群位置図	2
Fig. 3 遺跡分布図	4
Fig. 4 蒜ぬ城遺跡図	6
Fig. 5 蒜ぬ城周辺の中世城館分布図	8
Fig. 6 標準堆積土層	10
Fig. 7 9地点全体図	13
Fig. 8 9地点遺構分布詳細図①	15
Fig. 9 9地点遺構分布詳細図②	16
Fig. 10 1～3号トレンチ	20
Fig. 11 S X-1号竪穴状遺構①	21
Fig. 12 S X-1号型穴状遺構②	22
Fig. 13 S X-2号竪穴状遺構	22
Fig. 14 S X-3号竪穴状遺構・D-10号土坑	22
Fig. 15 S X-4号型穴状遺構	23
Fig. 16 D-7号土坑	23
Fig. 17 W-3・4号溝E-E'	23
Fig. 18 W-3・4号溝E-E'	24
Fig. 19 W-3・4号溝F-F'	24
Fig. 20 W-3・4号溝F-F'	25
Fig. 21 W-1号溝D-D'	25
Fig. 22 W-3・4号溝F-F'	26
Fig. 23 W-1号溝D-D'	26
Fig. 24 9地点出土遺物	27
Fig. 25 27地点全体制図	29
Fig. 26 27地点遺構分布詳細図①	31
Fig. 27 27地点遺構分布詳細図②	32
Fig. 28 27地点遺構分布詳細図③	33
Fig. 29 27地点遺構分布詳細図④	34
Fig. 30 27地点遺構分布詳細図⑤	35
Fig. 31 27地点遺構分布詳細図⑥	36
Fig. 32 D-1号土坑	45
Fig. 33 D-2号土坑	45
Fig. 34 D-3号土坑	46
Fig. 35 D-4号土坑	47
Fig. 36 D-28・29・30号土坑	47
Fig. 37 D-32号土坑	48
Fig. 38 W-1号窓	48
Fig. 39 W-2号窓	49
Fig. 40 W-4号窓	49
Fig. 41 W-3号窓	50
Fig. 42 27地点出土遺物①	50
Fig. 43 27地点出土遺物②	51
Fig. 44 27地点出土遺物③	52
Fig. 45 27地点出土遺物④	53
Fig. 46 青磁・白磁・染付型式分類図	59
Fig. 47 船末陶器の編年模式図	61

表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	5	Tab. 10	27地点ピット一覧表③	42
Tab. 2	9地点土坑一覧表	16	Tab. 11	27地点ピット一覧表④	43
Tab. 3	9地点ピット一覧表①	18	Tab. 12	27地点ピット一覧表⑤	44
Tab. 4	9地点ピット一覧表②	19	Tab. 13	27地点ピット一覧表⑥	45
Tab. 5	9地点出土遺物観察表	27	Tab. 14	27地点出土遺物観察表①	54
Tab. 6	27地点土坑一覧表①	37	Tab. 15	27地点出土遺物観察表②	55
Tab. 7	27地点土坑一覧表②	38	Tab. 16	27地点出土遺物観察表③	56
Tab. 8	27地点ピット一覧表①	40	Tab. 17	27地点出土遺物観察表④	57
Tab. 9	27地点ピット一覧表②	41			

写真図版目次

P L . 1 (9地点)

9地点全景

9地点全貌

P L . 2 (9地点)

調査区東側全景

調査区東側全貌

調査区西側全景

調査区西側全貌

西側調査区

2号トレンチ土層断面

2号トレンチ土層断面

W-1号土層断面

P L . 3 (9地点)

W-1号土層断面

W-3号横北トレンチ土層断面

W-3号構南トレンチ土層断面

W-4号溝全景

S X - 4号窓穴状遺構全景

S X - 4号窓穴状遺構出土状況

S X - 4号窓穴状遺構土層断面

P L . 4 (9地点)

S X - 1全貌

S X - 3全貌

D-7号土坑全景

D-10号土坑全景

9地点出土遺物

P L . 5 (27地点)

27地点全景

27地点全貌

P L . 6 (27地点)

27地点全貌

W-1号溝全景

W-1号溝遺物出土状況

W-1号溝遺物出土状況

W-1号溝遺物出土状況

P L . 7 (27地点)

W-2号溝全景

W-2号溝断面

W-2号溝遺物出土状況

W-2号溝遺物出土状況

W-2号溝全貌

W-3号溝全貌

W-3号溝断面

W-3号溝断面

P L . 8 (27地点)

D-1号土坑縦・焼土出土状況

D-1号土坑断面

D-2号土坑全景

D-2号土坑全貌

D-3号土坑全景

D-3号土坑出土状況

D-3号土坑遺物出土状況

P L . 9 (27地点)

D-3号土坑出土状況

D-3号土坑出土状況

D-3号土坑出土状況

D-3号土坑出土状況

D-4号土坑断面

D-29号土坑出土状況

D-29号土坑出土状況

P L . 10 (27地点)

27地点出土遺物①

P L . 11 (27地点)

27地点出土遺物②

P L . 12 (27地点)

27地点出土遺物③

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社着海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年4月1日付けで、前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社着海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受けて、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成20年10月1日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。調査団は民間調査機関である、有限会社毛野考古学研究所取締役 長井正欣と10月2日付けで業務委託契約を締結し、10月7日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称は元総社着海遺跡群（21）とした。遺跡コードは20A130-21とし、20…年度、A130…元総社着海遺跡群、21は個別遺跡番号とした。

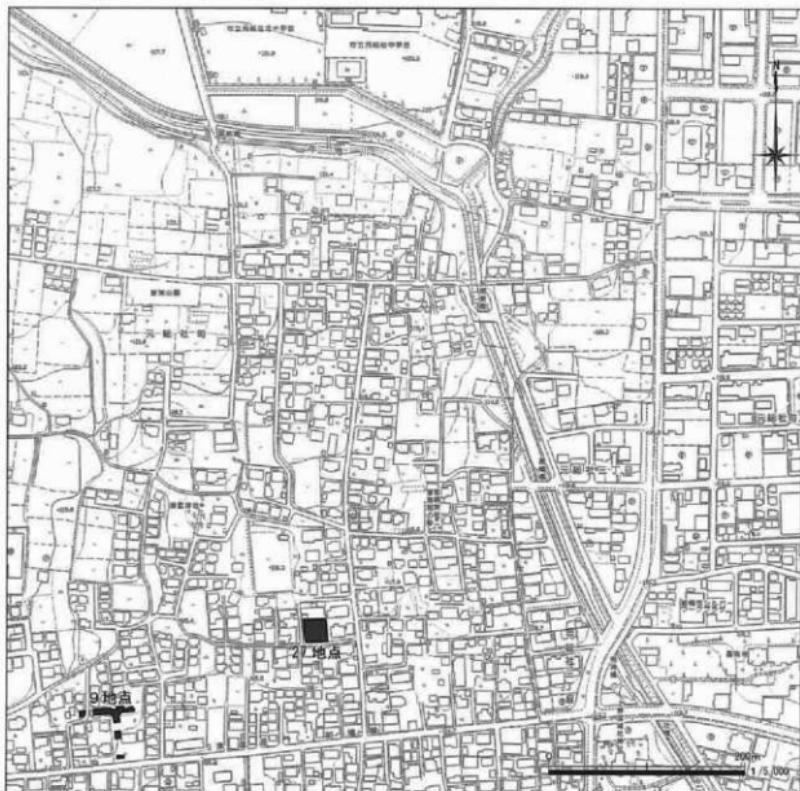


Fig. 1 調査区域図 (前橋市役所発行『前橋市現形図 52-1・52-3』1/2,500を50%縮小)

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境 (Fig. 2)

元總社蒼海遺跡群が立地する前橋市は、群馬県の中央からやや南東寄りに位置し、北の渋川市・富士見村、東の桐生市・伊勢崎市、西の高崎市・吉岡町・棟東村、南の玉村町と境を接し、周囲を見わたすと北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に棟名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。市域の西側には、棟名山麓を源とする幾つもの小河川を集める利根川が南流しており、同河川を中心として数々の文化が栄えている。利根川の現流路は15世紀後半頃に定まったものとされており、それ以前は、前橋市大手町の北側で現流路から逃れて、南東流していたことが確認されている。なお、旧利根川の流路は、現在の広瀬川に一致するものとされている。

元總社蒼海遺跡群は、前橋市の西端に位置し、遺跡の西2.4kmには群馬県庁、南南東1.9kmには関越自動車道前橋インターが立地している。また、地形的な要因を加味すると本遺跡周辺は、棟名山麓より広がる相馬ヶ原扇状地の末端部にあたる。なお、相馬ヶ原扇状地は、棟名山の陣場岩屑なだれに起因するものとされており、その範囲は棟名山南東麓の大部分にわたる。陣場岩屑なだれは、As-Yr (浅間板鼻黄色輕石: 13,000~14,000年前降下: ybp) とAs-Sr (浅間白糸輕石: 18,000年前降下) の間に起きていることが発掘調査等で解明されていることから、相馬ヶ原扇状地の形成も両輕石降下間に言えよう。扇状地の形成は河川の流路にも影響を及ぼし、扇状地形が開ける方向へ河川も流下する状況が窺える。本遺跡周辺にも棟名山麓より南東流する染谷川・牛池川・八幡川等の河川が見られ、遺跡の古地に影響を与えていた。元總社蒼海遺跡群は、染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地しており、同じ台地上には代表的な遺跡として上野国府・国分僧寺・国分尼寺・蒼海城等の痕跡が捉えられている。

現在、元總社蒼海遺跡の周辺は上野国府や蒼海城の地割りが残っており、特に蒼海城に関しては、土塁や埋没した堀の痕跡を部分的に見ることができる。

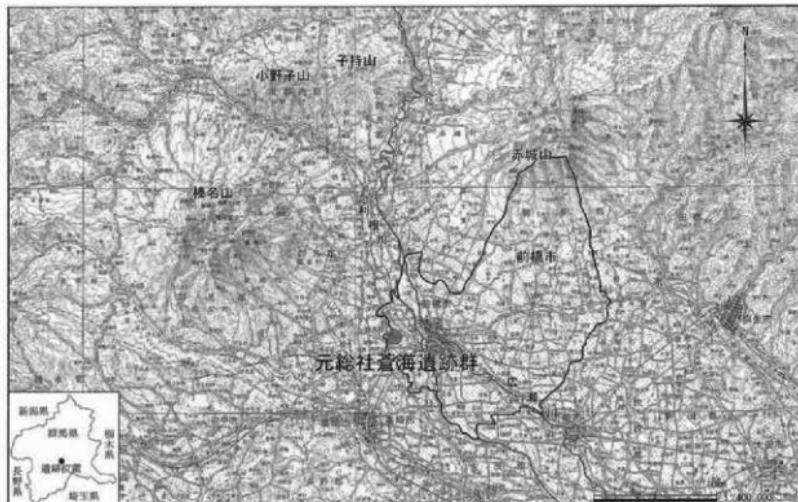


Fig. 2 元總社蒼海遺跡群位置図 (国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小)

2 歴史的環境 (Fig. 3・4・5, Tab. 1)

本遺跡が立地する元總社周辺は、古くから上野国府・国分僧寺・国分尼寺・山王庵寺等が建立され、群馬県内において中枢をなす地域として広く知られている。また、中世になると上野国府の地割りを利用して造られたとされる蒼海城の存在も周知であろう。このような状況から、本遺跡周辺は奈良・平安時代及び中世の遺跡等が目立つ地域となっているが、周辺遺跡を見わたすと、人々が残した痕跡が縄文時代より連続と続いている状況を窺うことができる。ここでは、各時代ごとの遺跡の分布状況について概観してみたいと思う。

縄文時代の遺跡は、牛池川と染谷川に挟まれた微高地上に集中する傾向にあり、前期後半及び中期後半の集落が近年の開発と共に確認されつつある。同台地上では元總社小見遺跡【35】で諸磯 b 式期・加曾利 E 3 式期の住居跡が検出されているのを始め、元總社蒼海遺跡群【13】【28】で諸磯 c 式期の住居跡が確認されており、床面から板状土偶の出土も認められている。このように元總社周辺の遺跡からは、前期後半・中期後半における集落・遺物の確認が多いように思われるが、近年調査が行われた元總社北川遺跡【25】で、A s - C 痕土層下の河道から晩期の往々土器が出土し、元總社蒼海遺跡群【9】【38】では該期の堅穴住居跡も検出されている。なお、元總社周辺において草創期～前期前半の集落等は確認されていない。これは、浅間總社輕石（A s - S j : 11,000 年前）降下以後に本地域の地形を改变させた度重なる洪水（總社砂層）によるものと推測されよう。

弥生時代の遺跡数は極めて少ない状況にあり、確認された遺構のほとんどは後期の様式期にあたるものである。該期の住居跡は、桜ヶ丘遺跡【2】・下東西遺跡【4】・上野国分僧寺・尼寺中間地域【27】・日高遺跡【60】で確認されている。このうち、日高遺跡では浅間 C 軽石（A s - C : 3 世紀後半～4 世紀初頭）下の水田跡が検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田として捉えられている。弥生時代後期以外確認は先述したとおり希少で、遺構に伴わなもののが元總社北川遺跡【25】で竜見町式の壺が出土している。

古墳時代になると遺跡数は増大の傾向をたどる。利根川右岸には遠見山古墳【11】を始めとして、王山古墳【32】・稻荷山古墳【23】・總社二子山古墳【6】・愛宕山古墳【10】・宝塔山古墳【13】・蛇穴山古墳【12】が築造され、このうち稻荷山古墳を除く古墳は總社古墳群に属するものである。なお、宝塔山古墳の石棺と蛇穴山古墳の石室に見られる石造技術は、約 900 m 南西に建立された山王庵寺【18】の石造物と同系統の技術であることから、これらの古墳は仏教色の強いものとされている。集落は縄文時代と同様で、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に多く分布しているが、前期～中期の住居跡は散見されるほどで、後期からの集落増加が目立つ地域と言えよう。集落に作る畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、總社甲種荷塚大道西 IV 遺跡【30】・總社閑泉明神北遺跡【38】・元總社西川遺跡【33】で畠跡、元總社北川遺跡【25】・總社閑泉明神北遺跡・總社閑泉明神北遺跡 V【38】・元總社明神遺跡 I ～ III【50】・元總社寺田遺跡 I ～ III【51】で水田跡が確認されている。

奈良・平安時代の元總社は、上野国府・国分僧寺【61】・国分尼寺【62】が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと変化を遂げていく。現在、上野国府の範囲・建物については不明瞭な部分が多いものの、元總社蒼海遺跡群【7】(9) (10)【38】・閑泉種遺跡【39】で東西方向、元總社明神遺跡【50】で南北方向の大構が確認されており、国府城における北及び東外郭線が推定されることとなった。国府城推定城内には、元總社宅地遺跡【41】・元總社寺田遺跡【51】・元總社小学校校庭遺跡【53】など国府関連の様相を示す遺跡が確認されており、元總社宅地遺跡・元總社小学校校庭遺跡では掘立柱建物跡、元總社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」などが書かれた墨書き器や人形の出土が確認されている。なお、本遺跡である元總社蒼海遺跡群【21】(1) も国府城推定範囲内に位置し、南北方向へ直線的に延びる平安時代の大構が確認されており、国府との関連性が指摘されている。国分僧寺・国分尼寺は必然的に上野国府周辺に置かれており、国分僧寺については昭和 55 年より本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・塀などが捉えられている。国分尼寺に関しては、昭和 44・45 年にトレンチ調査が行われたことにより伽藍配置の推測が可能となり、この結果を基に前橋市埋蔵文化財発掘調査團



Fig. 3 遺跡分布図(国土地理院発行『前橋』1/25,000)

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		绳文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			绳文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社着山遺跡群(21)				●	●	31	元総社小見内田遺跡		●	●	●	●	
2	桜ヶ丘遺跡		●				32	元総社小見内VII遺跡		●	●	●	●	
	總社桜ヶ丘遺跡・日遺跡				●		33	元総社西川遺跡		●	●	●	●	
3	清里南部遺跡群・重	●			●		34	上野国分寺夢道遺跡		●	●	●	●	
4	下東西遺跡	●	●	●	●	●	35	元総社小見内遺跡	●	●	●	●	●	
5	中島遺跡				●		36	元総社小見III遺跡	●	●	●	●	●	
6	總社二子山古墳			●			37	元総社小見内IV遺跡		●	●	●	●	
7	椎木遺跡・日遺跡				●		38	總社開原明神北II遺跡		●	●	●	●	
8	熊野谷遺跡	●			●		39	總社開原明神北II遺跡		●	●	●	●	
9	熊野谷II・日遺跡				●		40	總社開原南II遺跡		●	●	●	●	
10	北原遺跡	●		●	●		41	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	●	●	●	●	●	
11	愛宕山古墳	●			●		42	草原II遺跡		●	●	●	●	
12	達見山古墳			●			43	堤田村東遺跡		●	●	●	●	
13	宝塔山古墳			●			44	元総社音海遺跡群(6)		●	●	●	●	
14	村東遺跡	●			●	●	45	原敷遺跡・II遺跡	●	●	●	●	●	
15	国分寺遺跡	●		●	●		46	堤田II遺跡		●	●	●	●	
	国分寺II遺跡			●	●		47	大丸宅地遺跡		●	●	●	●	
	国分寺柱遺跡		●	●	●		48	堀越遺跡		●	●	●	●	
16	後醍醐遺跡I～III		●	●	●		49	大友屋敷II・III遺跡		●	●	●	●	
17	大尉遺跡I～VI	●	●	●	●		50	元総社光明神遺跡I～Ⅳ	●	●	●	●	●	
18	山ノ原寺跡			●			51	元総社寺道遺跡I～III	●	●	●	●	●	
19	昌美寺向遺跡・II遺跡				●		52	寺守遺跡		●	●	●	●	
20	稚那遺跡東遺跡	●					53	元総社小学校校庭遺跡		●	●	●	●	
21	稚那遺跡西遺跡	●					54	天保遺跡・II遺跡		●	●	●	●	
22	稚那東遺跡		●	●			55	浮物遺跡・II遺跡		●	●	●	●	
23	稚那山古墳		●				56	鳥羽遺跡		●	●	●	●	
24	達社甲種荷埋大道西遺跡				●	●	57	元総社柱礎遺跡	●	●	●	●	●	
	總社甲種荷埋大道西II遺跡			●	●		58	中尾遺跡		●	●	●	●	
25	總社南鼠明神北IV遺跡	●	●	●	●	●	59	正尾寺遺跡I～IV	●	●	●	●	●	
	元総社牛池川遺跡						60	日高遺跡	●	●	●	●	●	
	元総社北川遺跡						61	上野国分寺跡		●	●	●	●	
	元総社小見内V遺跡						62	上野国分寺跡		●	●	●	●	
26	元総社小見II遺跡	●		●	●		63	東山遺跡(確定)		●	●	●	●	
	元総社小見IV・V遺跡	●	●	●	●		64	日高遺跡(推定)		●	●	●	●	
	元総社小見VI・VII遺跡	●	●	●	●									
	元総社蒼海遺跡群(4)	●	●	●	●									
27	上野田分寺跡・尼寺中間地城	●	●	●	●									
28	元総社音海遺跡群(13)	●	●	●	●									
29	元総社小見内Ⅸ遺跡	●			●									
	元総社音海遺跡群(1) (5)				●									
30	總社甲種荷埋大道西III遺跡			●	●									
	總社開原明神北III遺跡	●	●	●	●									
	總社甲種荷埋大道西IV遺跡			●	●									

* 本表の遺跡番号は本文・Fig. 3の『遺跡分布図』の番号と一致している。

が、平成 12 年に寺域確認調査を行っている。この調査の結果、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状構を捉えるに至っている。なお、上野国府・国分僧寺・国分尼寺に隣接する遺構も周辺で確認されている。上野国分僧寺・尼寺中間地城【27】で、大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されているのを始めとして、鳥羽遺跡【56】で神社遺構、中尾遺跡【58】で工房跡が見られ、周辺地域における調査の重要性を再認識させられるものと言えよう。また、東山道(国府ルート)【63】・日高道【64】の存在も明らかになりつつあり、当時の交通事情や流通を知る貴重な手がかりになるものと考えられる。

一方、公的な建物以外である一般的な集落を概観すると、やはり牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地してくるが、国府推定域の中心部における分布は疎となっている。これは、当然ながら国府城と居住域の区分けがな

されていたことを示すものであろう。このような衛星的な集落は古墳時代の集落分布と比べるとさらに多く、確認された集落のほとんどで、8～11世紀代の堅穴住居跡が所狭しと重複する状況を顕著に見ることができる。無数に分布する集落遺跡に対し、本道跡周辺の生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡【25】・元総社甲稻荷塚大道西Ⅲ遺跡【30】などで確認されている島跡に留まっている。水田跡は、本道跡より南へ2.3kmほど離れた日高跡【60】で確認されている。

中世の元総社には、上野国府の地割を利用して蒼海城が築かれる。蒼海城は牛池川と染谷川に挟まれた径1,200m程の範囲を縛張りとする広大な面積を要する城で、千葉介常胤によって鎌倉時代に築かれたと言われている。千葉介常胤については「上毛伝説雜記拾遺」の「總社記」に記されており、「長元元戌辰年（1028年）六月、上總介平忠常下總國より引移らる。其の嫡子下總介常重、其の長子千葉介常胤、此の時城鎮護の為めに、五智の如来を城の四方に數箇寺を建立有って安置す。」とある。

時は下つて、蒼海城は永享元年（1429年）に總社長尾氏によって修築を受けることとなる。なお、蒼海城の修築は、長尾景行によって行われたとされているが、景行の子である長尾忠房（賢昌）によるものとの説もある。長尾忠房は上野国府の地割を利用して築かれた蒼海城を居住には不便であると判断し石倉城を築いて移り住んだが、その石倉城は利根川に崩落してしまったため、再び蒼海城へ戻ることとなったとされている。以後、守護で

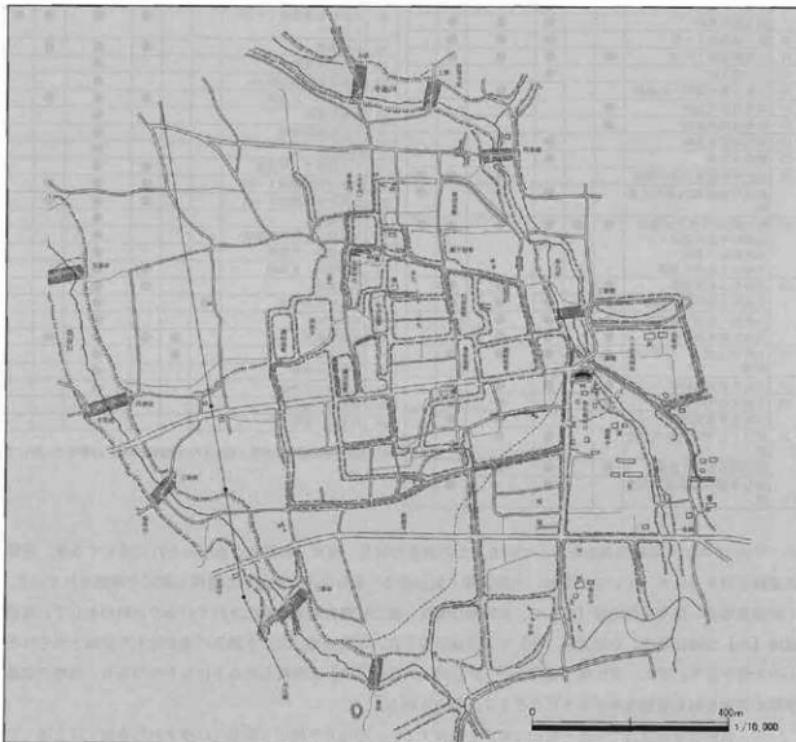


Fig. 4 蒼海城縛張り図 (山崎 一 1978『群馬県古氏城址の研究 上巻』より 1/10,000)

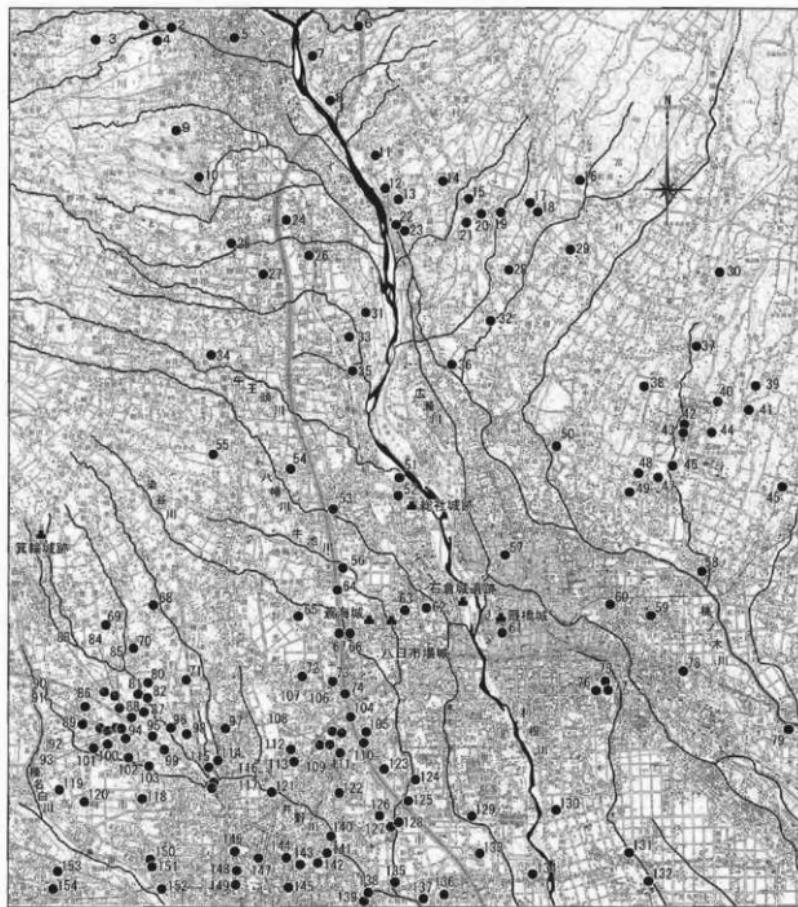
ある上杉氏とともに総社長尾屋は守護代として栄えるが、長尾顕方の時、勃興してきた北条氏綱に服属し、さらには長尾顕方の跡を継いだ長尾顕景は箕輪城主長野信業と箕輪城主長野方業に攻められ、長野氏に屈服したようである。永禄九年（1566年）には、主力を石倉城へ移していたものの、一部は蒼海城に残っていたこともあり武田信玄に攻略されることとなる。

天正十八年（1590年）小田原城が落とされ、関東地方は徳川家康の支配下に置かれることになるが、その時蒼海城に諏訪頼忠があり、城の北東部に長屋を構えて居住したとされている。そこで、諏訪頼忠は頼永を授かるが、諏訪頼永はその後先祖の地である信濃高島城へ移ることとなる。慶長六年（1601年）には、諏訪頼永に変わり秋元長朝が蒼海に入るが、蒼海城は荒廃していたためであろうか、植野に総社城を築城し移り住んだとされる。なお、総社城の築城までは時間を要したため、秋元長朝は蒼海城の東に位置する八日市場城を仮の地として身を置くこととなったようである。秋元長朝が総社城へ移った後は、蒼海城は城としての役割を終え废城を迎えることとなる。

蒼海城関連の遺構は本遺跡【1】と元総社蒼海遺跡群【1】【29】・(5)【29】・(6)【37】、元総社小見内Ⅳ遺跡【37】で確認されている。このうち、本遺跡で新旧の2時期にわたる堀、元総社蒼海遺跡群【6】で南北方向に走行する上端幅11mの堀が検出されている。なお、蒼海城周辺で確認されている中世城館の分布はFig. 5に示してある。

参考文献

- 山崎 一 ほか 1979 『日本城郭大系 第4巻 茨城・栃木・群馬』 株式会社新人物往来社
近藤義雄 1986 『図説・前橋の歴史 群馬県の歴史シリーズ①』 あかぎ出版
群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史 通史編3 中世』 群馬県
山崎 一 1978 『群馬県古城址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
前橋市編さん委員会 1971 『前橋市史 第一巻』 前橋市
秋本太郎 ほか 2008 『史跡箕輪城跡Ⅶ』 高崎市教育委員会
早田 勉 ほか 2008 『更新世の地形発達史と遺跡群の形成』 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会
群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編1 原始古代1』 群馬県
大崎和久 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群【6】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
坂口 一 ほか 2007 『総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
櫻井和哉 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群【16】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
阿久澤真一 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群【13】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
長谷川一郎 ほか 2001 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
長谷川一郎 ほか 2003 『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅沢克典 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群【15】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
近藤雅順 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群【2】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅沢克典 ほか 2007 『元総社蒼海遺跡群【12】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
近藤雅順 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群【14】・元総社蒼海遺跡群【19】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
金子正人 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群【17】』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1. 入沢城跡 2. 引越山砦跡 3. 高船山砦跡 4. 瀧山砦跡 5. 沢川砦跡 6. 岩谷戸跡
 7. 丹波口砦 8. 谷戸砦 9. 白井田城跡 10. 行田山山砦跡 11. 坂谷戸跡 12. 真庭跡
 13. 長谷戸砦 14. 箱田砦 15. 今元城 16. 石之森 17. 上庄跡 18. 佐原城跡 19. 木野田 20. 田中田 21. 木戸城跡 22. 下御田城跡 23. 今元城 24. 佐原城跡 25. 吉明村跡 26. 佐原城跡 27. 野瀬城 28. 木戸城跡 29. 木戸城跡 30. 小春北受地道路
 31. 長谷戸城跡 32. 道原城 33. 道原城跡 34. 大根道跡 35. 道原城跡 36. 四郷の村居道跡 37. 道原城跡 38. 上石山 39. 小近子妻表城 40. 小坂子城
 41. 畠山の村 42. 畠山城跡 43. 畠山城跡 44. 畠山城跡 45. 畠山城跡 46. 畠山城跡 47. 畠山城跡 48. 小仲の村
 49. 齊内跡・時計送り道跡 50. 八幡山の村 51. 片桐城 52. 元豊寺跡 53. 金合古跡 56. 家園分派井戸東道跡
 57. 齊内城 58. 上京城 59. 片桐城 60. 三郎城 61. 斎藤下ノ城 62. 大友城 63. 長尾城 64. 上野の分領手 65. 中守中間地城跡
 65. 鍾会室町No.22道跡 66. 鍾会室町No.52道跡 67. 烏丸I道跡 68. 伝中代官道跡 69. 長森道跡 70. 佐渡田城跡 71. 鍾会室町No.6道跡
 72. 畠山城跡 73. 金花城 74. 金花城 75. 寄森道跡 76. 今坂城 77. 萩立文書跡 78. 中央天神跡 79. 下長柄城 80. 花吹寺前跡 81. 乙葉城
 82. 元平出城跡 83. 画川北城跡 84. 清湯道跡 85. 与平屋敷 86. 行方上屋敷 87. 画川城 88. 吉田屋敷 89. 井野船跡 90. 行力中船跡 91. 行力中船跡
 92. 畠山城跡 93. 矢是砦 94. 矢是城 95. 畠山城跡 96. 向道加賀跡 97. 中城の内出 98. 鍾会室町No.46道跡 99. 矢是・柳原城跡
 100. 北新堀の村 101. 石神の村 102. 北爪の村 103. 午ノ内城 104. 吹屋道跡 105. 中村村家館跡 106. 黒崎城跡 107. 中村所之免進地跡 108. 中尾城
 109. 小太郎井頭敷 110. 上ノ高麗城 111. 穂機寺 112. 穂機寺 113. 大人木造遺構 114. 稲妻道跡 115. 熊野兜城 116. 大八木屋敷
 117. 下小鳥北戸城跡 118. 八木屋敷 119. 住吉城 120. 我崎城 121. 桐原八幡屋敷 122. 井野産道跡 123. 日高磨道跡 124. 海没屋敷
 125. 新保井城跡 126. 日義大下屋敷跡 127. 藤原瀬浦城 128. 上野保井屋敷跡 129. 中島屋敷 130. 公田東道跡 131. 宿原町東道跡 132. 前阿内城
 132. 阿内古城 133. 上野保井屋敷 134. 草原城 135. 下野瀬浦城跡 136. 矢島松原里跡 137. 矢島西城 138. 上大隅新井星城 139. 長升戸屋敷
 140. 駒泉寺 141. 駒泉東井屋敷 142. 駒城跡 143. 駒城跡 144. 西片屋敷 145. 赤土郡船 146. 上熊城 147. 駒城左近屋敷 148. 長泉寺
 149. 駒城跡 150. 並城跡 151. 上並城 152. 並城跡 153. 駒城跡 154. 木幡城

Fig. 5 著城周辺の中世城館分布図(国土地理院発行「前橋」・「棟名山」1/50,000を50%縮小)

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画元總社蒼海地区区画整理事業に伴う道路用地で、調査総面積は1,178m²である。調査区は2つの地点に分かれており、9・27地点と名称が付されている。各地区は近接しているわけではなく、場所によって遺跡の性格が大きく異なることを想定されたことから、混亂等を避けるため、遺構名称は各地区ごとに付けるとした。また、離れた地点の調査を同時並行で調査することは困難と判断し、27地点、9地点の順に調査を進めた。調査区に被せる方眼は2000年に行われた上野国分尼寺寺城確認調査から用いられている4mごとの方眼（日本測地系）を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へX：144、X：145、X：146…、北から南へY：237、Y：238、Y：239…、と設定した。本遺跡27地点のX：150、Y：240の公共座標は以下のとおりである。

- 元總社蒼海遺跡群（21）9地点 測点 X：150 Y：240

日本測地系：X = 43040.000 Y = -71600.000 世界測地系：X = 43394.9155 Y = -71891.7638

調査方法は、基本的に表土除去→遺構確認→遺構検出→断面観察→遺構完掘の順に行い、測量及び写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて随時行っている。表土除去は0.25ないし0.45バックホーで遺構確認面である總社砂層まで掘り下げるとした。遺構確認はジオレンを使用して行い、平安時代及び中世の埋設土確認に努めた。確認された遺構は基本的に移植ゴテを使用して掘り下げたが、塁に限り、壁面・底面付近及び遺物集中部分を除きスコップを使用した。遺構の検出過程では、ベルトないし白袋により遺構の埋没状況を確認し、出土遺物は可能な限りトータルステーションで出土位置及び標高を記録した後に取り上げを行った。

検出された遺構の記録保存は、平面・断面測量及び写真撮影で対応している。遺構図面は平面・断面図とも基本1/20縮尺で作成し、いずれもトータルステーションで測量している。遺構写真は、35mm白黒・35mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として600万画素相当のデジタルカメラも利用した。また、完掘後はラジコンヘリコプターによる空撮も行っている。

2 調査経過

現地での発掘調査は平成20年10月7日から平成21年1月16日まで、整理業務は平成21年1月19日～同年3月6日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

平成20年10月7日：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。10月9日：27地点の表土除去開始。10月10日：発掘補助員勤員、遺構確認・検出作業を開始。10月15日：蒼海城の古段階の堀を確認。11月12日：27地点の調査と併行して9地点の調査を開始。11月18日：9地点で蒼海城の新段階の堀を確認し、検出作業に取り掛かる。11月27日：9地点の蒼海城新段階の堀の検出作業を終了する。12月1日：9地点で蒼海城の古段階の堀を確認し、検出作業に取り掛かる。12月24日：9地点・27地点とも遺構の検出を終了し、空撮の準備に着手する。12月25日：空撮。発掘器材の撤収。平成21年1月7日：27地点より埋め戻しを開始する。1月8日：27地点の埋め戻し終了。1月10日：9地点の埋め戻しを開始する。堀の埋め戻しに関しては、ランマー填圧を掛けることとする。1月16日：9地点の埋め戻しを終了し、現地調査を終了する。1月19日：出土遺物の洗浄・注記・接合を開始。1月21日：図面修正・写真整理開始。1月30日：遺構原稿執筆及び遺物実測開始。2月12日：遺物・遺構トレイス開始。2月16日：版組み。2月20日：入稿・校正。2月27日：印刷・製本。3月6日：報告書納品。

IV 標準堆積土層

本遺跡は先述のとおり、9・27 地点と調査区が分かれた状態にある。両地点とも染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地し、掘り下げていくと、A s - S j 以降に堆積したとされる総社砂層を確認することができる。この総社砂層は両地点で遺構確認面となっている。

総社砂層の下には、部分的にではあるが黒色の泥炭層が1～3層確認でき、泥炭層の最下層にはA s - S j の混入が見られる。A s - S j 下にはA s - Y P が良好な状態で堆積している。

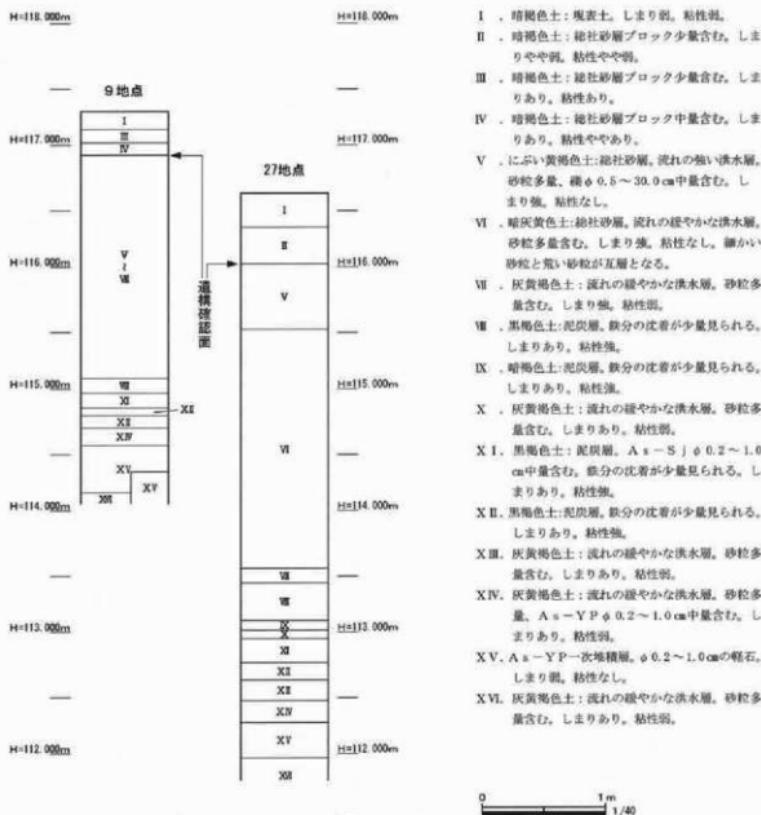


Fig. 6 標準堆積土層

V 9 地点

1 9 地点概要 (Fig. 7~10, P.L. 1~2)

9 地点の調査では、堅穴状遺構 4 基・土坑 16 基・溝 5 条・盛土状遺構 1・ピット 127 基が検出されている。本地点は蒼海城の「鎌田屋敷」とされる部分に位置しており、検出された遺構のうち中世に帰属するものも見られる。なお、中世に帰属するものと想定される遺構は、SX-1・4 号堅穴状遺構、W-1・3・4 号溝、1 号盛土状遺構である。このうち、「鎌田屋敷」の堀と考えられる W-1 号溝と W-3 号溝の関係は注視されるもので、両溝は並走するような状態で確認されている。また、W-3 号溝の埋没土を観察したところ、本遺跡地に厚く堆積する総社砂層 (V~VI 層) の土による人為埋没であることが判明し、さらには、埋め戻すために使われた総社砂層には、顕著な風化現象が見られない状態にあった。このような状態は、地山層である総社砂層を掘削し、それにより生じた掘削土を間を置かずして W-3 号溝へ投じたと考えられよう。なお、本地点内で、W-3 号溝を埋め尽くすほどの土量を掘削しているのは、W-1 号溝のみであるため、W-1 号溝と W-3 号溝の新旧関係は、極めて高い可能性で W-1 号溝が新しいと言える。蒼海城で並走する堀 (溝) に新旧関係が見られる事例は『元総社蒼海遺跡群 (23)』の 24 地点 W-1 号溝と W-5 号溝で確認されており、W-1 号溝が新段階、W-5 号溝が古段階の堀と考えられている。このような状況から、蒼海城の改修は本丸付近 (『元総社蒼海遺跡群 (23)』24 地点・『元総社蒼海遺跡群 (21)』27 地点) だけではなく、「鎌田屋敷」(9 地点) にまで及んでいたものと言えよう。W-4・5 号溝の詳細は不明であるが、いずれの溝も W-1・3 号溝と走行軸が同様となっている。W-4 号溝は W-3 号溝が埋没したのちに構築されたものである。

盛土状遺構は 2 号トレンチの断面において確認されているものである。走行方向等の詳細は捉えられていない。盛土自体に版築の痕跡は見られなかったものの、確認された位置からも「鎌田屋敷」新段階の堀と想定される W-1 号溝に付随する土塁の基部が確認されたものと推測される。

堅穴状遺構で、中世に帰属するものは SX-1・4 号堅穴状遺構で、平面形態こそ異なるものの、いずれの堅穴状遺構も壁面に数基のピットが配されるものである。特に、SX-1 号堅穴状遺構に関しては、整然とピットが配列されている状況が見て取れるものである。また、SX-1 号堅穴状遺構は、W-1 号溝に付随する土塁が存在していたものと想定される位置に存在するため、SX-1 号堅穴状遺構は、「鎌田屋敷」新段階の遺構と考えられる W-1 号溝及び 1 号盛土状遺構より古いものと判断できるものであろう。このほか、SX-3 号堅穴状遺構は、全貌や調査による明確なプランを捉えることができなかつたため、堅穴状遺構としたが、堅穴住居跡の掘り方である可能性が高いものである。なお、SX-3 からは平安時代と想定される須恵器碗が出土している。SX-2 に関しては、性格及び時期等の詳細を捉えることができなかつた。

土坑に関しては、16 基調査したが、このうち明確なプランが捉えられた遺構は D-7・10 号土坑である。D-7 号土坑は検出した結果、井戸であることが判明している。また、D-10 号土坑は、中世に帰属するものと想定される古鏡が出土している。なお、D-10 号土坑は、調査区の端で確認されたもので、全容を調査するに至らなかつたが、埋没土の状態が、SX-4 号堅穴状遺構と近似するものである。

2 堅穴状遺構

SX-1 号堅穴状遺構 (遺構: Fig. 11・12, P.L. 4/遺物: Fig. 24, Tab. 5, P.L. 4)

位置: X : 153・154, Y : 238・239 グリッド。主軸方位: N-86° - E。重複: W-3 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本堅穴状遺構は W-3 号溝よりも新しい。また、残存していたとすると本堅穴状遺構は盛土状遺構の下で構築されていることとなる。盛土状遺構は W-1 号溝に付随する土塁と考えられることから、本堅穴状遺構は、W-1 号溝よりも古いものと推測される。形状: 長方形を呈する。規模: 3.68 m × 3.04 m。残存深度: 0.12

m。面積：11.19 m²。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。壁面付近はやや窪む傾向にある。柱穴：壁面に沿って10基のピットが整然と並ぶ状態にあり、総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土で埋没している。各ピットにはP1～P10と名称を付してあり、計測値はP1が平面0.25 m×0.25 m、深さ0.37 m、P2が平面0.41 m×0.36 m、深さ0.44 m、P3が平面0.30 m×0.27 m、深さ0.45 m、P4が平面0.49 m×0.45 m、深さ0.41 m、P5が平面0.35 m×0.22 m、深さ0.52 m、P6が平面0.31 m×0.30 m、深さ0.41 m、P7が平面0.22 m×0.22 m、深さ0.40 m、P8が平面0.28 m×0.23 m、深さ0.39 m、P9が平面0.25 m×0.22 m、深さ0.34 m、P10が平面0.23 m×0.20 m、深さ0.38 mを測る。なお、P2・P9に関しては柱痕と想定される断面が確認されている。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。なお、混入する総社砂層ブロックは、厚く堆積する総社砂層の中位から下位で確認されるものが主体を占めている。遺物出土状態：底面直上から軟質陶器鉢片が出土している。時期：出土遺物から中世と想定される。

SX-2号竪穴状遺構（遺構：Fig. 13）

位置：X：155・156、Y：237・238グリッド。主軸方位：N-8°-E。重複：P 66～72と重複する。埋没土層の観察からP 67・68・71は本竪穴状遺構に伴い、P 66は本竪穴状遺構よりも新しいものと想定される。P 69・70・72との新旧関係は不明である。形状：長方形形状を呈する。規模：(2.34) m×2.06 m。残存深度：0.20 m。面積：(4.82) m²。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。柱穴：推定範囲内に6基のピット（P 67～72）が確認されている。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。なお、混入する総社砂層ブロックは、厚く堆積する総社砂層の中位から下位で確認されるものが主体を占めている。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

SX-3号竪穴状遺構（遺構：Fig. 14、P.L. 4／遺物：Fig. 24、Tab. 5、P.L. 4）

位置：X：158、Y：238グリッド。主軸方位：不明。重複：D-10号土坑、W-5号溝、P 117～125と重複する。埋没土層と出土遺物の観察から本竪穴状遺構はD-10号土坑、P 118・119・123・124よりも古い。W-5号溝、P 117・120～122・125との新旧関係は不明である。形状：不整形。規模：(1.79) m×(1.10) m。残存深度：0.22 m。面積：(1.97) m²。底面の状態：傾斜は見られないが、凸凹が頗著に見られる。柱穴：推定範囲内に5基のピット（P 117・120～122・125）が確認されている。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から須恵器碗が出土している。時期：9世紀後半～10世紀前半と想定される。備考：底面の状態や出土遺物から竪穴住居跡の掘り方と推測されるが、明確な根拠が得られなかったため、竪穴状遺構として取り扱うこととした。

SX-4号竪穴状遺構（遺構：Fig. 15、P.L. 3／遺物：Fig. 24、Tab. 5、P.L. 4）

位置：X：156・157、Y：237・238グリッド。主軸方位：N-0°。重複：P 106と重複するが、新旧関係は不明。形状：長楕円形状を呈する。規模：(3.20) m×1.87 m。残存深度：0.52 m。面積：(5.98) m²。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。柱穴：壁面付近に5基のピットが確認されており、総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土で埋没している。各ピットにはP1～P5と名称を付してあり、計測値はP1が平面0.35 m×0.22 m、深さ0.67 m、P2が平面0.27 m×0.27 m、深さ0.48 m、P3が平面0.71 m×0.40 m、深さ0.90 m、P4が平面0.21 m×0.20 m、深さ0.47 m、P5が平面0.30 m×0.20 m、深さ0.53 mを測る。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロック・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：底面直上から石鉢が出土している。時期：明確な時期は捉えられていないが、遺構

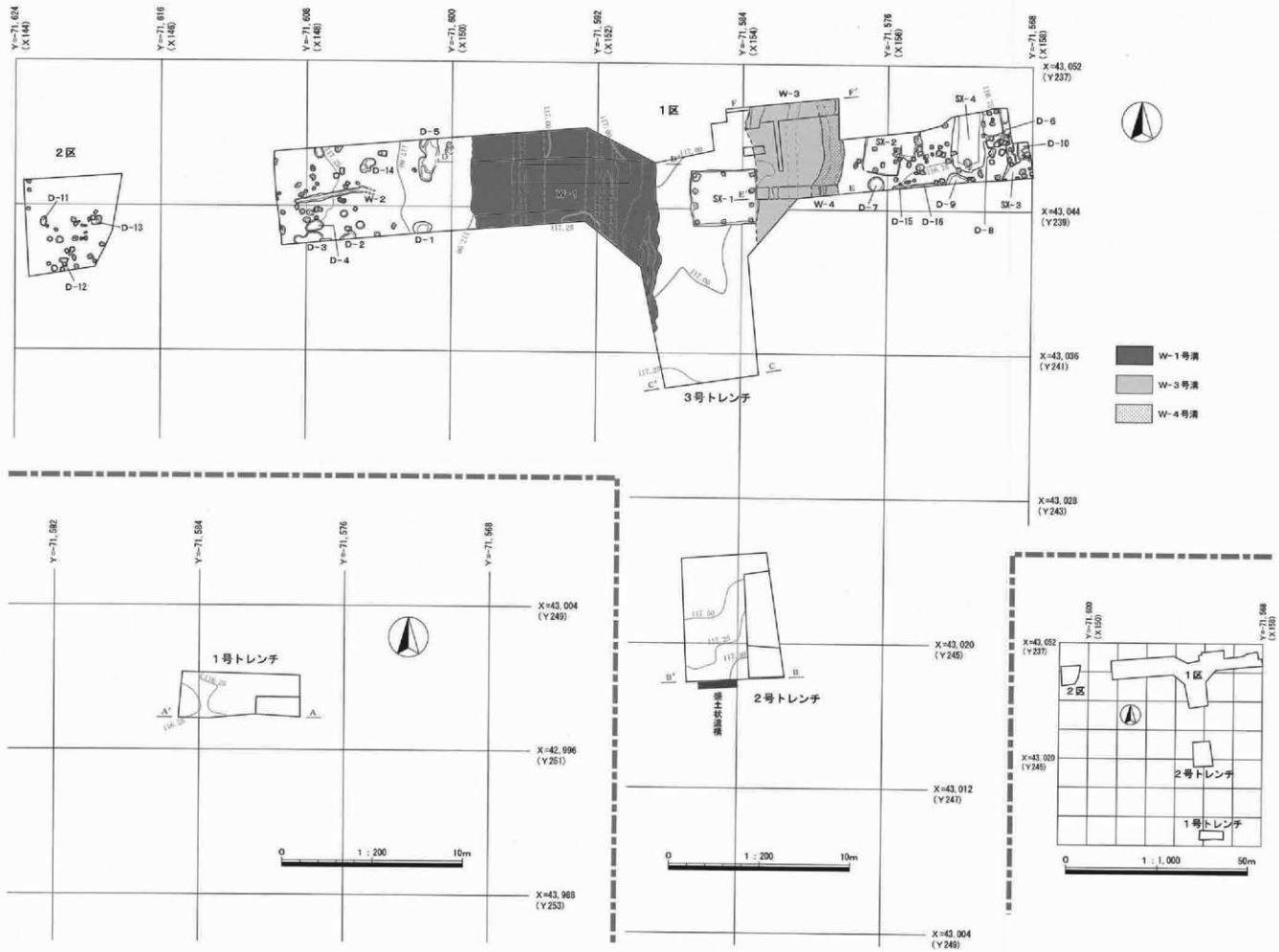


Fig. 7 9地点全体図

Tab. 4 9地点ピット一覧表②

道標名	グリッド	距離 (m)	深さ (m)	平面形態	直物	備考
P-59	X : 148 Y : 229	0.24 × 0.39	0.04	長方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-60	X : 148 Y : 229	0.34 × 0.26	0.06	不整形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-61	X : 149 Y : 228	0.22 × 0.16	0.22	不整形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-62	X : 149 Y : 229	0.36 × —	0.13	長方形	—	—
P-63	X : 149 Y : 229	0.36 × 0.29	0.10	長方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-64	X : 156 Y : 226	0.24 × 0.23	0.19	不整形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-65	X : 156 Y : 226	0.21 × —	0.10	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-66	X : 156 Y : 226	0.24 × 0.23	0.26	方形	—	—
P-67	X : 156 Y : 226	0.39 × 0.26	0.25	円形	—	—
P-68	X : 156 Y : 226	0.39 × 0.26	0.18	長方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-69	X : 156 Y : 226	0.26 × —	0.20	方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-70	X : 156 Y : 226	0.36 × 0.30	0.24	長方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-71	X : 156 Y : 226	0.24 × 0.26	0.06	円形	—	—
P-72	X : 156 Y : 226	0.22 × 0.29	0.20	円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-73	X : 156 Y : 226	0.23 × 0.23	0.24	円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-74	X : 156 Y : 226	0.18 × 0.19	0.06	椭円形	—	—
P-75	X : 157 Y : 226	0.29 × —	0.19	長方形	—	—
P-76	X : 158 Y : 226	0.14 × —	0.12	方形状	—	—
P-77	X : 156 Y : 226	0.16 × —	0.03	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-78	X : 156 Y : 226	0.14 × —	0.09	円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-79	X : 156 Y : 226	0.17 × 0.16	0.11	円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-80	X : 156 Y : 226	0.30 × 0.23	0.26	長方形	—	—
P-81	X : 156 Y : 226	0.29 × 0.13	0.67	長方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-82	X : 156 Y : 226	0.34 × 0.23	0.45	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-83	X : 156 Y : 226	0.45 × 0.34	0.52	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-84	X : 156 Y : 226	0.26 × 0.28	0.32	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック・砂化粒混入。
P-85	X : 156 Y : 226	0.30 × —	0.17	方形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-86	X : 156 Y : 226	0.33 × —	0.25	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-87	X : 156 Y : 227 ~ 238	0.19 × —	0.47	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-88	X : 156 Y : 227 ~ 238	0.36 × —	0.27	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-89	X : 156 Y : 228	0.21 × 0.20	0.42	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-90	X : 156 Y : 228	0.22 × 0.14	0.09	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-91	X : 156 Y : 228	0.16 × 0.15	0.15	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-92	X : 156 Y : 228	0.26 × —	0.94	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-93	X : 156 Y : 226	0.28 × —	0.82	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-94	X : 156 Y : 226	0.20 × 0.19	0.33	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-95	X : 156 Y : 226	0.29 × 0.22	0.27	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-96	X : 156 Y : 227	0.36 × —	0.60	椭円形	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-97	X : 156 Y : 228	0.20 × 0.28	0.56	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-98	X : 157 Y : 226	0.39 × 0.24	0.30	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-99	X : 156 Y : 226	0.19 × —	0.15	方形状	—	—
P-100	X : 156 Y : 226	0.24 × —	0.24	—	—	—
P-101	X : 156 Y : 226	0.32 × 0.26	0.13	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-102	X : 156 Y : 226	0.27 × 0.23	0.30	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック・砂化粒混入。
P-103	X : 157 Y : 226	0.49 × 0.36	0.67	不整形	—	—
P-104	X : 157 Y : 226	0.26 × 0.35	0.19	方形状	—	—
P-105	X : 157 Y : 226	0.32 × 0.36	0.23	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-106	X : 157 Y : 237	0.32 × —	0.16	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-107	X : 157 Y : 237 ~ 238	0.26 × —	0.13	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-108	X : 157 Y : 237 ~ 238	0.36 × 0.27	0.26	具足形	—	—
P-109	X : 157 Y : 238	0.22 × 0.16	0.05	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-110	X : 157 Y : 238	0.38 × —	0.67	不整形	—	—
P-111	X : 157 Y : 237	0.22 × 0.14	0.12	椭円形	—	—
P-112	X : 157 Y : 237	0.24 × 0.19	0.21	椭円形	—	—
P-113	X : 157 Y : 237	0.28 × 0.23	0.32	不整形	—	—
P-114	X : 157 Y : 237	0.20 × —	0.18	方形状	—	—
P-115	X : 157 Y : 238	0.29 × —	0.13	不整形	—	—
P-116	X : 157 Y : 238	0.24 × 0.22	0.18	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック・砂化粒混入。
P-117	X : 157 Y : 236	0.23 × 0.22	0.08	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック・無土粒・砂化粒混入。
P-118	X : 157 Y : 238	0.24 × —	0.61	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-119	X : 157 Y : 236	0.18 × —	0.14	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-120	X : 157 Y : 236	0.32 × —	0.32	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-121	X : 157 Y : 236	0.35 × —	0.15	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-122	X : 157 Y : 238	0.16 × 0.13	0.05	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-123	X : 157 ~ 158 Y : 238	0.26 × —	0.08	方形状	—	黒褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-124	X : 157 ~ 158 Y : 238	— × —	0.11	椭円形	—	—
P-125	X : 157 Y : 236	0.29 × —	0.29	方形状	—	—
P-126	X : 146 Y : 229	0.18 × —	0.04	不整形	—	暗褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-127	X : 147 ~ 148 Y : 229	0.36 × 0.28	0.10	不整形	—	暗褐色の埋合土に粒状砂層ブロック混入。
P-128	X : 148 Y : 229	0.39 × —	0.37	椭円形	—	—

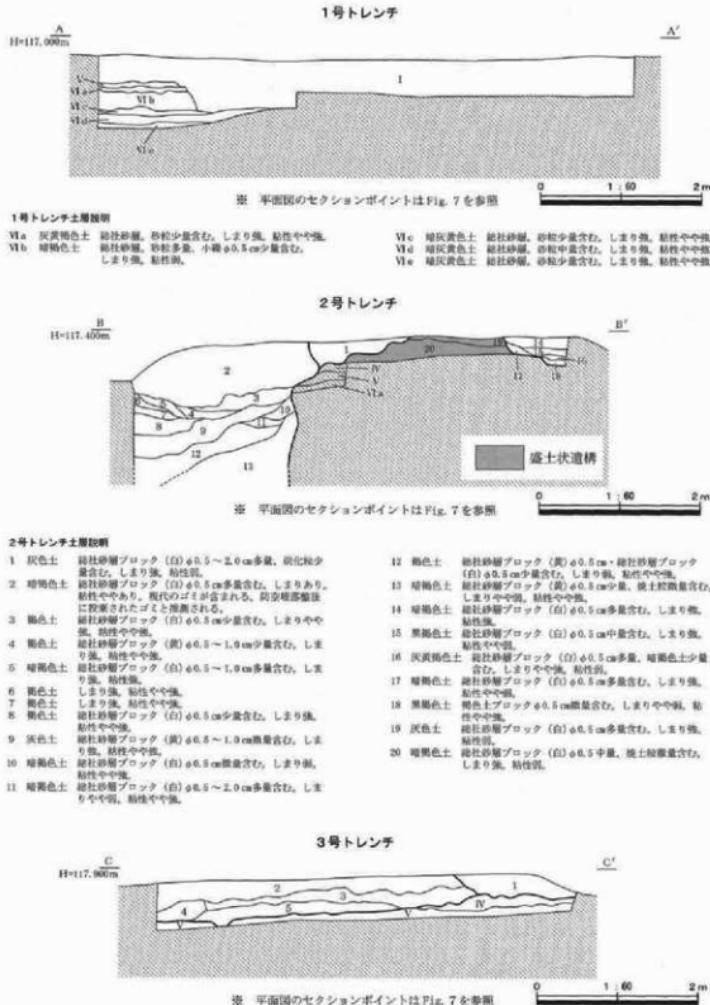


Fig. 10 1～3号トレンチ

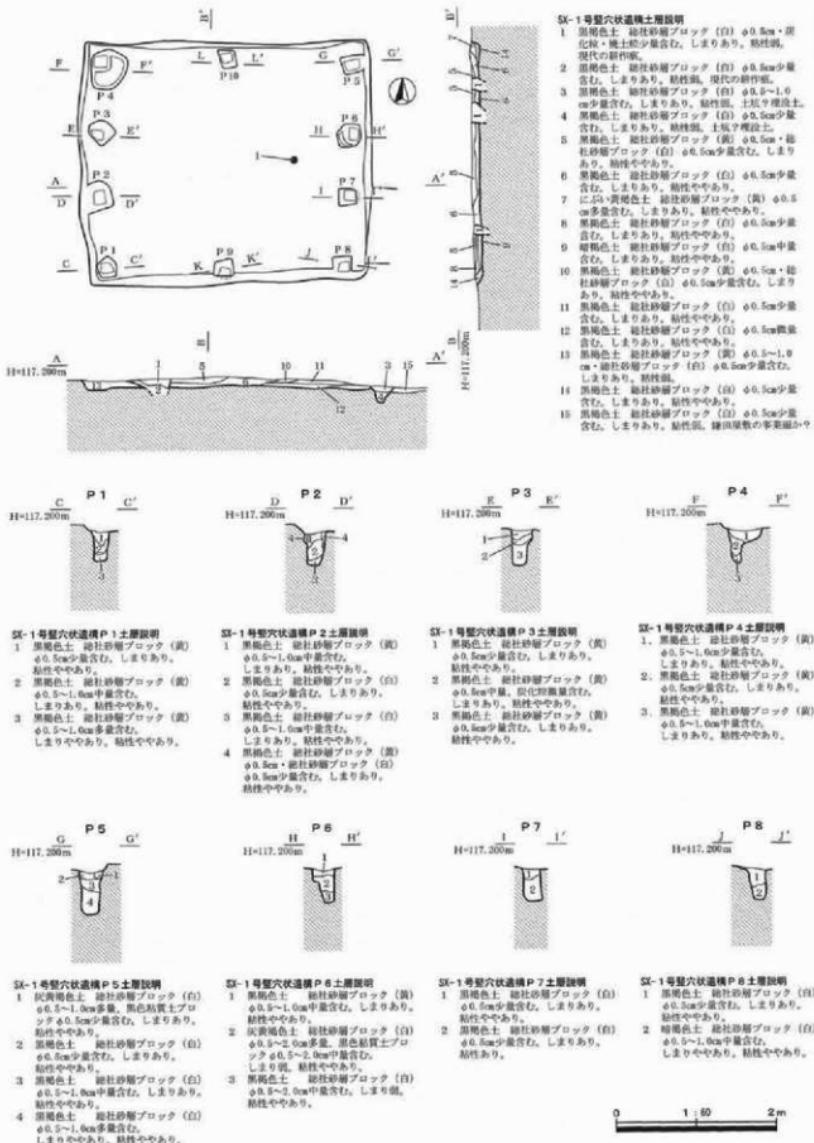


Fig. 11 SX-1号堅穴状造構①

	K	P G	K'	H=117.200m
SX-1号堅穴状遺構 P 9 土層説明				
1 黒褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。				
2 黒褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。				
3 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 中量含む。しまり強。粘性ややあり。				
4 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 少量含む。しまり強。粘性ややあり。				
	L	P 10	L'	H=117.200m
SX-1号堅穴状遺構 P 10 土層説明				
1 黒褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5 \sim 10.0$ cm 多量含む。しまりあり。粘性ややあり。				
2 黒褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5 \sim 10.0$ cm 中量含む。しまりあり。粘性ややあり。				
3 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。				

Fig. 12 SX-1号堅穴状遺構②

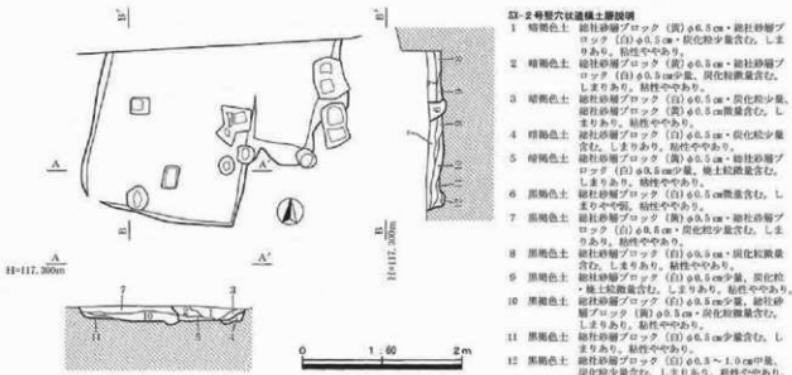
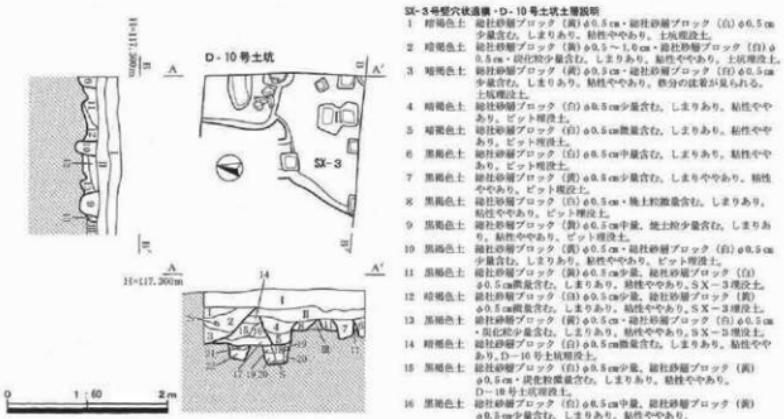


Fig. 13 SX-2号堅穴状遺構



- 17 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-10号土坑壁土。
- 18 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 中量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット理土。柱底に想定される層。
- 19 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 中量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット理土。柱底に想定される層。
- 20 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 中量含む。しまりあり。粘性やややあり。ビット理土。柱底に想定される層。
- 21 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 中量含む。しまり強。粘性やややあり。ビット理土。
- 22 黑褐色土 緩社砂層ブロック (高) $\phi 0.5$ cm 中量含む。しまり強。粘性やややあり。ビット理土。

Fig. 14 SK-3号堅穴状遺構・D-10号土坑

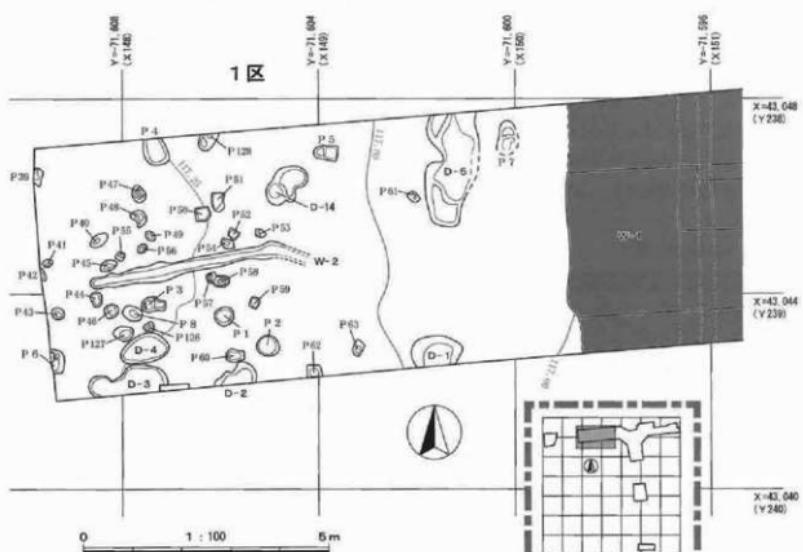


Fig. 8 9地点造構分布詳細図①

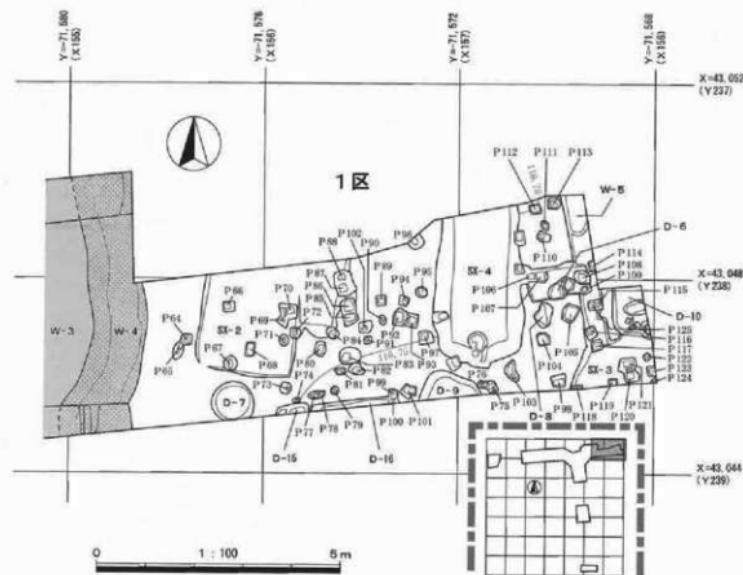


Fig. 9 9地点遺構分布詳細図②

の形状等から中世段階と想定される。

3 土坑 (遺構: Fig. 8・9・14・16、Tab. 2、PL. 4)

9地点において土坑は16基確認されているが、井戸であるD-7号土坑を除き、性格及び時期を捉えられなかつた。各土坑の計測値等はTab. 2に示してある。

Tab. 2 9地点土坑一覧表

遺構名	グリッド	規格 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-1	X:149 Y:239	1.05 × —	0.19	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・種・炭化粒混入。
D-2	X:148 Y:239	0.84 × —	0.18	不整形	—	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-3	X:147・148 Y:239	1.62 × —	0.21	不整形	—	黒褐色の埋没土にA s-B・総社砂層ブロック混入。
D-4	X:148 Y:239	1.09 × 0.58	0.18	楕円形	—	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-5	X:149 Y:238	1.04 × —	0.13	不整形	—	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化粒混入。
D-6	X:157 Y:238	0.56 × 0.38	0.61	不整形・円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-7	X:155 Y:238	0.87 × —	3.81	円形	—	井戸周囲、黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-8	X:157 Y:238	0.50 × 0.35	0.39	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-9	X:156・157 Y:238	1.39 × —	0.07	楕丸長方形?	—	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-10	X:157 Y:238	— × —	0.79	楕丸方形?	古鉢	黒褐色の土の埋没土に総社砂層ブロック・炭化粒混入。ビットの痕跡が見られる。
D-11	X:144 Y:239	0.54 × 0.32	0.12	楕円形	—	暗灰青色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-12	X:144 Y:239	0.48 × 0.46	0.09	不整形	—	暗灰青色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-13	X:145 Y:239	0.53 × —	0.15	楕丸長方形	—	暗灰青色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-14	X:148 Y:238	0.96 × 0.60	0.11	不整形	—	木根ぬき。
D-15	X:156 Y:238	0.68 × —	0.24	楕丸長方形?	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-16	X:156 Y:238	— × —	0.14	方形?	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。

4 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 7・21・23、P.L. 2・3／遺物：Fig. 24、Tab. 5、P.L. 4）

位置：X：150～152、Y：238～240 グリッド。主軸方位：N-3°-W。重複：重複はみられない。規模：上端幅 10.15 m、下端幅 2.29 m を測る。本堀は蒼海城縄張り図（Fig. 4）で示されている新段階の蒼海城「鎌田屋敷」西側を南北方向に走行する堀と想定されるものである。断面形態：逆台形状を呈する。残存深度：3.31 m。底面の状態：湧水のため詳細な状態は捉えられなかったが、比較的平坦な形状を呈する。走行方向への傾斜は不明。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロック・A s-Y Pを含む暗褐色・黒褐色・ぶい黄褐色・灰色の土による人為埋没と想定される。断面の観察により、堀の埋め戻し事実は3時期に分類することができている。なお、最終期の埋め戻しは近代以降と想定される。総社砂層ブロックに風化現象が見られないことや、標準堆積土層の下位で見られる黒色粘質土やA s-Y Pが埋没土中に混入することから土星の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より軟質陶器内耳鍋が出土している。時期：15世紀代～17世紀前半と想定される。備考：蒼海城「鎌田屋敷」新段階の堀と想定される。

W-2号溝（遺構：Fig. 7）

位置：X：147・148、Y：238 グリッド。主軸方位：N-79°-EからN-71°-Wへ走行方向を変化させる。重複：重複はみられない。規模：上端幅 0.41 m、下端幅 0.20 m を測る。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.10 m。底面の状態：凸凹が顕著に見られる。西から東へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む黒褐色の土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

W-3号溝（遺構：Fig. 7・17～20・22、P.L. 3）

位置：X：154・156、Y：237～239 グリッド。主軸方位：N-5°-W。重複：SX-1号堅穴状遺構・W-4号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝はSX-1号堅穴状遺構・W-4号溝より古い。規模：上端幅 4.56 m、下端幅 0.50 m を測る。断面形態：「V」字状を呈する。残存深度：2.98 m。底面の状態：湧水のため詳細な状態は捉えられなかったが、比較的平坦な形状を呈する。走行方向への傾斜は不明。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロック・A s-Y Pを含む暗褐色・黒褐色・灰黄褐色・灰白色の土による人為埋没と想定される。埋没土の状況を観察すると、埋め戻されている土は地山層と非常に類似している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-1号溝との関係を考慮すると 15世紀代以前と想定される。備考：蒼海城「鎌田屋敷」古段階の堀と想定される。

W-4号溝（遺構：Fig. 7・17～20・22、P.L. 3／遺物：Fig. 24、Tab. 5、P.L. 4）

位置：X：154・155、Y：237・238 グリッド。主軸方位：N-20°-EからN-8°-Wへ走行方向を変化させる。重複：W-3号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝はW-3号溝より新しい。規模：上端幅 1.50 m、下端幅 0.66 m を測る。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.46 m。底面の状態：多少の凸凹が見られる。南から北へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：総社砂層ブロック・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。なお、混入する総社砂層ブロックには、厚く堆積する総社砂層の中位から下位で確認されるものが見られる。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-3号溝との関係を考慮すると 15世紀代以降と想定される。

W-5号溝（遺構：Fig. 7）

位置：X：157、Y：237・238 グリッド。主軸方位：N-11°-W。重複：SX-3号堅穴状遺構、P.108・109・

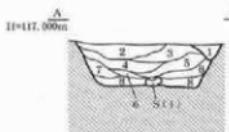
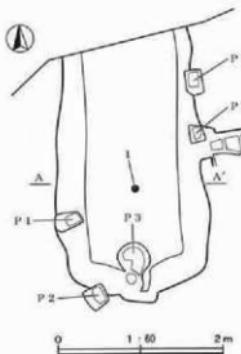
114～117・125と重複するが、新旧関係は不明。規模：上端幅0.50m、下端幅0.38mを測る。断面形態：箱状を呈する。残存深度：0.10m。底面の状態：北側で段差が見られる。表面の状態は、多少の凸凹が見られるが比較的平坦である。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む黒褐色の土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

5 ピット（遺構：Fig. 8・9、Tab. 3・4）

9地点においてピットは128基確認されている。分布状況はW-1・3号構及びFW-1号構に付随する土壌（盛土状遺構）周辺以外に集中する傾向にある。各ピットの計測値等はTab. 3・4に示してある。

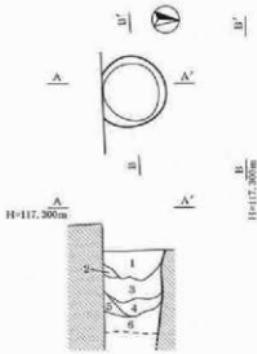
Tab. 3 9地点ピット一覧表①

遺構名	グリッド	標高 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-1	X:148 Y:239	0.40 × 0.38	0.22	内削	-	黒褐色の堆土に総社砂層ブロック混入。
P-2	X:149 Y:239	0.42 × 0.38	0.37	円形	-	黒褐色の堆土に総社砂層ブロック混入。
P-3	X:148 Y:239	0.48 × 0.30	0.42	不規則	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-4	X:148 Y:238	1.00 × -	0.30	箱円筒?	-	塊化・堅骨灰土。
P-5	X:148+149 Y:238	0.40 × 0.30	0.30	不規則	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-6	X:147 Y:239	- × -	0.36	不規則	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-7	X:148 Y:238	- × -	0.19	箱円筒?	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-8	X:148 Y:239	0.36 × -	0.97	不規則	-	暗褐色の埋没土に焼土や砂層ブロック混入。
P-9	X:144 Y:239	0.14 × -	0.21	円形	-	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-10	X:144 Y:238	0.29 × -	0.19	不規則	-	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-11	X:144 Y:238	0.18 × 0.17	0.96	方型	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-12	X:144 Y:239	0.20 × 0.16	0.18	長方形	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-13	X:144 Y:239	0.18 × 0.16	0.16	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-14	X:144 Y:239	0.23 × 0.18	0.87	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-15	X:144 Y:239	0.32 × 0.26	0.96	円形	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-16	X:144 Y:238	0.40 × 0.38	0.69	内削	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-17	X:144 Y:239	0.28 × 0.28	0.67	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-18	X:144 Y:239	0.42 × 0.26	0.65	不規則	-	黒褐色土の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-19	X:144 Y:239	0.32 × 0.26	0.09	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-20	X:144 Y:239	0.21 × 0.15	0.16	長方形	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-21	X:144 Y:239	0.23 × 0.23	0.14	方型	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-22	X:144 Y:239	0.25 × 0.24	0.86	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-23	X:144 Y:239	0.16 × -	0.67	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-24	X:144 Y:239	0.36 × 0.29	0.97	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-25	X:144 Y:239	0.20 × 0.16	0.18	長方形	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-26	X:144 Y:239	0.22 × -	0.63	箱円筒?	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-27	X:144 Y:239	0.24 × -	0.93	方型	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-28	X:144 Y:239	0.16 × -	0.99	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-29	X:144 Y:239	0.12 × -	0.67	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-30	X:144+145 Y:239	0.19 × 0.16	0.36	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-31	X:145 Y:239	0.22 × 0.16	0.12	方型	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-32	X:145 Y:239	0.24 × -	0.18	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-33	X:145 Y:239	0.30 × -	0.28	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-34	X:144 Y:239	0.20 × 0.10	0.69	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-35	X:144 Y:239	0.26 × 0.18	0.68	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-36	X:145 Y:239	0.24 × -	0.13	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-37	X:144+145 Y:239	0.26 × 0.16	0.21	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-38	X:145 Y:239	0.22 × 0.19	0.68	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-39	X:147 Y:238	0.36 × -	0.12	不規則	-	-
P-40	X:147 Y:238	0.42 × 0.24	0.68	箱円筒	-	-
P-41	X:147 Y:238	0.22 × 0.14	0.23	箱円筒	-	-
P-42	X:147 Y:238	0.30 × -	0.27	箱円筒?	-	-
P-43	X:147 Y:238	0.28 × 0.24	0.26	箱円筒	-	-
P-44	X:147 Y:238+239	0.30 × 0.22	0.06	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-45	X:147 Y:238	0.30 × 0.21	0.16	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-46	X:147 Y:238	0.20 × 0.20	0.06	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-47	X:146 Y:238	0.36 × 0.20	0.30	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・燒土・炭化灰混入。
P-48	X:146 Y:238	0.32 × 0.20	0.09	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・燒土・炭化灰混入。
P-49	X:146 Y:238	0.24 × 0.17	0.11	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-50	X:146 Y:238	0.32 × 0.20	0.10	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-51	X:146 Y:238	0.28 × 0.20	0.22	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-52	X:146 Y:238	0.21 × 0.20	0.04	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-53	X:146 Y:238	0.22 × 0.15	0.15	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-54	X:146 Y:238	0.24 × 0.20	0.09	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土。
P-55	X:147+148 Y:238	0.17 × 0.17	0.10	方型	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-56	X:146 Y:238	0.24 × 0.17	0.05	箱円筒	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-57	X:146 Y:238	0.19 × -	0.20	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。
P-58	X:146 Y:238	0.24 × -	0.11	不規則	-	暗褐色土の埋没土に総社砂層ブロック・焼土・炭化灰混入。



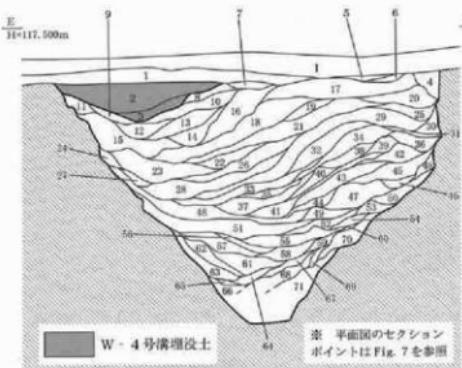
- SX-4号竖穴状构造土层说明**
- 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm中量。総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・腐化粘質土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm中量。黑色粘質土ブロック含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm中量。腐化粘質土含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm少量。黑色粘質土ブロックφ0.5cm中量。総社砂層ブロック含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm少量。総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm中量。黑色粘質土ブロック含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm少量。総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm中量。総社砂層ブロック含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm中量。総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量。黑色粘質土ブロックφ0.5cm多量含む。しまり強。粘性ややあり。

Fig. 15 SX-4号竖穴状构造



- D-7号土坑剖面图**
- 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・小磯φ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~2.0cm中量含む。しまりあり。粘性あり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~2.0cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
 - 黒褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

Fig. 16 D-7号土坑



- W-3・4号溝 (E-E') 土層説明**
- 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・白色粘石φ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-4号溝埋没土。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・白色粘石φ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-4号溝埋没土。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-4号溝埋没土。
 - 暗褐色土 φ0.5~1.0cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 黒色粘質土ブロックφ0.5cm少量含む。しまり弱。粘性弱。
 - 黒褐色土 黑色粘質土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm中量含む。A-B-B' 0.2m少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・黑色粘質土ブロックφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 黑色粘質土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5cm・黑色粘質土ブロックφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm中量。黑色粘質土ブロックφ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 - 暗褐色土 総社砂層ブロック（眞）φ0.5~1.0cm多量。黑色粘質土ブロックφ0.5~1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 17 W-3・4号溝 E-E' ①

W-3・4号溝（E-E'）土質説明②

Fig. 18 W-3・4号標E-E' ②(土層説明の7)

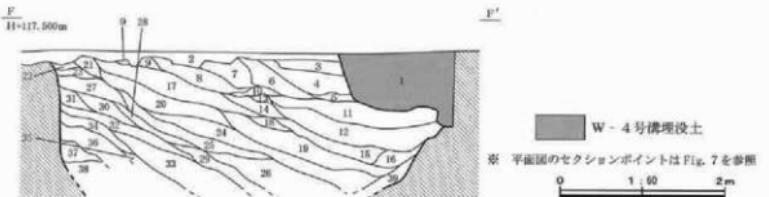


Fig. 19 W-3-4号溝F-F' (1)

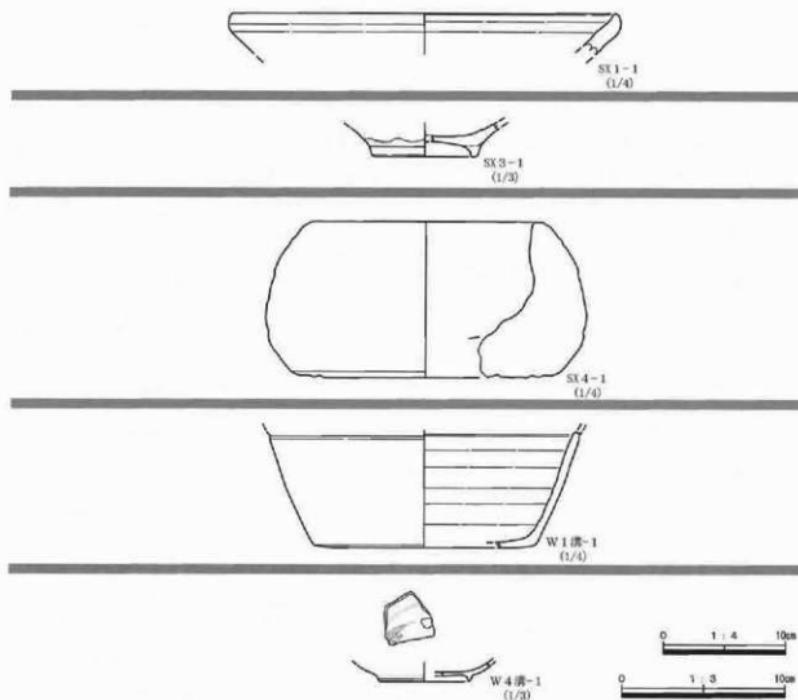


Fig. 24 9地点出土遺物

Tab. 5 9地点出土遺物観察表

SX-1号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 縹跡	口径(31.2) 底径(—) 器高(—)	①普通 ②灰色 ③白色紋・角閃石 ④口縁部～体部破片	外面 輸縫整形。 内面 輸縫整形。	

SX-3号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	穿孔器 瓶	口径(6.0) 底径(—) 器高(—)	①酸化気泡 ②灰～灰色 ③白色紋・角閃石・輝 ④体部～高台部1/3	外面 輸縫整形、底部凹凸切り。 内面 輸縫整形。	

SX-4号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 鉢	口径(18.8) 底径(22.0)	器高12.8 厚さ1,230 g	

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 耳鉢	口径(18.0) 底径(18.0) 器高(—)	①普通 ②外～黄色、内～灰色 ③白色紋・角閃石 ④体部～底部1/10	外面 体部上位横撫で、体部是撫で、底底周辺撫拂で、底底無調整。 内面 輸縫整形。	

W-4号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縹跡 皿	口径(5.4) 底径(—) 器高(—)	④体部～高台部1/5	輸縫整形。	E群 16世紀中頃

VI 27 地点

1 27 地点概要 (遺構: Fig. 25 ~ 31, P.L. 5 ~ 6)

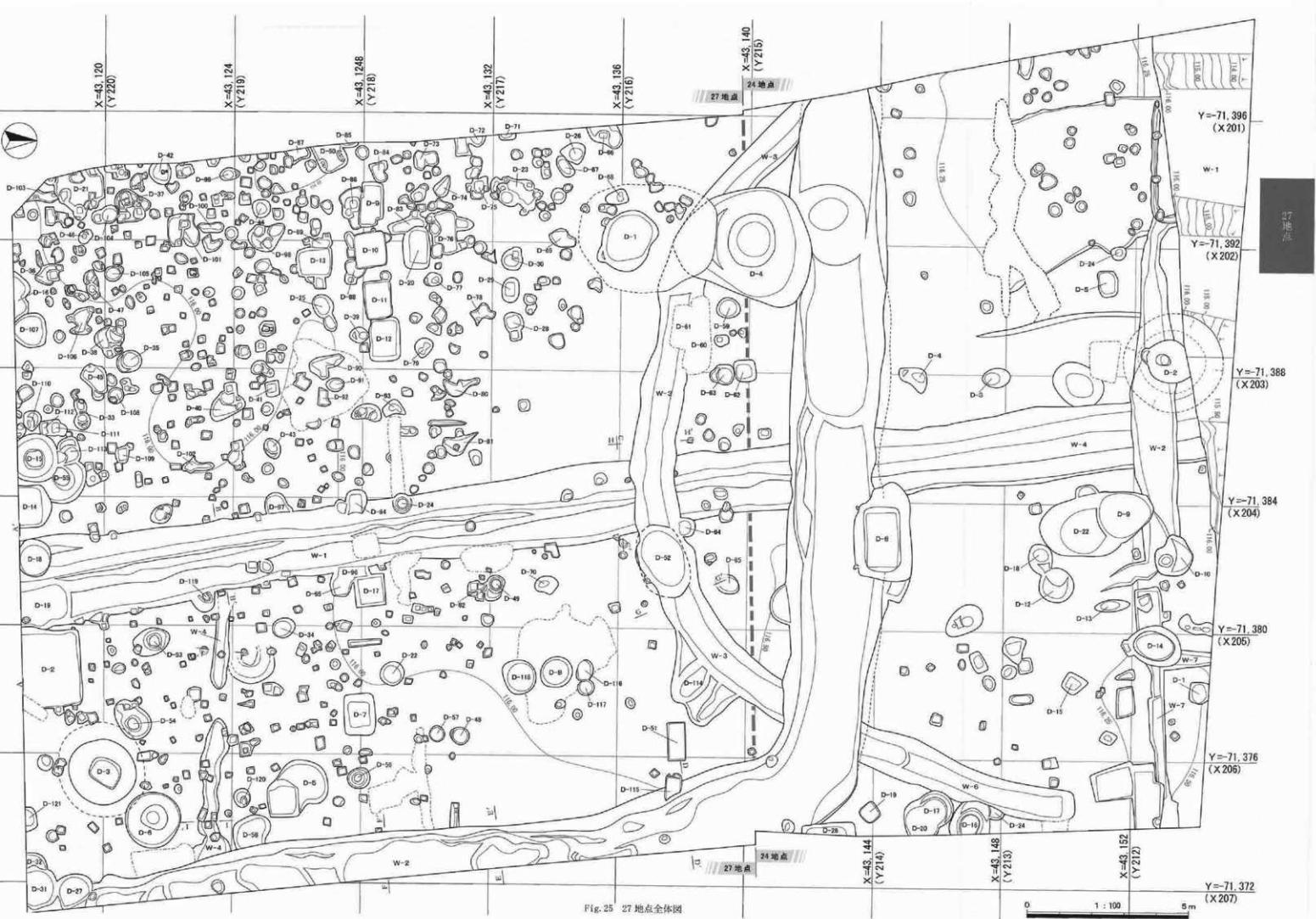
27 地点の調査では、土坑 121 基・溝 4 条・ピット 631 基が検出されており、上野国府及び蒼海城関連と想定される遺構が検出されている。土坑は調査を進めた結果、D-1・3・4・52 号土坑は井戸、D-2 号土坑は竪穴状遺構であることが判明している。なお、D-4 号土坑は、『元総社蒼海遺跡群 (23)』24 地点 (以下、24 地点) における D-7 号土坑と同一遺構である。これら、井戸及び竪穴状遺構を含めた土坑のほとんどは、蒼海城に関連する遺構と考えられるが、上野国府 (平安時代) に關連する土坑も少ないものの確認されている。上野国府に關連する土坑は D-3・29 号土坑で、主に 11 世紀代の遺物が出土している。蒼海城に関わる土坑は、先述のとおり多数確認されているが、特異なものとして D-1 号土坑 (井戸) が挙げられる。同遺構の埋没土からは、焼土が多量に出土しており、この状況は、蒼海城古段階の堀と考えられる W-2 号溝 (24 地点 W-5 号溝) の埋没土と同様と言えるものである。なお、混入する焼土には土壁が焼けたものも含まれている。おそらく、蒼海城の改修に伴って、埋め戻されたものと考えられよう。また、本土坑周辺には W-3 号溝・D-4 号土坑と時期を遡る遺構が集中しており、古い順から D-1 号土坑 (蒼海城古段階の井戸) → W-3 号溝 (蒼海城新段階の馬出か?) → D-4 号土坑 (蒼海城新段階以降の井戸) となっている。その他、土坑としているものの中には、掘立柱建物跡の柱穴となり得るものも多数存在しているものと想定されるが、本報告においては、個別土坑の観察記載までとしており、建物構造の検討までは行っていない。

溝は、大きく平安時代・15 世紀後半・15 世紀後半以降の 3 時期に分類することができる。平安時代に帰属するものは W-1 号溝で、南北方向へ直線的に走行するものである。同溝は 24 地点の W-4 号溝と同一遺構で、長距離にわたり直線的に走行することから上野国府との関連性が指摘されるものである。15 世紀後半に比定される溝は W-2 号溝で同溝も 24 地点 W-5 号溝からの継続である。同溝については蒼海城古段階の堀と認識しており、埋没土中から多量のカワラケ・貿易陶磁・在地陶器・石製品等が出土するとともに、炭化材の混入が見られる。溝からの炭化材の出土は、郭内の建物が火災にあったことを示すもので、焼け落ちて不要となった建物の材や家財道具を土壘とともに堀に埋めたものと推測される。15 世紀後半以降の溝は W-3 号溝 (24 地点 W-6 号溝) と W-4 号溝で、W-3 号溝は蒼海城新段階の馬出と推測される。W-4 号溝は、直線的に走行するものの、細かく蛇行しており、埋没土中から 16 世紀代に比定される内耳鏡が出土している。なお、同溝は、蒼海城の堀のように意図的な掘り込みがなされておらず、性格は不明瞭である。

ピットは平面方形状を呈するものが多く見られ、郭内における建物の痕跡を示すものと言える。また、掘り込みが、浅いピット (束柱と想定される) は W-1 号溝より西側に集中する傾向が見られる。

2 土坑 (遺構: Fig. 25 ~ 31・32 ~ 37, Tab. 6・7, P.L. 8・9 / 遺物: Fig. 44・45, Tab. 16・17, P.L. 12)

27 地点において土坑は 121 基確認されている。このうち、D-1・3・4・52 号土坑は井戸で、D-2 号土坑は竪穴状遺構として判断している。なお、D-3 号土坑は平安時代 (上野国府関連)、D-1 号土坑は 15 世紀後半 (蒼海城古段階)、D-52 号土坑は 15 世紀後半以前 (蒼海城新段階以前)、D-4 号土坑は 17 世紀前半以降 (蒼海城廃絶後) に帰属するものと想定される。その他、D-29 号土坑から平安期の遺物が良好な状態で出土している。また、本報告では土坑として掲載したが、蒼海城の郭内に構築された掘立柱建物の柱穴になり得るもののが多量存在するものと推測される。これら柱穴となり得る土坑は、分布状況から蒼海城古段階の堀と想定される W-2 号溝に伴うものと考えられるものである。各土坑の計測値等は Tab. 6・7 に示してある。



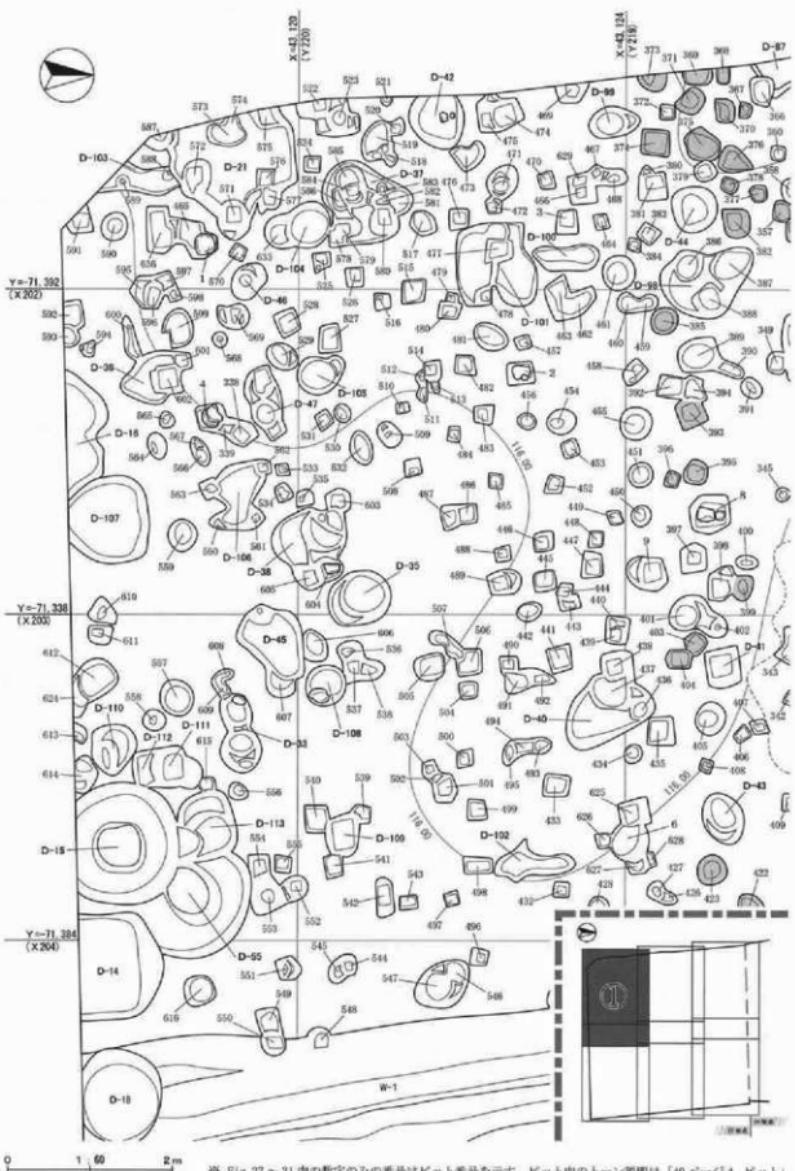


図 Fig. 27～31 内の数字のみの番号はピット番号を示す。ピット内のトーン説明は「40 ページ 4 ピット」を参照

Fig. 26 27 地点遺構分布詳細図①

27
地

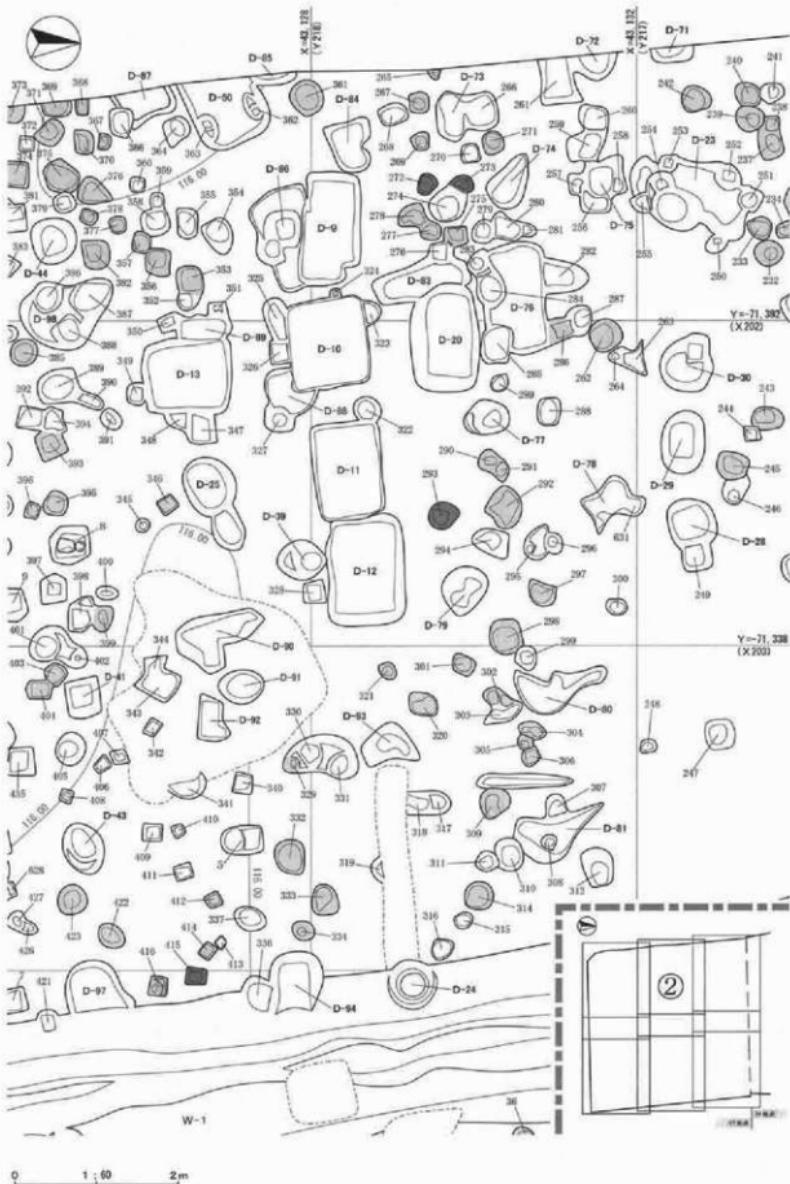


Fig. 27 27 地点遺構分布詳細図②

27 地点

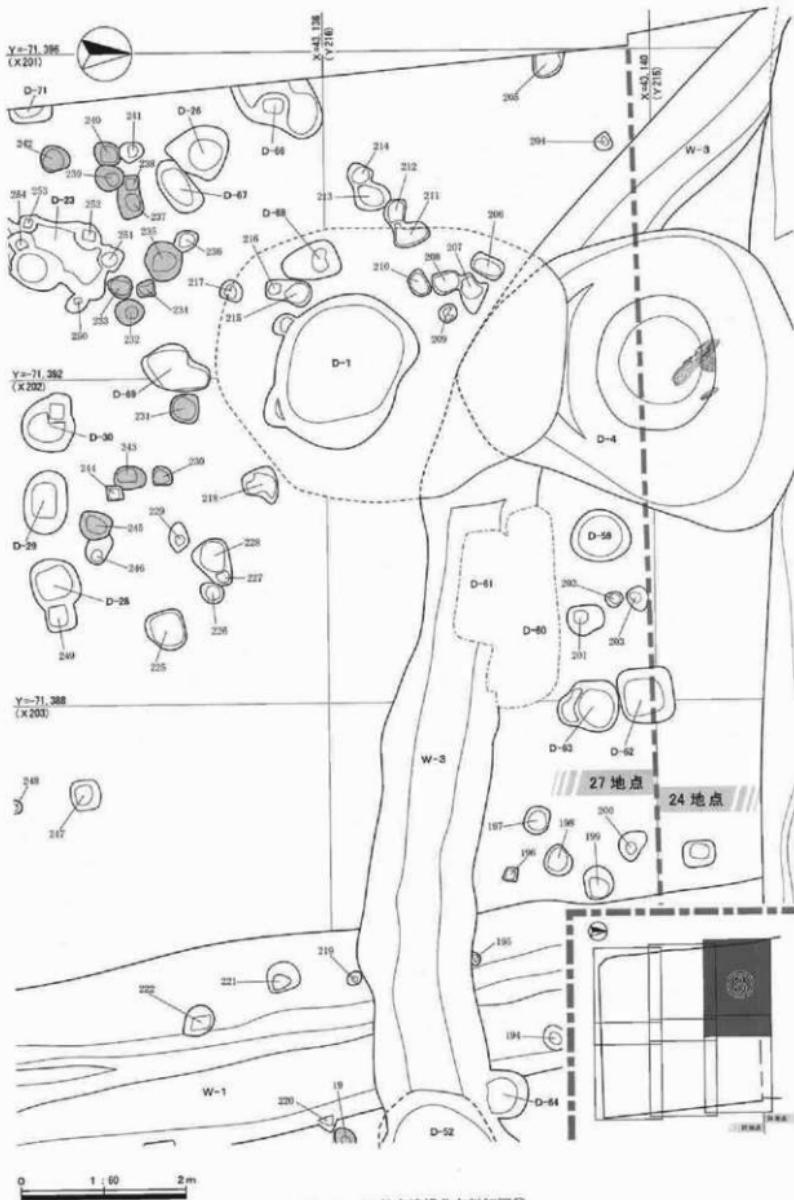


Fig. 28 27 地点遺構分布詳細図③

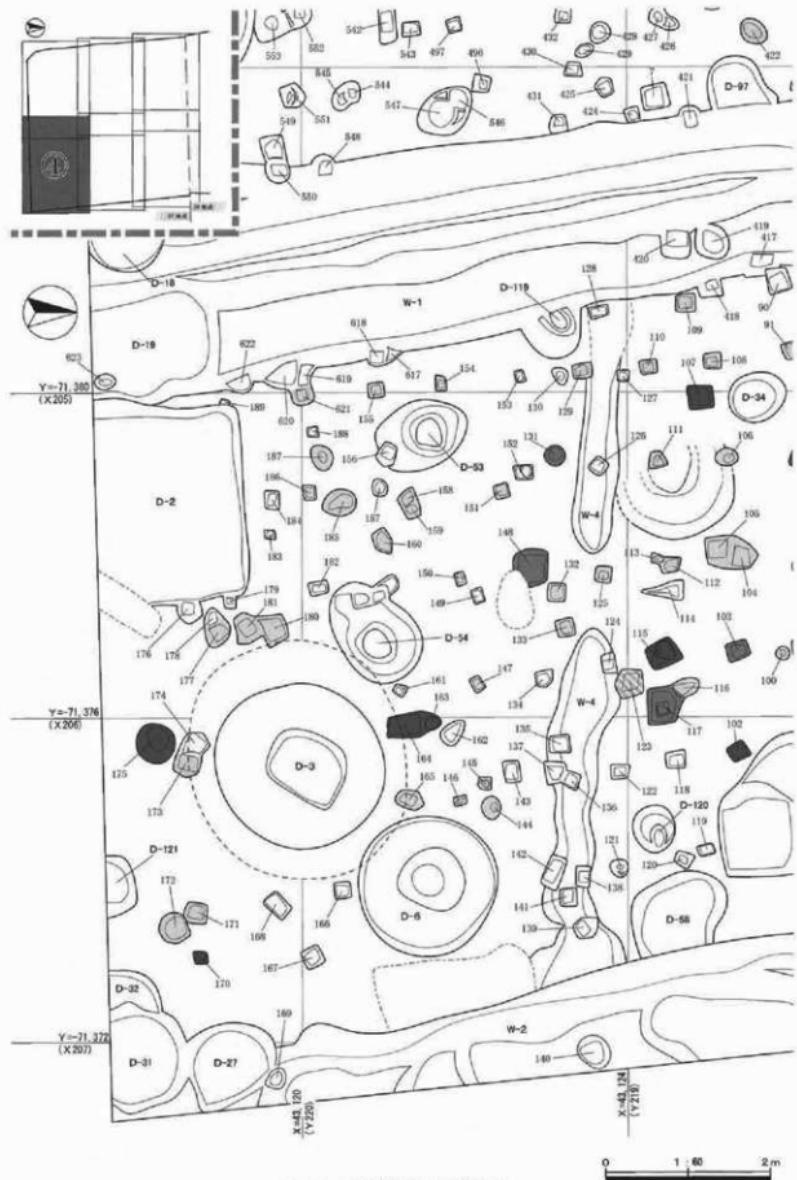


Fig. 29 27 地点遺構分布詳細図④

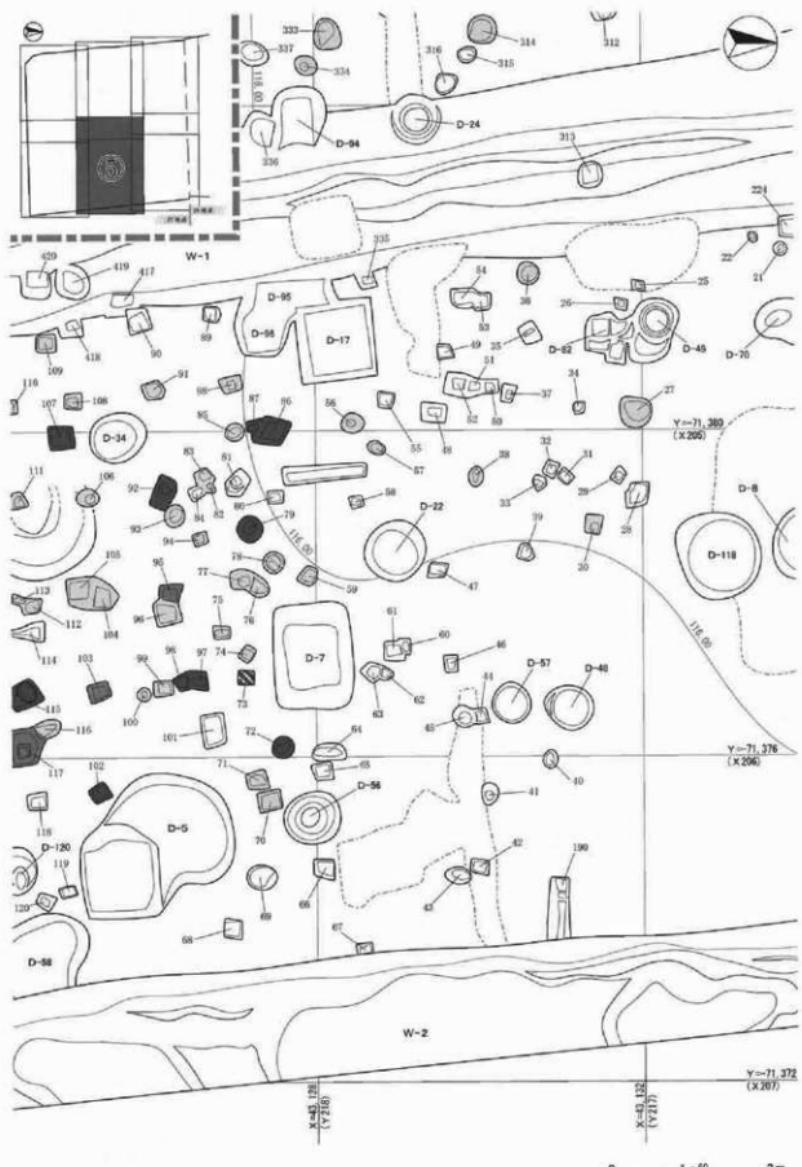


Fig. 30 27地点遺構分布詳細図⑤

27 地点

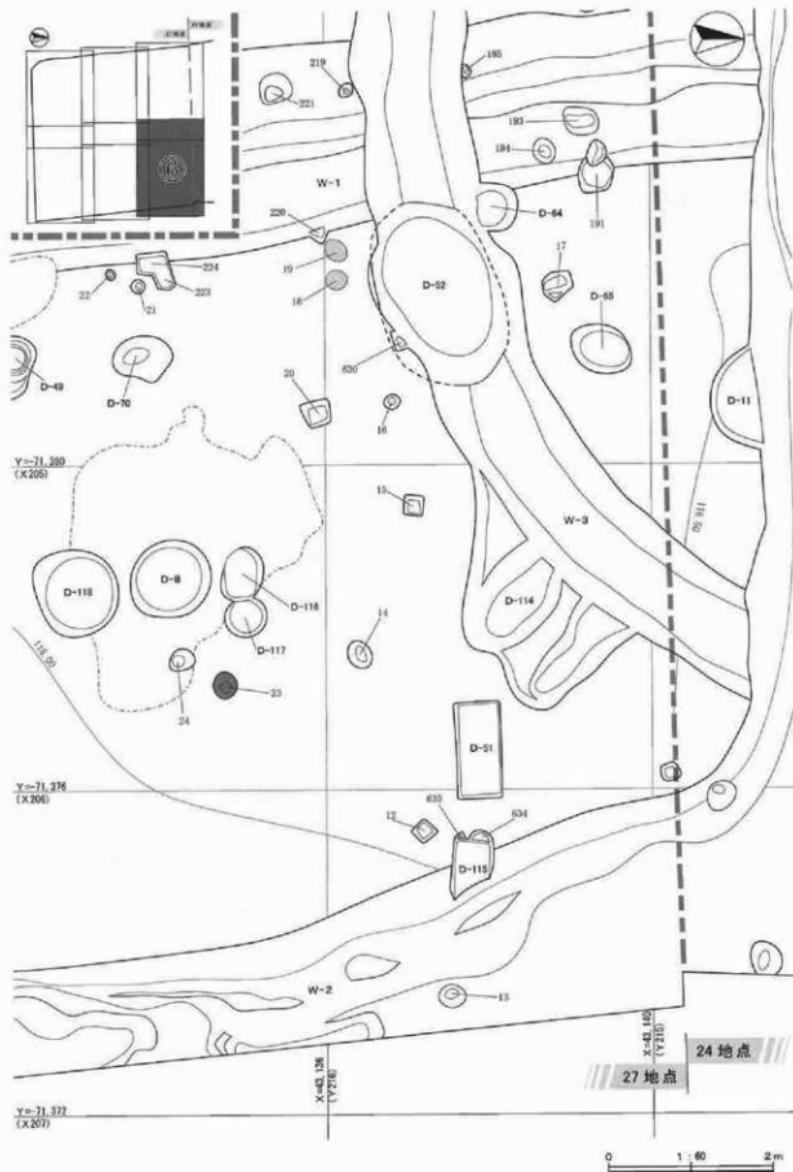


Fig. 31 27 地点造構分布詳細図⑥

Tab. 6 27 地点土坑一覧表①

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面布形	遺物	備考
D-1	X : 201・202 Y : 215・216	1.84 × 1.82	2.56	楕円形	カフラケ ・陶器	井戸跡。埋没土中から発けた土壤出土。暗褐色・灰褐色・黄褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土・土壁等。
D-2	X : 205 Y : 220	2.42 × -	0.17	方形?	カフラケ	蛇穴状結構。暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼土粒混入。
D-3	X : 205・206 Y : 219・220	2.10 × 2.04	2.60	円形	軋轍跡	井戸跡。埋没土中から平安時代の鐵劍頭出土。埋没土下位に燒土・炭化物層。焼土・土壁等。
D-4	X : 201・202 Y : 214・215	2.70 × -	0.30	楕円形	陶器 須恵器	蛇穴状結構。暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼土粒混入。
D-5	X : 206 Y : 218	2.08 × 1.60	1.50	不整形	近世陶器	井戸跡。暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・A-s-B
D-6	X : 206 Y : 219	1.72 × 1.60	0.28	円形	近世陶器	井戸跡。埋没土上位に近世後陣の陶器片が多量に投棄される。上部焼落層・暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-7	X : 205 Y : 217・218	1.29 × 0.98	0.37	長方形	近世陶器	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。人為埋設。
D-8	X : 205 Y : 216	1.00 × 0.98	0.66	円形	近世陶器	黒褐色・灰褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小甕混入。
D-9	X : 201 Y : 217・218	1.40 × 0.72	0.22	長方形	カフラケ	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-10	X : 201・202 Y : 217・218	1.10 × 0.98	0.61	方形	近世陶器	灰褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-11	X : 202 Y : 217	1.20 × 0.84	0.33	長方形	近世陶器	黒褐色・灰色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-12	X : 202 Y : 217	1.32 × 0.95	0.42	長方形	近世陶器	灰色の土に総社砂層ブロック混入。
D-13	X : 205 Y : 218	1.10 × 0.98	1.36	不整形	近世陶器	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-14	X : 204 Y : 220	1.30 × -	0.25	長方形?	近世陶器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-15	X : 203 Y : 220	1.50 × -	0.58	円形?	近世陶器	暗褐色・灰褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-16	X : 202 Y : 220	1.56 × -	0.14	不整形	近世陶器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小甕混入。
D-17	X : 204 Y : 217・218	0.98 × 0.94	0.77	方形	カフラケ ・青花	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-18	X : 204 Y : 220	1.15 × 1.10	0.27	円形	近世陶器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-19	X : 204 Y : 220	1.30 × -	0.35	不整形	近世陶器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-20	X : 201・202 Y : 217	1.32 × 0.86	0.78	楕円形	近世陶器	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒・小甕混入。
D-21	X : 201 Y : 220	1.56 × -	0.12	不整形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-22	X : 205 Y : 217	0.74 × 0.72	0.26	円形	近世陶器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-23	X : 201 Y : 216	1.50 × 0.98	0.45	不整形	カフラケ	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-24	X : 203・204 Y : 217	0.60 × 0.60	0.34	円形	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小甕混入。
D-25	X : 202 Y : 218	1.20 × 0.60	0.17	円形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-26	X : 201 Y : 216	0.74 × 0.78	0.10	不整形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-27	X : 206・207 Y : 220	1.12 × 0.94	0.60	円形	近世陶器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒・小甕混入。
D-28	X : 202 Y : 216	0.60 × 0.58	0.31	円形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒・小甕混入。
D-29	X : 202 Y : 216	0.78 × 0.94	0.36	楕円形	須恵器	須恵器の痕跡か? 暗褐色・黒褐色・に似る黄褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-30	X : 202 Y : 216	0.70 × 0.66	0.32	楕円形	須恵器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-31	X : 207 Y : 220	1.26 × -	0.73	円形?	-	灰色・暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒化物・燒土粒混入。
D-32	X : 206 Y : 220	0.62 × -	0.43	円形?	-	暗褐色・黑褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-33	X : 203 Y : 220	1.09 × 0.80	0.38	不整形	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒・小甕混入。
D-34	X : 204・205 Y : 218	0.68 × 0.82	0.17	円形	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-35	X : 202・203 Y : 219	0.89 × 0.78	0.29	円形	更恵器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-36	X : 202 Y : 220	0.64 × 0.80	0.11	不整形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-37	X : 201 Y : 219	1.10 × 1.06	0.05	不整形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-38	X : 202 Y : 219・220	1.04 × 0.92	0.32	不整形	土師器 須恵器	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物混入。
D-39	X : 202 Y : 217・218	0.69 × 0.80	0.40	楕円形	-	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒・小甕混入。
D-40	X : 203 Y : 218・219	1.19 × 0.70	0.19	不整形	カフラケ ・常滑 ・古窯	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-41	X : 203 Y : 218	0.48 × 0.42	0.30	方形	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-42	X : 201 Y : 219	0.67 × -	0.25	円形	古窯	暗褐色・黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-43	X : 203 Y : 218	0.66 × 0.59	0.28	長方形	カフラケ	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼化物・燒土粒・小甕混入。
D-44	X : 201 Y : 218	0.56 × 0.86	0.29	円形	須恵器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼化物・燒土粒混入。
D-45	X : 202・203 Y : 219・220	1.16 × 0.65	0.18	不整形	土師器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-46	X : 201・202 Y : 220	0.50 × 0.36	0.57	楕円形	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化物・燒土粒混入。
D-47	X : 202 Y : 220	0.92 × 0.44	0.29	不整形	カフラケ	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・焼化物・燒土粒・燒土粒混入。
D-48	X : 205 Y : 217	0.66 × 0.54	0.18	円形	軟質陶器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒化物・燒土粒・燒土粒混入。
D-49	X : 204 Y : 216・217	0.84 × 0.54	0.39	楕円形	近世陶器	暗褐色・に似る黄褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
D-50	X : 201 Y : 218	0.88 × -	0.18	長方形?	-	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒土粒混入。
D-51	X : 205・206 Y : 218	1.20 × 0.56	0.28	長方形	近世陶器	暗褐色の埋没土に総社砂層ブロック・燒化物・燒土粒混入。
D-52	X : 204 Y : 215	2.38 × 1.78	1.72	円形	陶器	井戸跡。W-3号溝より吉い。に似る黄褐色・褐色・灰褐色の埋没土に総社砂層ブロック・黑色粘質土混入。
D-53	X : 205 Y : 219	1.14 × 0.75	0.99	楕円形	-	-
D-54	X : 205 Y : 219	1.32 × 0.94	0.15	楕円形	-	-

Tab. 7 27 地点土坑一覧表②

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D- 55	X : 203・204 Y : 226	1.50 × -	0.25	円形	-	-
D- 56	X : 206 Y : 217・218	0.70 × 0.64	0.08	円形	-	-
D- 57	X : 205 Y : 217	0.50 × 0.48	0.05	円形	-	暗褐色の埋没土に緑柱砂層ブロック・炭化粒・焼土混入。
D- 58	X : 206 Y : 218	1.20 × -	0.03	椭円形?	-	-
D- 59	X : 204 Y : 215	0.81 × 0.63	0.32	円形	-	-
D- 60	X : 202 Y : 215	2.49 × 0.86	0.38	長方形	-	腐泥。
D- 61	X : 202 Y : 215	1.40 × 0.60	0.63	長方形	-	腐泥。
D- 62	X : 202・203 Y : 215	0.60 × -	0.14	方形	-	-
D- 63	X : 202・203 Y : 215	0.89 × 0.68	0.18	椭円形	-	-
D- 64	X : 204 Y : 215	0.50 × -	0.52	円形	-	-
D- 65	X : 204 Y : 215	0.89 × 0.60	0.24	椭円形	-	-
D- 66	X : 201 Y : 216	0.98 × -	0.39	椭円形?	-	-
D- 67	X : 201 Y : 216	0.70 × 0.37	0.05	椭円形	-	-
D- 68	X : 201 Y : 215・216	0.68 × 0.46	0.21	椭円形	-	-
D- 69	X : 201・202 Y : 216	0.86 × 0.58	0.02	不整形	-	暗褐色の埋没土に緑柱砂層ブロック・炭化粒・焼土混入。
D- 70	X : 203 Y : 216	0.75 × 0.58	0.16	椭円形	-	-
D- 71	X : 201 Y : 216	0.82 × -	0.40	方形?	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 72	X : 201 Y : 217	0.54 × -	0.14	椭円形?	-	-
D- 73	X : 201 Y : 217	0.60 × 0.38	0.12	椭円形	-	-
D- 74	X : 201 Y : 217	0.73 × 0.47	0.06	椭円形	-	-
D- 75	X : 201 Y : 217	- × -	0.25	不整形	-	-
D- 76	X : 201・202 Y : 217	1.40 × 0.76	0.06	長方形	-	-
D- 77	X : 202 Y : 217	0.56 × 0.43	0.17	椭円形	-	-
D- 78	X : 202 Y : 217	0.56 × 0.39	0.13	不整形	-	-
D- 79	X : 202 Y : 217	0.60 × 0.50	0.15	椭円形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 80	X : 203 Y : 217	0.76 × 0.55	0.02	不整形	-	-
D- 81	X : 203 Y : 217	0.72 × 0.47	0.07	不整形	-	-
D- 82	X : 204 Y : 217	0.62 × 0.59	0.07	不整形	-	-
D- 83	X : 201 Y : 217	1.20 × 0.45	0.07	椭円形	-	-
D- 84	X : 201 Y : 217	0.62 × 0.54	0.16	不整形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 85	X : 201 Y : 218	0.58 × -	0.23	椭円形?	-	-
D- 86	X : 201 Y : 218	1.24 × 0.73	0.34	長方形?	-	-
D- 87	X : 201 Y : 218	0.70 × -	0.04	長方形?	-	-
D- 88	X : 202 Y : 217・218	0.64 × 0.60	0.28	円形?	-	-
D- 89	X : 201・202 Y : 218	0.69 × -	0.12	長方形	-	-
D- 90	X : 202・203 Y : 218	1.12 × 0.70	0.08	不整形	-	-
D- 91	X : 203 Y : 218	0.66 × 0.43	0.12	椭円形	-	-
D- 92	X : 203 Y : 218	0.64 × 0.32	0.01	不整形	-	-
D- 93	X : 203 Y : 217	0.60 × 0.54	0.07	不整形	-	-
D- 94	X : 203・204 Y : 217	0.70 × -	0.04	椭円形?	-	-
D- 95	X : 204 Y : 217・218	1.16 × -	0.10	不整形	-	-
D- 96	X : 204 Y : 218	0.64 × -	0.10	方形	-	-
D- 97	X : 203・204 Y : 218	0.82 × -	0.16	椭円形?	-	-
D- 98	X : 201・201 Y : 218	0.90 × 0.44	0.85	不整形	-	-
D- 99	X : 201 Y : 219	0.64 × 0.38	0.22	椭円形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 100	X : 201 Y : 219	0.82 × 0.28	0.04	椭円形	-	-
D- 101	X : 201・202 Y : 219	1.04 × 0.98	0.09	不整形	-	-
D- 102	X : 203 Y : 219	0.98 × 0.45	0.01	不整形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 103	X : 201 Y : 220	- × -	0.04	不整形	-	-
D- 104	X : 201 Y : 219・220	0.54 × 0.54	0.36	円形	-	-
D- 105	X : 202 Y : 219	0.60 × 0.49	0.23	不整形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 106	X : 202 Y : 220	0.82 × 0.60	0.07	不整形	-	-
D- 107	X : 202 Y : 220	1.09 × 1.08	0.12	円形	-	-
D- 108	X : 203 Y : 219	0.54 × 0.48	0.21	円形	-	-
D- 109	X : 203 Y : 219	0.62 × 0.43	0.20	長方形	-	暗褐色の埋没土に炭化粒・小礫混入。
D- 110	X : 203 Y : 220	0.62 × 0.56	0.24	不整形	-	-
D- 111	X : 203 Y : 220	0.52 × -	0.58	不整形	-	-
D- 112	X : 203 Y : 220	0.47 × -	0.67	方形?	-	-
D- 113	X : 203 Y : 220	0.68 × -	0.06	椭円形	-	-
D- 114	X : 205 Y : 218	3.30 × -	0.19	不整形	-	-
D- 115	X : 206 Y : 215	0.63 × -	0.16	長方形?	-	-
D- 116	X : 205 Y : 216	0.66 × 0.52	0.12	椭円形	-	-
D- 117	X : 205 Y : 216	0.62 × 0.50	0.15	円形	-	-
D- 118	X : 205 Y : 216	1.07 × 1.04	0.28	円形	-	-
D- 119	X : 204 Y : 219	0.76 × -	0.09	椭円形	-	-
D- 120	X : 206 Y : 218	0.66 × 0.52	0.14	円形	-	-
D- 121	X : 206 Y : 220	0.78 × -	0.30	円形?	-	-

3 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 25・38、P.L. 6／遺物：Fig. 42、Tab. 14、P.L. 10）

位置：X：203～205、Y：215～220 グリッド。主軸方位：N-8°-W。重複：D-2・18・19・24・52・64・94・96・97・119号土坑、W-3・4号構、P-90・191・193・194・195・219・220・221・222・224・313・335・336・417・418・419・420・421・424・431・548・550・617・618・619・620・622・623と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は重複する全ての遺構より古い。規模：上端幅2.82m～1.74m、下端幅0.38m～0.12mを測る。断面形態：皿状を呈し、東半に低いテラス面を有する。残存深度：0.41m。底面の状態：北から南へ向けて標高を減ずる。凸凹は少ない。鉄分の沈着が見られる。遺構埋没状態：埋没土の状態から本溝は2時期に分類することができ、W-1a構、W-1b溝と名称を付してあり、断面形状で見られるテラス以下をW-1b溝、テラス以上をW-1a溝としている。W-1b溝の下位は砂粒・小礫・鉄分が多く含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土により埋没している。この状況は、比較的強い水流によって埋没したことを示すものである。W-1a溝は総社砂層ブロック・小礫・炭化粒・焼土を含む暗褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：W-1b溝からは10世紀～11世紀代の須恵器壺、灰釉陶器皿、羽釜、古代の丸瓦が出土している。W-1a溝からはW-1b溝と同時期の遺物と共に中世以降の陶磁器が出土している。時期：W-1a溝は11世紀以降、W-1b溝が10～11世紀代と想定される。備考：出土遺物の時期や長距離にわたり直線的に走行することなどから、上野国府に関連する遺構である可能性が高いものである。『元総社蒼海遺跡群（23）』24地点W-4号構と同一遺構。

W-2号溝（遺構：Fig. 25・39、P.L. 7／遺物：Fig. 42～44、Tab. 14～16、P.L. 10～12）

位置：X：206、Y：214～220 グリッド。主軸方位：N-8°-W。重複：D-27・58・115号土坑、W-4号溝、P-67と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝はD-115号土坑、W-4号溝、P-67より古い。D-27・58号土坑との新旧関係は不明。なお、溝底面にP-13・140・169が見られるが、これらのピットは本溝に伴うものと考えられる。規模：上端幅（2.55）m、下端幅（1.78）mを測る。断面形態：残存部位に限り逆台形状を呈する。残存深度：1.50m。底面の状態：基本的に高低差は見られないものの、大きな単位で凸凹が見られる。なお、この凸凹は、掘削時の作業単位を表すものと想定される。遺構埋没状態：最下層は総社砂層の風化による灰黄褐色土の自然埋没で、それ以上はA-s-B・焼土・小礫・炭化物・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む暗褐色・黒褐色・灰黄褐色の土による人為埋没と想定される。なお、埋没土の流入は西から行われており、総社砂層ブロックに風化減少が見られないことから、土星の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より貿易陶磁（青磁・白磁・染付け）・常滑（大窯）・在地土器（擂鉢）・カワラケ・石製品（石鉢・石臼）が出土しており、一部の遺物に二次焼成痕が見られる。時期：カワラケの時期から15世紀後半と想定される。備考：蒼海城古段階の堀と想定される。本溝の南端は立ち上がるため、東への屈曲または虎口の存在が推測される。『元総社蒼海遺跡群（23）』24地点W-5号溝と同一遺構。

W-3号溝（遺構：Fig. 25・41、P.L. 7）

位置：X：201～205、Y：214・215 グリッド。主軸方位：平面形態が弧状を呈するため不明。重複：D-1・4・52・60・61・64・114号土坑、W-1号構、P-195・630と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝はD-1・52号土坑、W-1号構より新しく、D-4・60・61号土坑より古い。D-64・114号土坑、P-195・630との新旧関係は不明。規模：上端幅1.42m～1.23、下端幅0.75m～0.44mを測る。断面形態：逆台形状を呈する。残存深度：1.13m。底面の状態：南（弧の先端）へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：下位では灰黄褐色・灰色・灰白色の総社砂層ブロックを含む自然埋没が見られ、それ以上は、小礫・A-s-B・総社砂層

ブロック・黒色粘質土ブロックを含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。なお、自然埋没土に混入する總社砂層ブロックには風化減現象が見られるが、これに対し、人為埋没土に混入する總社砂層ブロックには風化現象は見られない。多少の自然埋没の後、土壌の土で埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土の中位より白磁碗が出土している。時期：15世紀後半～17世紀前半と想定される。備考：若海城新段階の堀と想定され、弧状の平面形態や『元總社若海遺跡群（23）』24 地点W-1号構との位置関係から、丸馬出の可能性を有するものと言える。『元總社若海遺跡群（23）』24 地点W-6号構と同一遺構。

W-4号構（遺構：Fig. 25・40／遺物：Fig. 44, Tab. 16, P.L. 12）

位置：X : 204～206, Y : 219 グリッド。主軸方位：N -86° - W。重複：W-1・2号構、P-123・124・126～129・135～139・141・142と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本構はW-1・2号構より新しい。ピットとの新旧関係は不明。規模：上端幅 1.05 m～0.34 m、下端幅 0.74 m～0.24 m を測る。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.11 m。底面の状態：多少の凸凹が見られるが、高低差は見られない。遺構埋没状態：總社砂層ブロック・炭化粒・焼土を含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土による埋没である。遺物出土状態：軟質陶器内耳鍋が出土している。時期：出土遺物から16世紀代と想定される。

4 ピット（遺構：Fig. 26～31, Tab. 8～13）

27地点においてピットは636基調査している。このうち、整理調査の段階でP-10・11・192・365・632の5基を欠番したため、総数は631基となっている。本報告ではピットとして掲載したが、若海城の郭内に構築された掘立柱建物跡の柱穴になり得るもののが多数存在するものと推測される。また、P-1・2・4・8・604の底からは礎石と推測される扁平な礎が出土している。これら柱穴となり得るピットは、分布状況から若海城古段階の堀であるW-2号構に伴うものと考えられる。各ピットの計測値等はTab. 8～13に示してある。また、Fig. 26～31に使用されているトーンやTab. 8～13の埋没土の説明について下記に記しておく。

	暗褐色土	總社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm・小繊φ 0.5 cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
	暗褐色土	總社砂層ブロック（黄）・（白）φ 0.5 cm中量、炭化粒・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
	暗褐色土	總社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm多量、炭化粒・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
	暗褐色土	總社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm・焼土粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
	暗褐色土	A s-B φ 0.2 cm中量、總社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性弱。

Tab. 8 27地点ピット一覧表①

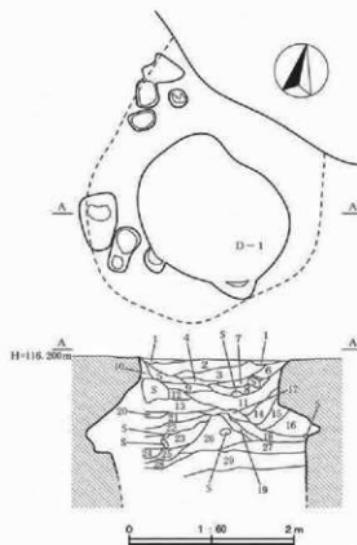
地點名	グリッド	範囲 (m)	深さ (m)	平面形態	埋没土	遺物・備考
P-1	X : 204 Y : 219	0.38 × 0.48	0.11	円形	B 磨石状の礎	
P-2	X : 202 Y : 219	0.40 × 0.33	0.15	方形	A 青瓦・ 磨石状の礎	
P-3	X : 204 Y : 219	0.30 × 0.27	0.26	長方形	A カツラケ・ 磨石状の礎	
P-4	X : 205 Y : 220	0.37 × 0.33	0.09	円形	D カツラケ・ 磨石状の礎	
P-5	X : 205 Y : 219	0.50 × 0.36	0.12	橢円形	B 白磁	
P-6	X : 205 Y : 218	0.55 × 0.41	0.23	円形	A 土壌層・ Y : 218・219	
P-7	X : 204 Y : 218	0.32 × 0.30	0.23	方形	D カツラケ・ 青磁	
P-8	X : 202 Y : 208	0.48 × 0.48	0.22	不整形	A カツラケ・ 磨石状の礎	
P-9	X : 202 Y : 218	0.60 × 0.41	1.34	不整形	B 古瓦	
P-10				不整形		
P-11				不整形		
P-12	X : 206 Y : 218	0.24 × 0.22	0.11	方形	- 黒色渺・灰褐色	
P-13	X : 206 Y : 218	0.34 × 0.28	0.08	円形	- 土壌層	
P-14	X : 205 Y : 218	0.36 × 0.29	0.11	橢円形	- カツラケ	
P-15	X : 205 Y : 218	0.24 × 0.24	0.19	方形	- カツラケ	
P-16	X : 204 Y : 218	0.20 × 0.19	0.67	円形	- カツラケ	
P-17	X : 204 Y : 218	0.40 × 0.29	0.06	不整形	- カツラケ	
P-18	X : 201 Y : 218	0.26 × 0.24	0.25	円形	A 土壌層	
P-19	X : 204 Y : 218	0.30 × 0.22	0.17	橢円形	A 土壌層	
P-20	X : 204 Y : 218	0.36 × 0.32	0.03	方形	- 土壌層	
P-21	X : 204 Y : 218	0.18 × 0.16	0.04	円形	- 土壌層	
P-22	X : 204 Y : 216	0.13 × 0.12	0.02	円形	- カツラケ・ 軟質陶器	
P-23	X : 205 Y : 216	0.32 × 0.20	0.09	円形	B 磨石	
P-24	X : 205 Y : 216	0.32 × 0.26	0.21	橢円形	- カツラケ	
P-25	X : 204 Y : 216	0.16 × 0.12	0.05	方形	- 固留層	
P-26	X : 204 Y : 217	0.17 × 0.12	0.06	方形	- 軟質陶器	
P-27	X : 204 Y : 217	0.40 × 0.36	0.06	円形	A -	

Tab. 10 27 地点ピット一覧表③

地名	ダーリッド	標高 (m)	深さ (m)	平面形	埋没士	遺物・備考
P-165 X : 206 Y : 219 0.36 × 0.22 0.05 不規則 A -	P-249 X : 201 Y : 216 0.30 × 0.28 0.12 円形 A -					
P-166 X : 206 Y : 219 0.22 × 0.20 0.02 方形 -	P-241 X : 201 Y : 216 0.30 × 0.26 0.15 円形 D -					
P-167 X : 206 Y : 219 0.38 × 0.24 0.08 方形 -	P-242 X : 201 Y : 216 0.30 × 0.30 0.12 円形 A -					
Y : 219 × 220	P-243 X : 202 Y : 216 0.49 × 0.29 0.14 円形 A -					
P-168 X : 206 Y : 220 0.32 × 0.22 0.02 不規則 A -	P-244 X : 202 Y : 216 0.18 × 0.18 0.09 方形 -					
P-169 X : 207 Y : 220 0.28 × 0.22 0.07 直円形 -	P-245 X : 202 Y : 216 0.38 × 0.34 0.23 円形 A -					
P-170 X : 206 Y : 220 0.18 × 0.14 0.11 方形 C -	P-246 X : 202 Y : 216 0.42 × 0.29 0.13 直円形 C -					
P-171 X : 206 Y : 220 0.29 × 0.16 0.09 方形 A -	P-247 X : 203 Y : 216 0.39 × 0.38 0.18 方形 -					
P-172 X : 206 Y : 220 0.38 × 0.36 0.14 円形 A -	P-248 X : 203 Y : 216 0.20 × 0.16 0.05 直円形 -					
P-173 X : 206 Y : 220 0.34 × 0.11 不規則 A -	P-249 X : 203 Y : 216 0.38 × 0.22 方形 -					
P-174 X : 206 Y : 220 0.30 × - 0.06 不規則 A -	P-250 X : 201 Y : 216 0.22 × - 0.14 直円形 -					
P-175 X : 206 Y : 220 0.48 × 0.48 0.13 円形 C -	P-251 X : 201 Y : 216 0.29 × 0.26 0.13 方形 -					
P-176 X : 205 Y : 220 0.39 × - 0.27 方形 -	P-252 X : 201 Y : 216 0.32 × 0.30 0.03 直円形 -					
P-177 X : 205 Y : 220 0.30 × - 0.09 方形 A -	P-253 X : 201 Y : 216 0.22 × - 0.05 円形 A -					
P-178 X : 205 Y : 220 0.29 × - 0.06 不規則 -	P-254 X : 201 Y : 216 0.34 × - 0.16 円形 -					
P-179 X : 205 Y : 220 0.14 × - 0.05 方形 -	P-255 X : 201 Y : 216 0.23 × - 0.06 内部 -					
P-180 X : 205 Y : 220 0.36 × 0.30 0.01 方形 A -	Y : 216 × 217					
P-181 X : 205 Y : 220 0.37 × - 0.04 不規則 A -	P-256 X : 201 Y : 217 0.38 × - 0.10 長方形 -					
P-182 X : 205 Y : 219 0.23 × 0.15 0.02 長方形 -	P-257 X : 201 Y : 217 0.28 × - 0.03 不規則 A -					
P-183 X : 205 Y : 219 0.14 × 0.16 0.02 方形 -	P-258 X : 201 Y : 217 0.40 × - 0.18 長方形 -					
P-184 X : 205 Y : 219 0.22 × 0.18 0.03 長方形 -	P-259 X : 201 Y : 217 0.44 × - 0.14 長方形 -					
P-185 X : 205 Y : 219 0.42 × 0.22 0.03 裸円形 A -	P-260 X : 201 Y : 217 0.36 × - 0.04 長方形 -					
P-186 X : 205 Y : 219 0.18 × 0.16 0.02 方形 A -	P-261 X : 201 Y : 217 0.42 × - 0.12 裸円形 A -					
P-187 X : 205 Y : 219 0.22 × 0.26 0.02 裸円形 A -	P-262 X : 201 Y : 217 0.40 × 0.38 0.08 内部 A -					
P-188 X : 205 Y : 219 0.14 × 0.12 0.02 方形 -	P-263 X : 202 Y : 217 0.49 × - 0.07 不規則 -					
P-189 X : 205 Y : 220 0.10 × - 0.01 長方形 -	Y : 216 × 217					
P-190 X : 206 Y : 217 0.24 × - 0.07 長方形 -	P-264 X : 205 Y : 217 0.24 × - 0.11 不規則 -					
P-191 X : 204 Y : 215 0.42 × - 0.22 円形 -	P-265 X : 201 Y : 217 0.16 × - 0.01 裸円形 A -					
P-192 X : 203 Y : 215 大森	P-266 X : 201 Y : 217 0.46 × - 0.25 方形 -					
P-193 X : 203 Y : 215 0.43 × 0.35 0.12 裸円形 -	P-267 X : 201 Y : 217 0.26 × 0.24 0.09 円形 A -					
P-194 X : 203 Y : 215 0.32 × 0.28 0.06 円形 -	P-268 X : 201 Y : 217 0.34 × 0.26 0.02 裸円形 -					
P-195 X : 203 Y : 215 0.18 × - 0.08 裸円形 -	P-269 X : 201 Y : 217 0.24 × 0.22 0.07 円形 A -					
P-196 X : 203 Y : 215 0.17 × 0.14 0.11 方形 -	P-270 X : 201 Y : 217 0.22 × 0.23 0.09 方形 -					
P-197 X : 203 Y : 215 0.34 × 0.30 0.12 円形 -	P-271 X : 201 Y : 217 0.30 × 0.26 0.07 内部 A -					
P-198 X : 203 Y : 215 0.38 × 0.34 0.22 円形 -	P-272 X : 201 Y : 217 0.26 × 0.20 0.01 裸円形 A -					
P-199 X : 203 Y : 215 0.39 × 0.38 0.26 円形 -	P-273 X : 201 Y : 217 0.30 × 0.22 0.15 裸円形 B -					
P-200 X : 203 Y : 215 0.26 × - 0.28 裸円形 -	P-274 X : 201 Y : 217 0.44 × 0.32 0.29 円形 B -					
P-201 X : 202 Y : 215 0.46 × 0.36 0.26 裸円形 -	P-275 X : 201 Y : 217 0.30 × 0.24 0.17 方形 A -					
P-202 X : 202 Y : 215 0.26 × 0.29 0.14 円形 -	P-276 X : 201 Y : 217 0.22 × 0.26 0.18 方形 -					
P-203 X : 202 Y : 215 0.22 × - 0.09 裸円形 -	P-277 X : 201 Y : 217 0.27 × 0.21 0.09 円形 A -					
P-204 X : 202 Y : 215 0.20 × 0.18 0.23 円形 -	P-278 X : 201 Y : 217 0.32 × 0.20 0.06 不規則 A -					
P-205 X : 201 Y : 215 0.28 × - 0.09 裸円形 -	P-279 X : 201 Y : 217 0.30 × 0.27 0.22 内部 -					
P-206 X : 201 Y : 215 0.40 × 0.35 0.02 不規則 -	P-280 X : 201 Y : 217 0.40 × 0.26 不規則 -					
P-207 X : 201 Y : 215 0.26 × - 0.09 不規則 -	P-281 X : 201 Y : 217 0.16 × - 0.11 内部 -					
P-208 X : 201 Y : 215 0.38 × - 0.15 長方形 -	P-282 X : 201 Y : 217 0.44 × - 0.07 裸円形 A -					
P-209 X : 201 Y : 215 0.24 × 0.20 0.02 方形 -	P-283 X : 201 Y : 217 0.30 × - 0.02 内部 -					
P-210 X : 201 Y : 215 0.32 × 0.24 0.01 裸円形 -	P-284 X : 201 Y : 217 0.36 × - 0.05 裸円形 A -					
P-211 X : 201 Y : 215 0.44 × - 0.05 裸円形 -	P-285 X : 202 Y : 217 0.48 × 0.38 0.10 裸円形 A -					
P-212 X : 201 Y : 215 0.26 × - 0.11 長方形 -	P-286 X : 201 Y : 217 0.30 × - 0.07 方形 A -					
P-213 X : 201 Y : 215 0.48 × - 0.17 裸円形 -	Y : 217					
P-214 X : 201 Y : 215 0.39 × - 0.29 裸円形 -	P-287 X : 201 Y : 217 0.40 × - 0.26 不規則 -					
P-215 X : 201 Y : 215 0.26 × - 0.15 円形 -	P-288 X : 201 Y : 217 0.16 × - 0.11 内部 -					
P-216 X : 201 Y : 215 0.24 × - 0.07 円形 -	P-289 X : 201 Y : 217 0.44 × - 0.07 裸円形 A -					
P-217 X : 201 Y : 215 0.28 × 0.24 0.04 円形 -	P-290 X : 201 Y : 217 0.20 × 0.19 0.07 内部 -					
P-218 X : 201 Y : 215 0.48 × 0.43 0.14 不規則 -	P-291 X : 202 Y : 217 0.34 × - 0.10 裸円形 A -					
P-219 X : 201 Y : 215 0.18 × 0.16 0.05 円形 -	P-292 X : 201 Y : 217 0.44 × 0.44 0.07 裸円形 C -					
P-220 X : 201 Y : 216 0.26 × - 0.09 不規則 -	P-293 X : 202 Y : 217 0.38 × 0.33 0.19 内部 A -					
P-221 X : 201 Y : 216 0.48 × 0.34 0.26 円形 -	P-294 X : 202 Y : 217 0.46 × 0.30 0.09 裸円形 B -					
P-222 X : 201 Y : 216 0.38 × - 0.16 裸円形 -	P-295 X : 202 Y : 217 0.36 × - 0.05 裸円形 C -					
P-223 X : 201 Y : 216 0.24 × - 0.05 長方形 -	P-296 X : 202 Y : 217 0.26 × 0.20 0.06 内部 -					
P-224 X : 201 Y : 216 0.28 × - 0.04 長方形 -	P-297 X : 202 Y : 217 0.32 × 0.26 0.03 不規則 A -					
P-225 X : 202 Y : 216 0.48 × 0.48 0.04 円形 -	P-298 X : 201 Y : 217 0.42 × 0.49 0.08 内部 A -					
P-226 X : 202 Y : 216 0.28 × 0.26 0.11 円形 -	Y : 217					
P-227 X : 202 Y : 216 0.26 × - 0.13 円形 -	P-299 X : 203 Y : 217 0.30 × 0.26 0.11 円形 B -					
P-228 X : 202 Y : 216 0.46 × - 0.26 裸円形 -	P-300 X : 202 Y : 217 0.29 × - 0.08 内部 C -					
P-229 X : 202 Y : 216 0.36 × 0.26 0.17 裸円形 -	P-301 X : 203 Y : 217 0.38 × 0.23 0.08 裸円形 A -					
P-230 X : 202 Y : 216 0.49 × 0.29 0.04 円形 A -	P-302 X : 203 Y : 217 0.22 × - 0.12 裸円形 A -					
P-231 X : 202 Y : 216 0.34 × 0.34 0.16 円形 A -	P-303 X : 203 Y : 217 0.27 × - 0.11 裸円形 A -					
P-232 X : 201 Y : 216 0.36 × 0.32 0.21 円形 A -	P-304 X : 203 Y : 217 0.34 × 0.20 0.03 裸円形 A -					
P-233 X : 201 Y : 216 0.30 × 0.27 0.07 裸円形 A -	P-305 X : 203 Y : 217 0.30 × 0.18 0.04 内部 A -					
P-234 X : 201 Y : 216 0.22 × 0.29 0.06 裸円形 A -	P-306 X : 203 Y : 217 0.22 × 0.20 0.07 内部 A -					
P-235 X : 201 Y : 216 0.48 × 0.16 0.08 円形 A -	P-307 X : 203 Y : 217 0.22 × - 0.02 裸円形 A -					
P-236 X : 201 Y : 216 0.33 × 0.24 0.18 裸円形 A -	P-308 X : 203 Y : 217 0.18 × 0.19 0.14 内部 A -					
P-237 X : 201 Y : 216 0.29 × - 0.31 方形 A -	P-309 X : 203 Y : 217 0.28 × 0.16 0.07 内部 A -					
P-238 X : 201 Y : 216 0.28 × - 0.09 方形 A -	P-310 X : 203 Y : 217 0.48 × 0.32 0.12 内部 A -					
P-239 X : 201 Y : 216 0.36 × 0.32 0.27 円形 A -	-					

Tab. 13 27 地点ピット一覧表⑥

地点名	グリッド	緯度 (m)	緯度 (m)	平面形態	埋蔵土	虚構・備考
P-592	X : 202 Y : 229	0.35 ×-	0.17	方形状	-	-
P-593	X : 202 Y : 229	0.30 ×-	0.28	円形	-	-
P-594	X : 202 Y : 229	0.19 × 0.16	0.06	不規則形	-	-
P-595	X : 261 + 202	0.35 ×-	0.07	長方形	-	-
Y : 226						
P-596	X : 261 + 202	0.34 × 0.32	0.10	南北形	-	-
Y : 226						
P-597	X : 201 Y : 229	0.28 ×-	0.09	方形状	-	-
P-598	X : 202 Y : 229	0.15 ×-	0.05	方形状	-	-
P-599	X : 202 Y : 229	0.46 × 0.38	0.02	不規則形	-	-
P-600	X : 202 Y : 229	0.18 ×-	0.03	南北形	-	-
P-601	X : 202 Y : 229	0.22 ×-	0.18	方形状	-	-
P-602	X : 202 Y : 229	0.37 ×-	0.29	方形状	-	-
P-603	X : 202 Y : 219	0.28 × 0.16	0.10	不規則形	A	-
P-604	X : 202 Y : 219	-×-	0.24	南北形	-	-
P-605	X : 202 Y : 219	-×-	0.19	南北形	-	-
P-606	X : 202 Y : 219	-×-	0.19	南北形	-	-
P-607	X : 203 Y : 219	0.40 × 0.30	0.05	南北形	B	-
P-608	X : 203 Y : 219	0.36 ×-	0.11	南北形	-	-
P-609	X : 203 Y : 219	0.13 ×-	0.03	南北形	C	-
P-610	X : 203 Y : 219	0.20 × 0.17	0.08	南北形	-	-
P-611	X : 203 Y : 219	0.33 × 0.30	0.16	不規則形	-	-
P-612	X : 203 Y : 219	0.32 × 0.21	0.16	方形状	-	-
P-613	X : 203 Y : 219	0.46 ×-	0.18	南北形	-	-
P-614	X : 203 Y : 219	0.24 × 0.07	0.07	南北形	-	-

27
地
点

- 23 黑褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、塗装砂層ブロック(B)φ0.5~1.0cm少含、焼土粒混含む。しまりやや強。粘性やや弱。
- 24 黄褐色土上層 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。化粧物微含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 25 黑褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。化粧物微含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 26 黄褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。黑色粘質土ブロックφ0.5~1.0cm多量。塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。しまりやや強。粘性弱。
- 27 黑褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、黑色粘質土ブロックφ0.5~1.0cm多量。塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。しまりやや強。粘性弱。
- 28 黑褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm多量、黑色粘質土ブロックφ0.5~1.0cm多量。塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。しまりやや強。粘性弱。
- 29 黄褐色土 塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。黑色粘質土ブロックφ0.5~1.0cm少含。塗装砂層ブロック(B)φ0.5cm少含。しまり強。粘性やや弱。

Fig. 32 D-1号土坑

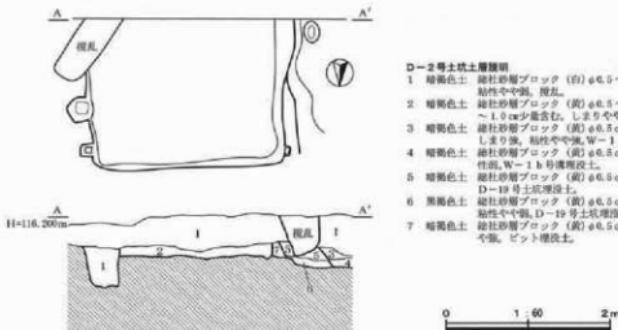


Fig. 33 D-2号土坑

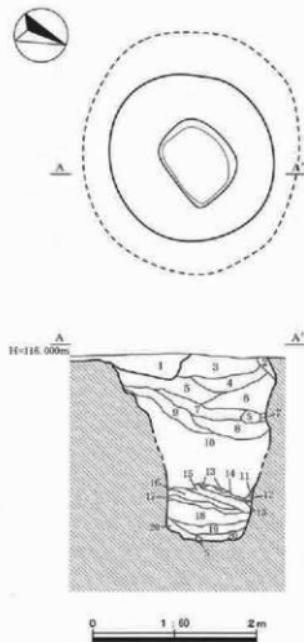


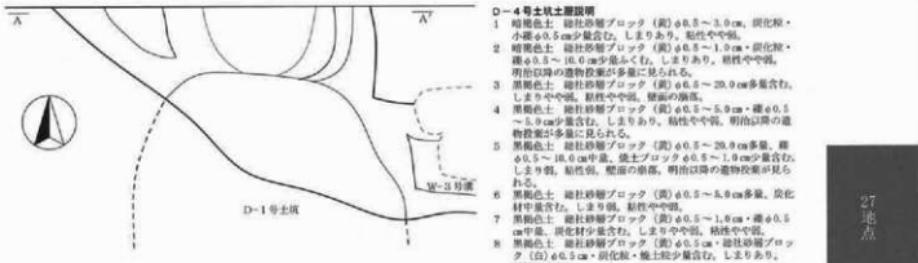
Fig. 34 D-3号土坑

D-2号土坑層剖面

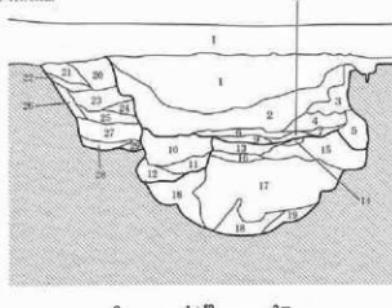
- 1 粘褐色土 粘粒の層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量含む。しまりやや強。粘性やや弱。粗粒や中強。粗粒。
- 2 黄褐色土 粘粒の層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。地土地・小種 $\phi 0.8 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性弱。D-2号土坑埋没土。
- 3 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm・粘土塊・小種 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまり強。粘性やや強。W-1号土坑埋没土。
- 4 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm・粘土塊少量含む。しまり強。粘性強。D-19号土坑埋没土。
- 5 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性強。
- 6 黑褐色土 粘粒の層ブロック(白) $\phi 0.5$ cm・地土地少量含む。しまりやや強。粘性やや弱。D-19号土坑埋没土。
- 7 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。ピット埋没土。

D-3号土坑層剖面

- 1 黄褐色土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性弱。重曹・硫酸根混入。
- 2 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm多量含む。しまり弱。粘性やや弱。木根付か?
- 3 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。硫化物・地土地埋没土。
- 4 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。D-19号土坑埋没土。
- 5 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・硫化物中量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 6 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm中量含む。しまりやや強。粘性やや弱。
- 7 喀斯特土 硫化物多量。硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm少量。A-x-B-d
- 8 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。A-x-H $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや弱。
- 9 喀斯特土 硫化物少量含む。しまりやや強。粘性やや弱。
- 10 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 11 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm・硫化物少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 12 黑色土 硫化物層。硫化物少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 13 黑色土 硫化物層。硫化物少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 14 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm・硫化物少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
- 15 喀斯特土 硫化物層ブロック(黄) $\phi 0.5$ cm・硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。硫化物微量含む。しまり弱。粘性弱。
- 16 にぶい黄褐色土 硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5$ cm中量。硫化物少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 17 黄褐色土 硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5$ cm多量。硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 18 喀斯特土 硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・硫化物少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
- 19 黄褐色土 硫化物多量。硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまり弱。粘性弱。崩落した壁面上の沈殿層。鉛分の沈殿が見られる。
- 20 黄褐色土 黄褐色土・硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 3.0$ cm・硫化物層ブロック(白) $\phi 0.5 \sim 3.0$ cm少量含む。しまり弱。粘性弱。崩落した壁面上の沈殿層。鉛分の沈殿が見られる。



AUG 17 2004



- 22 黒風毛：紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、小綱 0.5 cm 少基含む）。しまりあり。熱性やや中温、W-3号標準理歴。

23 黒風毛：紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、小綱 0.5 cm 少基含む）。しまりあり。熱性やや中温、W-3号標準理歴。

24 黒風毛：紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、小綱 0.5 cm 少基含む）。しまりあり。熱性やや中温、W-3号標準理歴。

25 黒風毛：紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 3.0\text{ cm}$ 、小綱 0.5 cm 少基含む）。しまりあり。熱性やや中温、W-3号標準理歴。

26 黒風毛：紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 1.0\text{ cm}$ 、紺社綿附ブロッカ（ $\text{W}\phi 6.5 \sim 2.0\text{ cm}$ 、小綱 0.5 cm 少基含む）。しまりあり。熱性やや中温、W-3号標準理歴。

Fig. 35 D-4号土坑

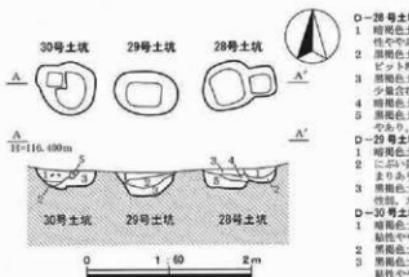


Fig. 36 D-28·29·30号土坑

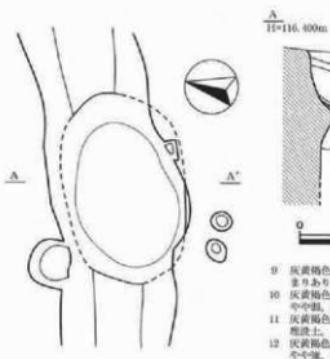
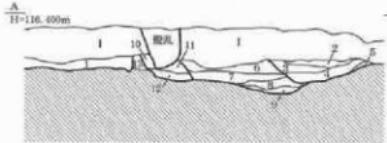
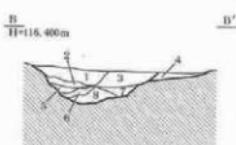


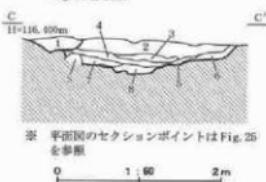
Fig. 37 D-52 号土坑坑壁



※ 平面図のセクションポイントは Fig. 26 を参照



※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照



W-1号深A-C' 土層断面図

- 1 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ ・小塊 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 2 黄褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\sim 1.5\text{cm}$ 多量、細粒砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 中量。炭化物・鐵土少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 3 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 4 黑褐色土 黒色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ 多量。黑色粘質土ブロック $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 5 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 6 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 7 硅褐色土 砂質多量、粘性少量ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 中量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 8 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 9 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 10 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 11 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 12 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 13 黑褐色土 黑色粘質土ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。

W-1号深B-B' 土層断面図

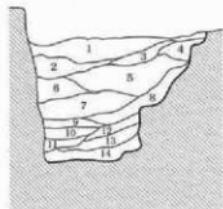
- 1 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 2 黑褐色土 小塊 $\phi 0.5\text{cm}$ 中量、細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 微量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 3 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 少量。壤土に微量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 4 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量。壤土微量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 5 硅褐色土 小塊 $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 6 黑褐色土 小塊 $\phi 0.5\sim 2.0\text{cm}$ 中量。細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 7 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量。細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 8 黑褐色土 細粒砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。

※ 平面図のセクションポイントは Fig. 26 を参照

- 1 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔黄〕 $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-1号標準段土。
- 2 黑褐色土 小塊 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 3 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 4 硅褐色土 細粒砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 5 硅褐色土 小塊 $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 多量含む。しまりやや強。粘性弱。W-1号標準段土。
- 6 黑褐色土 硫酸砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 多量。炭化物・鐵土少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 7 硅褐色土 硫酸砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 多量。炭化物・鐵土少量含む。しまりやや強。粘性弱。
- 8 黑褐色土 硫酸砂層ブロック〔白〕 $\phi 0.5\text{cm}$ 多量。炭化物・鐵土少量含む。しまりやや強。粘性弱。

Fig. 38 W-1号構造

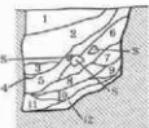
D
H=16,600m



※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照

D'

E
H=16,600m



※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照

W-2号溝D-D' 土壌剖面

- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 3.0$ cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 暗褐色土 A_s-B $\phi 0.5$ cm中量。A_s-B $\phi 0.2$ cm。緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm中量。緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまり強。粘性やや。
- 暗褐色土 A_s-B $\phi 0.5$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm少量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 暗褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 灰黃褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。黒色粘質土ブロック $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 灰黃褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 灰黃褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰黃褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。しまりあり。粘性やや。

W-2号溝E-E' 土壌剖面

- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。黑色粘質土ブロック $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性弱。
- 灰褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm多量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 黑褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 黑褐色土 A_s-B $\phi 0.2$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量含む。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒微量含む。しまりあり。粘性やや。

W-2号溝F-F' 土壌剖面

- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm中量。緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm少量。緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm多量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。
- 灰褐色土 緑社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。施肥粒少量含む。しまりあり。粘性やや。

※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照

0 1 60 2m



- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm中量。施肥物・土壌改良物含む。しまりやや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm中量。施肥物・土壌改良物含む。しまりやや。

※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照

Fig. 39 W-2号溝

27
地
点



- 黑褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや。

※ 平面図のセクションポイントは Fig. 25 を参照

0 1 60 2m

I
H=16,000m

J
H=16,000m

J'
H=16,000m

- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm中量。施肥物・土壌改良物含む。しまりやや。
- 暗褐色土 緑社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm中量。施肥物・土壌改良物含む。しまりやや。

Fig. 40 W-4号溝

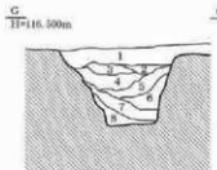


図 平面図のセクションポイントは
Fig. 25 を参照。

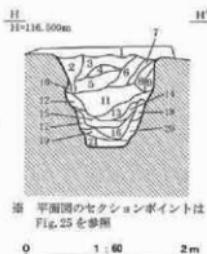


図 平面図のセクションポイントは
Fig. 25 を参照。

0 1:60 2m

- W-3号溝 G-G' 土層説明
 1 黒褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 2 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまり弱。粘性やや強。近世陶器片出土。
 3 にら 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量含む。L.S.やや強。粘性やや強。
 4 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 5 黑褐色土 小繊 $\phi 0.5$ cm多量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm中量。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 6 緑褐色土 小繊 $\phi 0.5$ cm中量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm微量含む。しまりやや中強。粘性強。
 7 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm。黑褐色質土ブロック $\phi 0.5$ cm中量含む。しまり強。粘性やや強。
 8 黑褐色土 黑色粘質土ブロック $\phi 0.5$ cm少量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm微量含む。しまり強。粘性やや強。
- W-3号溝 H-H' 土層説明
 1 黑褐色土 小繊 $\phi 0.5$ cm中量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 2 黑褐色土 A-s $\phi 0.2$ cm 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 3 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 4 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 5 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 6 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・小繊 $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 7 緑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 8 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 9 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 10 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm少量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 11 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm多量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 12 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 13 黑褐色土 小繊 $\phi 0.5$ cm少量。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 14 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 15 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm少量。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 16 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・土塊微量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 17 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 18 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm中量。小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 19 泥質褐色土 塗泥の崩落。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm・砂砂多量。細粒砂層ブロック (黄) $\phi 0.5$ cm・小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性なし。
 20 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm中量。小繊 $\phi 0.5$ cm少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
 21 黄褐色土 塗泥の崩落。細粒砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm・砂砂多量含む。しまりやや強。粘性やや強。

Fig. 41 W-3号溝

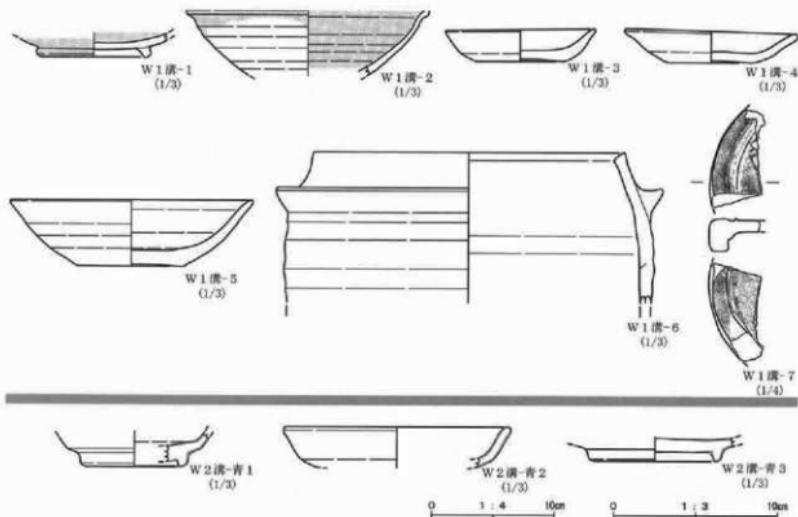


Fig. 42 27地点出土遺物①

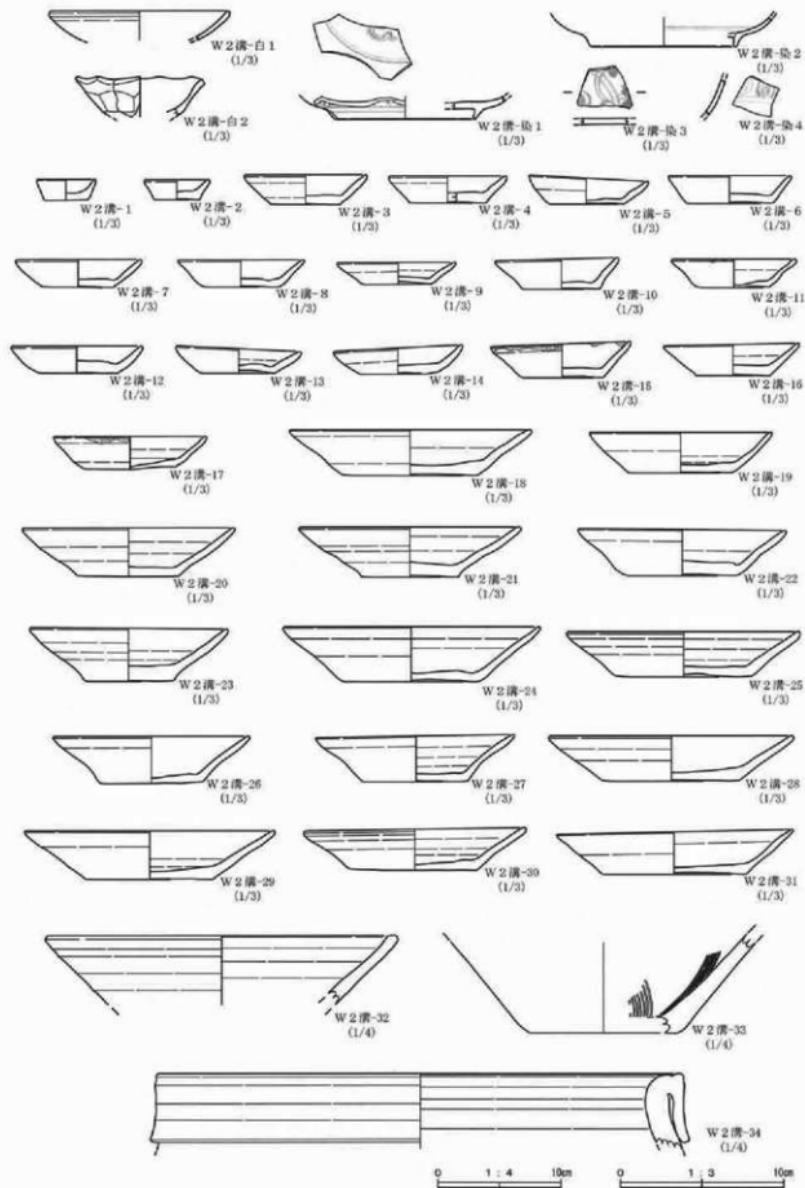


Fig. 43 27 地点出土遺物②

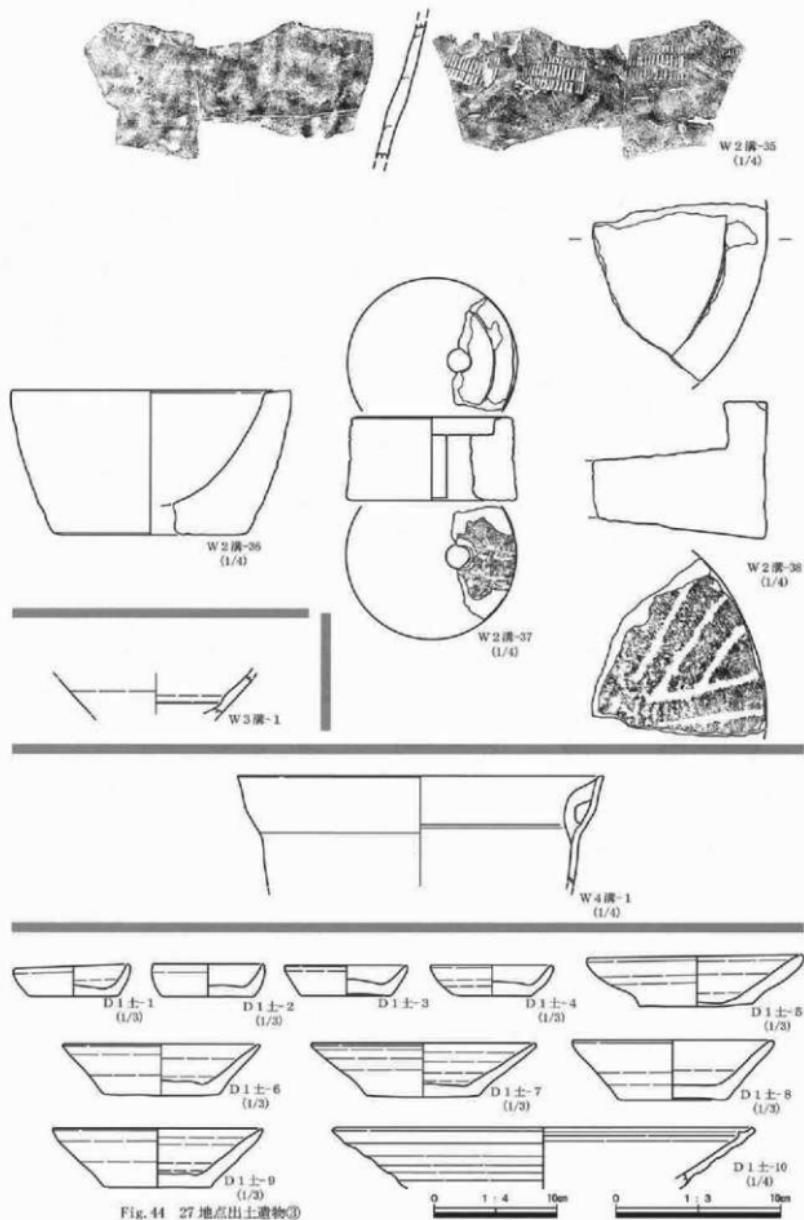


Fig. 44 27 地点出土遗物③

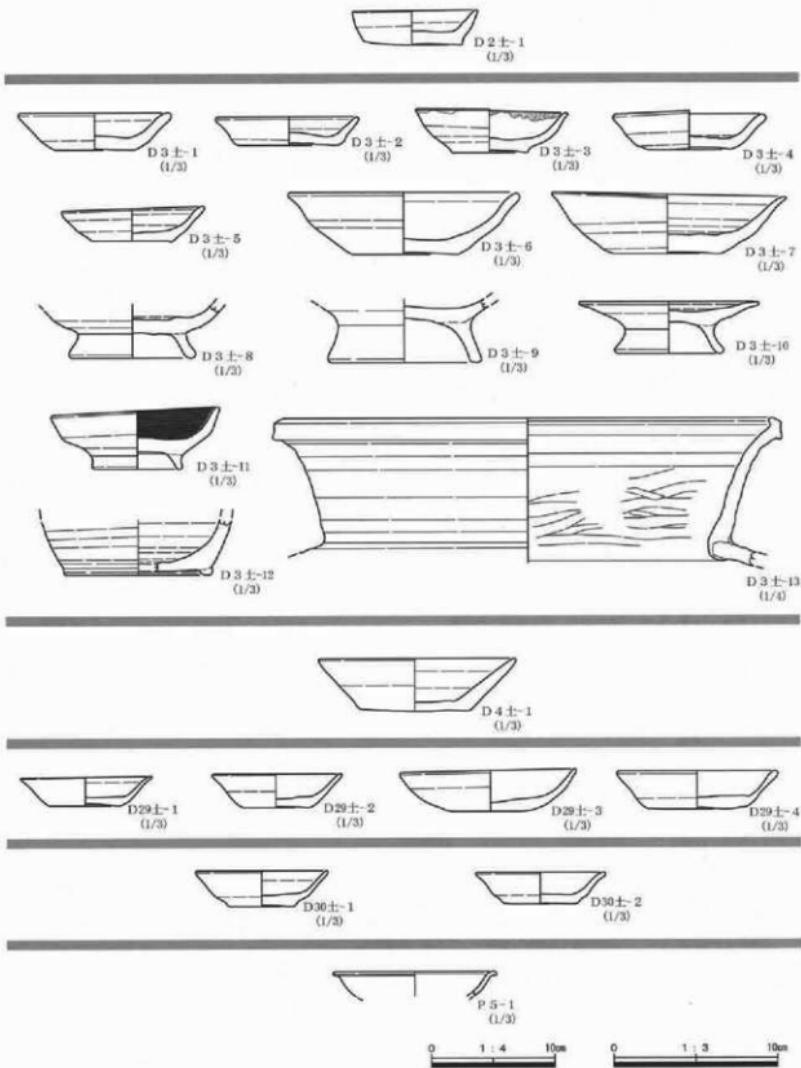


Fig. 45 27 地点出土遺物④

Tab. 14 27 地点出土遺物観察表①

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰釉陶器皿	口径 一 底径 (6.4) 器高 —	①透光 ②灰白色 ③白色粒 ④体部下位～高台部 1/2	外面 緩傾斜形、底部回転条切り。 内面 緩傾斜形、底部に重ね模様あり。 輪は焼付。	
2	灰釉陶器皿	口径 (14.7) 底径 — 器高 —	①透光 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部下位 1/5	外面 緩傾斜形。 内面 緩傾斜形。 輪は焼付。	
3	須恵器环	口径 9.1 底径 5.4 器高 2.0	①酸化 ②純い黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 緩傾斜形、底部右回転条切り。 内面 緩傾斜形。	
4	須恵器环	口径 10.4 底径 5.2 器高 2.1	①酸化 ②純い黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④7/8	外面 緩傾斜形、底部右回転条切り。 内面 緩傾斜形。	
5	須恵器环	口径 (14.8) 底径 6.6 器高 4.1	①酸化気味 ②明黄褐色～灰黄色 ③白色粒・ 黒色粒・角閃石 ④1/2	外面 緩傾斜形、底部回転条切り。 内面 緩傾斜形。	
6	須恵器羽釜	口径 (19.1) 底径 — 器高 —	①酸化 ②灰白～灰黃褐色 ③白色粒・雲母 ④口縁部～胴部上位 1/6	外面 緩傾斜形。 内面 緩傾斜形。	
7	瓦 軒丸瓦	— —	①透光 ②灰褐色 ③白色粒 ④瓦当面破片	漢文。	

W-2号溝(青磁)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 錐折丸瓶	口径 — 底径 (5.9) 器高 —	②深灰色 ④体部下位～高台部 1/4	輪傾斜形。	15世紀中頃
2	青磁 瓶	口径 (13.7) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰褐色 ④口縁部～体部破片	輪傾斜形。	15世紀中頃
3	青磁 小形瓶	口径 — 底径 (7.2) 器高 —	②オリーブ灰褐色 ④底部～高台部 1/4	輪傾斜形。内外面底部の輪を輪状に削り取る。	15世紀中頃

W-2号溝(白磁)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	白磁 直径	口径 (16.8) 底径 — 器高 —	②灰白色 ④口縁部～体部破片	輪傾斜形。	B群
2	白磁 曲腹直	口径 (7.6) 底径 — 器高 —	②灰白色 ④口縁部～体部破片	輪傾斜形。	B2群

W-2号溝(染付)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	染付 直	口径 — 底径 (8.4) 器高 —	④体部～高台部 1/5	輪傾斜形。唐草文。	B1群 良品
2	染付 直	口径 — 底径 (8.8) 器高 —	④体部～高台部 1/8	輪傾斜形。	B1群
3	染付 直	口径 — 底径 — 器高 —	④底部破片	輪傾斜形。唐草文。	B1群 良品
4	染付 碗	口径 — 底径 — 器高 —	④体部破片	輪傾斜形。	

W-2号溝(土器類・石製品)①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 カワラク	口径 3.4 底径 2.8 器高 1.3	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④口縁部～欠損	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
2	土器 カワラク	口径 3.9 底径 2.8 器高 1.3	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④1/2	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
3	土器 カワラク	口径 (7.2) 底径 4.2 器高 1.8	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/3	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
4	土器 カワラク	口径 (6.9) 底径 4.6 器高 1.7	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒 ④2/5	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
5	土器 カワラク	口径 7.1 底径 4.5 器高 1.7	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④2/3	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
6	土器 カワラク	口径 (7.3) 底径 5.3 器高 1.7	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	
7	土器 カワラク	口径 (7.5) 底径 4.4 器高 1.7	①普通 ②純い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪傾斜形、底部左回転条切り。 内面 輪傾斜形。	

Tab. 15 27 地点出土遺物観察表②

W-2号溝(土器類・石製品)②

番号	器種	法量(㎝)	成形・焼成法の特徴	備考	
				外面	内面
8	土器 カワラケ	口径 7.5 底径 4.5 器高 1.7	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④1/2	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
9	土器 カワラケ	口径 7.0 底径 4.1 器高 1.4	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/3	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
10	土器 カワラケ	口径 (7.3) 底径 4.7 器高 1.9	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
11	土器 カワラケ	口径 7.4 底径 4.5 器高 1.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④3/4	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
12	土器 カワラケ	口径 7.7 底径 4.8 器高 1.7	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④4/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
13	土器 カワラケ	口径 7.4 底径 4.5 器高 1.8	①普通 ②浅い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
14	土器 カワラケ	口径 7.7 底径 4.6 器高 1.7	①普通 ②浅い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完璧	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
15	土器 カワラケ	口径 8.3 底径 5.0 器高 2.2	①普通 ②浅い板～黒褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
16	土器 カワラケ	口径 8.2 底径 4.5 器高 2.0	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④口縁部一部欠損	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
17	土器 カワラケ	口径 9.1 底径 5.7 器高 2.0	①普通 ②浅い褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④口縁部一部欠損 復付着。	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
18	土器 カワラケ	口径 (14.4) 底径 8.2 器高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
19	土器 カワラケ	口径 (11.0) 底径 6.3 器高 2.5	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④2/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、全面擦で。	
20	土器 カワラケ	口径 (12.2) 底径 6.2 器高 2.5	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
21	土器 カワラケ	口径 (13.2) 底径 6.0 器高 3.1	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
22	土器 カワラケ	口径 (12.5) 底径 6.6 器高 2.9	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/3	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
23	土器 カワラケ	口径 11.9 底径 5.4 器高 3.3	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
24	土器 カワラケ	口径 (15.4) 底径 8.2 器高 3.4	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
25	土器 カワラケ	口径 (14.0) 底径 8.5 器高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④1/2	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
26	土器 カワラケ	口径 11.7 底径 6.3 器高 2.9	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
27	土器 カワラケ	口径 11.9 底径 6.3 器高 2.9	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、腹で。	
28	土器 カワラケ	口径 (14.7) 底径 8.5 器高 2.8	①普通 ②浅い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、全面擦で。	
29	土器 カワラケ	口径 (15.0) 底径 7.8 器高 3.0	①普通 ②浅い板～褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形、全面擦で。	
30	土器 カワラケ	口径 13.2 底径 7.7 器高 2.6	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④4/5	輪縁整形、底部左回転糸切り、板状底。 輪縁整形、腹で。	
31	土器 カワラケ	口径 14.4 底径 8.8 器高 2.7	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	輪縁整形、底部左回転糸切り。 輪縁整形。	
32	土器 カワラケ	口径 (26.4) 底径 7.7 器高 -	①普通 ②浅い黄褐色～褐灰色 ③白色粒・角閃石・綠 ④口縫部～底部1/6	輪縁整形、体部擦で。 輪縁整形。	
33	土器 カワラケ	口径 (12.0) 底径 7.0 器高 -	①普通 ②褐灰～黒褐色 ③角閃石・綠 ④体部底部1/6	体部擦で、単位不明瞭、下位差割り、底部不明。 体部擦で、7本1単位の擦り目。	
34	陶器 大甕	口径 (42.5) 底径 7.5 器高 -	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒・綠 ④口縫部破片	輪縁整形。 輪縁整形。	

Tab. 16 27 地点出土遺物観察表③

W - 2 号溝（土器類・石製品）③

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考	
35	陶器 大甕	口径 底径 器高	— — —	①普通 ②灰黄色 ③白色粒・繩 ④胴部破片	外面 錐彫で、格子状の押出。 内面 錐彫で。	
36	石製品	石鉢	11径(22.8) 底径(15.8) 厚さ11.9	法量(cm)、成・整形技術の特徴	備考	
37	石製品	石臼	直径(26.0) 厚さ13.8	重さ2,340g 上臼破片		
38	石製品	石臼	厚さ11.3	重さ1,720g 上臼破片		

W - 3 号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考	
1	白磁 瓶	口径 底径 器高	— — —	②灰白色 ④底部破片	錐彫形容。残存部の外側には袖無し。	V類 12世紀

W - 4 号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考	
1	土器 内耳罐	口径(30.0) 底径 器高	— — —	①普通 ②外・黒色、内・白 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部破片	外面 錐彫形容。脚部凹底。 内面 錐彫形容。	

D - 1 号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	土器 カワラケ	口径 6.9 底径 5.8 器高 2.6	①普通 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
2	土器 カワラケ	口径 6.7 底径 5.5 器高 2.0	①普通 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒・繩 ④3/5	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
3	土器 カワラケ	口径 7.3 底径 5.5 器高 1.9	①普通 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 錐彫形容。底跡左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
4	土器 カワラケ	口径 7.4 底径 4.8 器高 1.9	①普通 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
5	土器 カワラケ	口径 12.8 底径 6.9 器高 3.3	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
6	土器 カワラケ	口径 11.8 底径 6.9 器高 3.2	①普通 ②純白色 ③白色粒・褐色粒 ④4/5	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
7	土器 カワラケ	口径 (13.5) 底径 6.9 器高 3.4	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 錐彫形容。底跡左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
8	土器 カワラケ	口径 12.0 底径 6.5 器高 3.7	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
9	土器 カワラケ	口径 12.7 底径 6.6 器高 3.6	①普通 ②青い緑～褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	
10	陶器 鉢	口径 (34.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐灰色 ③白色粒 ④口縁部破片	錐彫形容。口縁部内面に凸帯を付す。	古窯戸

D - 2 号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	土器 カワラケ	口径 7.4 底径 5.0 器高 2.2	①普通 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 錐彫形容。底部左回転条切り。 内面 錐彫形容。	

D - 3 号土坑①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③土手 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 9.0 底径 4.8 器高 2.3	①焼成 ②褐色～鈍い褐色 ③黑色粒・褐色粒 ④完形	外面 錐彫形容。底部右回転条切り。 内面 錐彫形容。	
2	須恵器 壺	口径 8.5 底径 6.0 器高 2.8	①酸化 ②灰褐色～鈍い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面 錐彫形容。底部右回転条切り。 内面 錐彫形容。底無底。	
3	須恵器 壺	口径 9.1 底径 4.6 器高 2.7	①酸化 ②褐色 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 錐彫形容。底部右回転条切り。 内面 錐彫形容。	
4	須恵器 壺	口径 9.0 底径 5.0 器高 2.4	①酸化 ②褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④3/4	外面 錐彫形容。底部右回転条切り。 内面 錐彫形容。	

Tab. 17 27 地点出土遺物観察表④

D - 3号土坑②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
5	須恵器 环	口径 8.6 底径 2.2 器高 2.2	①酸化気味 ②純い黄緑～灰褐色 ③白色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
6	須恵器 环	口径 13.9 底径 6.4 器高 3.8	①酸化 ②純い黄緑～褐色 ③白色粒・墨色粒 ④完形	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
7	須恵器 环	口径 14.3 底径 6.6 器高 3.8	①酸化氣味 ②純い黄緑～灰色 ③白色粒・角閃石 ④2/3	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
8	須恵器 碗	口径 底径 7.3 器高	①酸化氣味 ②純い黄緑～灰 褐色 ③白色粒・褐色粒 ④体部下位～高台部残存	外面 輪縁整形、底部回転擦で。 内面 輪縁整形。	
9	須恵器 碗	口径 底径 9.0 器高	①酸化 ②緑色 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～高台部 7/8	外面 輪縁整形、底部回転擦で。 内面 輪縁整形。	
10	須恵器 碗	口径 10.9 (6.3) 底径 器高 3.2	①酸化氣味 ②灰黄色 ③白色粒・墨色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部回転擦で。 内面 輪縁整形。	
11	黑色土器 碗	口径 10.1 底径 5.0 器高 3.8	①酸化氣味 ②外～黄褐色、内～黒色 ③白色粒・雲母 ④4/5	外面 輪縁整形、底部回転擦で。 内面 口縁部～底部底面き、黒色処理。	
12	灰釉陶器 長頸瓶	口径 底径 8.8 器高	①選元 ②灰白色 ③白色粒 ④腹部下位～台脚部 3/5	外面 輪縁整形、底部右回転余切り後周辺部回転擦で。 内面 輪縁整形。	
13	須恵器 甕	口径 (40.0) 底径 器高	①選元 ②灰～墨色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～頸部破片	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形、口縁部下位擦撫で。	

D - 4号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 (11.7) 底径 6.7 器高 3.3	①酸化氣味 ②白色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	

D - 29号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 7.8 底径 4.4 器高 1.8	①酸化 ②緑～純い灰色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
2	須恵器 环	口径 7.7 底径 4.2 器高 2.1	①酸化 ②緑～純い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
3	須恵器 环	口径 10.5 底径 5.4 器高 2.6	①酸化 ②緑色 ③白色粒・褐色粒 ④完形	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
4	須恵器 环	口径 9.5 底径 6.0 器高 2.4	①酸化 ②緑～純い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	

D - 30号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 (7.9) 底径 3.9 器高 2.2	①酸化 ②緑～純い灰色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④1/2	外面 輪縁整形、底面右回転余切り。 内面 輪縁整形。	
2	須恵器 环	口径 (7.6) 底径 4.4 器高 2.0	①酸化 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④2/5	外面 輪縁整形、底部右回転余切り。 内面 輪縁整形。	

P - 5

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	白磁 耀反皿	口径 (10.0) 底径 器高	①灰白色 ②口縁部～体部破片	輪縁整形。	B群

VII 付編（舶来陶磁器の分類について）

1. 本報告における舶来陶磁器の分類について

本道跡における舶来陶磁器の分類や時期については凡例にも示した通り、『横地城跡』（原 廣志 1999 静岡県菊川町教育委員会）の見解に従っている。ここでは、原氏が示した分類を掲載しておきたいと思う。

2. 青磁

同安窯系青磁

青磁碗

内面または内外面櫛搔文を有するもの。

A類：太目の櫛搔文（12世紀後葉） B類：細目の櫛搔文（12世紀後葉）

青磁皿

内底面に櫛搔文を有したもの（12世紀後葉）

龍泉窯系青磁

青磁碗

文様や形態的な特徴により A～E 類に分類。

A類：劃花文碗を主体とした一群。（12世紀後葉～13世紀初頭）

B類：蓮弁文碗の一群を一括したもの。

0：鎬蓮弁文。（13世紀末葉～14世紀前半） 1：鎬蓮弁文（13世紀中葉～14世紀前葉）

2：ヘラ彫で鎬を有しない蓮弁文のもの。（14世紀末葉～15世紀初頭）

3：線描蓮弁文の古手のもの。（15世紀中葉） 4：線描蓮弁文の新手のもの。（15世紀後半）

C類

1：口縁部に条線文、いわゆる新安手と呼ばれるもの。（14世紀前半）

2：外面の口縁部に雷文帯、体部下半にラマ式蓮弁文を有するもの。（15世紀前半）

3：口縁に退化した雷文帯を残す小型碗。（16世紀前半）

D類：無文の端反輪の一一群で、新旧の二時期がある。

1：大型のもので高台と高台内に軸がかかるものの。口縁も比較的薄い。（14世紀後半）

2：小型のもので高台に軸がかかる。口縁は玉縁風に厚い。（15世紀前半）

E類：無文の直口型碗の一一群。（15世紀後半～16世紀前半）

青磁皿

劃花文皿：内底面に主に劃花文を有したもの。（12世紀後葉）

蓮弁文折縁皿：内外面に蓮弁文、外面蓮弁文に内底面双魚文をもつ例が多い。（13世紀後半～14世紀前半）

無文折縁皿：折縁皿で無文のもの。（13世紀後半～14世紀前半）

折腰皿：体部下位が屈曲するもの。（13世紀末葉～14世紀前半）

無文皿：（15世紀中葉） 角形皿：沖縄首里城出土資料にあるもの？ 端反皿：無文。（15世紀前半）

稜花皿：口縁部稜花形の刻み、折腰で口縁部外反、内面櫛搔波状文。（15世紀中葉～後半）

菊花皿：型押し菊花皿？（16世紀中葉）

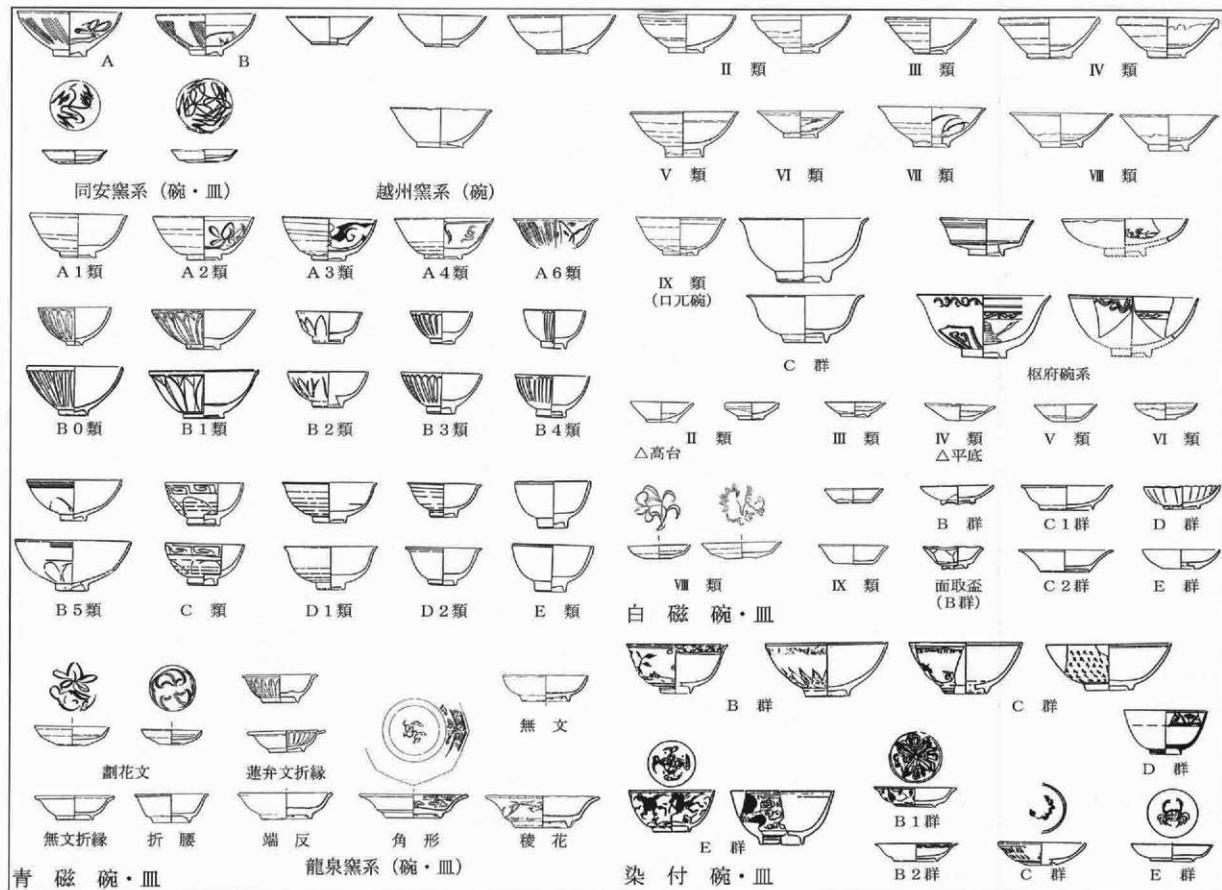


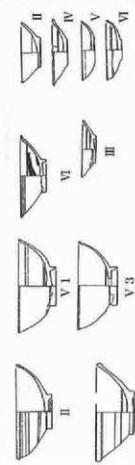
Fig. 46 青磁・白磁・染付型式分類図

青磁 III 磁白 瓢

900 超州窯系
1000

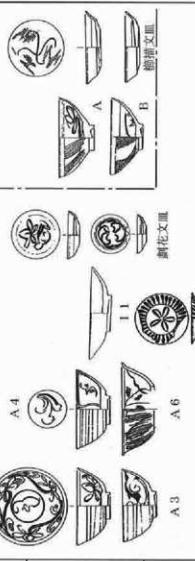


1100



A.2 龍泉窯系

同安窯系



1200

1300

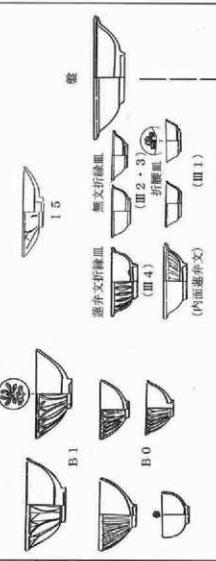
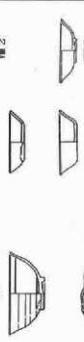
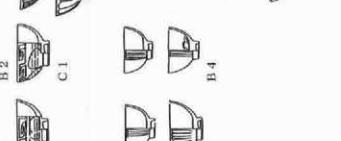
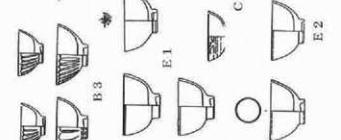
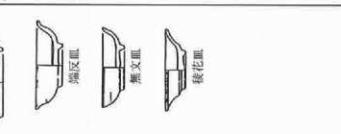
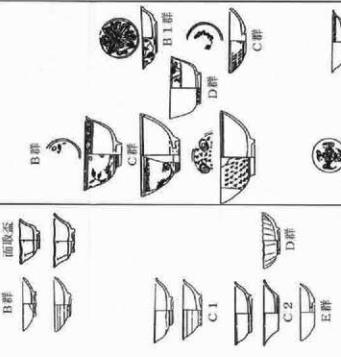


Fig. 47. 船来陶磁器の編年模式図



染付



3. 白磁

白磁碗

II～IV類：いわゆる玉縁碗の一群。(12世紀後葉) II類 (12世紀前半～中葉)

V～VII類：いわゆる端反碗の一群。(12世紀後葉)

C群：端反碗。端反皿と同時期と思われるもの。(15世紀後半～16世紀前半)

白磁皿

III類：高台を有するもの。(12世紀後葉) IV～VI類：平底を呈するもの。(12世紀後葉)

VII類：平底を呈するもので、体部が屈曲し、内底面草花文。(12世紀末葉)

IX類：いわゆる口元皿の一群。(13世紀後半～14世紀前半)

B群：抉り高台、内底面に溶着痕を残す。盃・面取盃と同時期(15世紀前半)

C群：端反皿の一群。一乘谷朝倉遺跡などで多数出土しており、新旧の二時期がある。

1：古手のもの。(15世紀後半) 2：新手のもの。(16世紀前半)

D群：型押しの菊花皿。(16世紀中葉)

E群：いわゆる基筒底の一群で、体部が開いて内弯気味の口縁のもの。(16世紀前半)

4. 染付

染付碗

B群：端反碗の一群。高い高台内を施釉する。内底面に梅月・ねじ花・「福」字・「寿」字などの文様がある。

(15世紀中頃)

C群：蓮子碗の一群。高台内が圓形に彫み、開いた器形である。内底面に蓮花・法螺貝などの文様がある。

(15世紀後半～16世紀初頭)

D群：直口型の一群で、内底面が平坦で広い。(15世紀後半)

E群：模頭心型の一群で、内底面が盛り上がり、高台疊付に砂が付着するものがある。高台内に大明年造・天下太平などの文字がある。(16世紀中葉～16世紀後葉)

F群：慶長頃のもの。(16世紀末～17世紀初頭) 志野等セット出土。(大阪城跡例)

染付皿

B群：端反皿の一群。高台の器形や文様などで、新旧の二時期がある。

1：古手のものは、器壁がやや厚く、内底面に十字花文・玉取獅子文などの文様。(15世紀後半)

2：新手のものは、器壁が薄く、大明年造・天下太平などの文字がある。(16世紀中頃)

C群：基筒底の一群で、体部が開いて内弯気味の口縁をもつ。内底面に花鳥・ねじ花・梵字などの文様がある。

(15世紀後半～16世紀前葉)

E群：器高が低く、体部が内弯する。内底面に蟹・獅子・山水人物・文字などの文様がある。(16世紀中葉～

16世紀後葉)

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミセキグン 21
書名	元総社蒼海遺跡群 (21)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	山下誠信・和久拓照・小出拓磨・日沖剛史
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦 2009年3月6日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 (日本測地系)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
元総社蒼海 遺跡群 (21)	群馬県前橋市元総 社町 2171 番ほか 5筆	10201	20 A 130-21	36° 23' 21"	139° 02' 12"	20080107 ~ 20090116	前橋都市計画事 業元総社蒼海土 地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			基	件		
元総社蒼海遺跡 群 (21)	上野国府園池遺構 蒼海城跡	平安 中世	堅穴状遺構 土坑 (内、井戸 5 基・堅穴状 遺構 1 基) 溝 ピット 盛土状遺構 (土壘)	4 基 137 基 瓦 石製品 陶磁器 カワラケ 1 基	須恵器 灰釉陶器 瓦 石製品 陶磁器 カワラケ	蒼海城の改修 前後の堀を確 認

写 真 図 版

9 地点



9地点遠景（南西から）



9地点全景（上が東）



調査区東側全景（東から）



調査区東側全景（西から）



調査区西側全景（東から）



調査区西側全景（西から）



西端調査区（北から）



2号トレンチ土層断面（北から）



2号トレンチ土層断面（北西から）



W-1号溝土層断面（南西から）



W-1号溝土層断面（南から）



W-3号溝南トレンチ土層断面（北東から）



W-3号溝北トレンチ土層断面（南西から）



S X-4号竖穴状遺構全景（北から）



W-4号溝全景（南から）



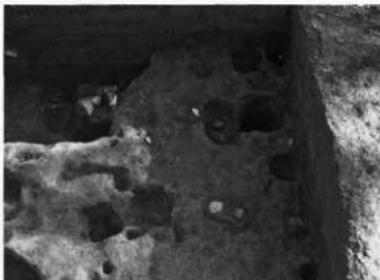
S X-4号竖穴状遺構土層断面（南から）

S X-4号竖穴状遺構遺物出土状況（南から）

9
地点



S X - 1 全景（南から）



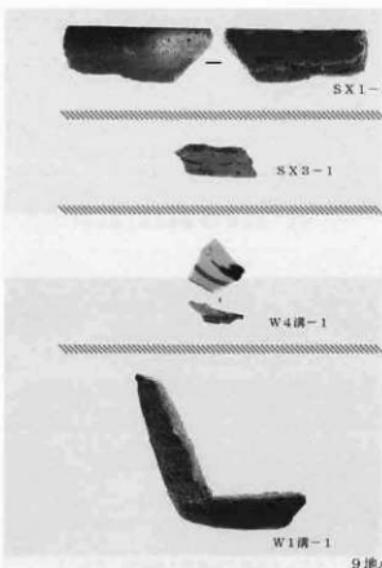
S X - 3 全景（西から）



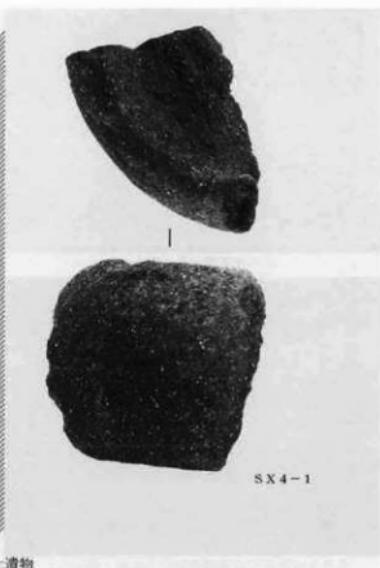
D - 7 号土坑全景（南から）



D - 10 号土坑全景（西から）



9 地点出土遺物



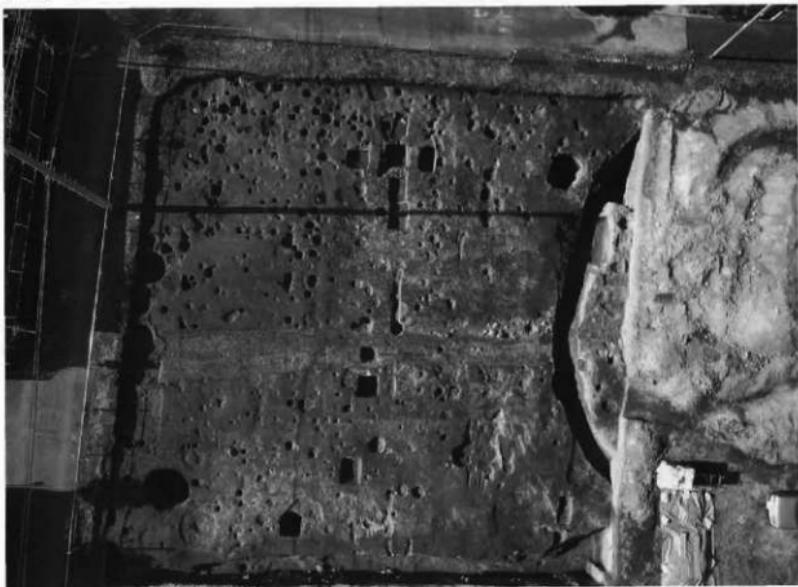


27
地点

27 地点遠景（南西から）



27 地点全景（上が西）



27 地点全景（上が西）



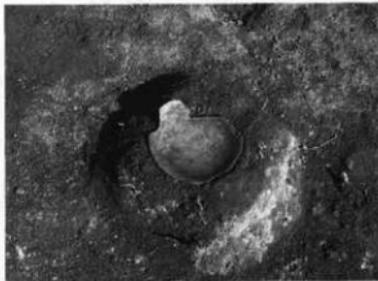
W-1号溝全景（北から）



W-1号溝遺物出土状況（南西から）



W-1号溝遺物出土状況（南西から）



W-1号溝遺物出土状況（南西から）



W-2号溝全景（北から）



W-2号溝測量風景（南から）



W-2号溝遺物出土状況（東から）



W-2号溝遺物出土状況（南西から）



W-2号溝土層断面（北から）



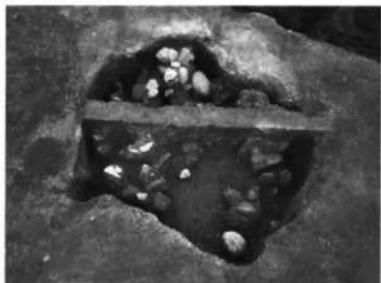
W-3号溝全景（西から）



W-3号溝土層断面（東から）



W-3号溝土層断面（東から）



D-1号土坑縄・焼土出土状況（南から）



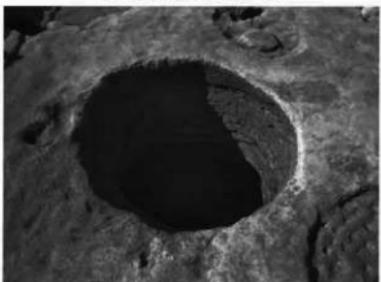
D-1号土坑土層断面（南から）



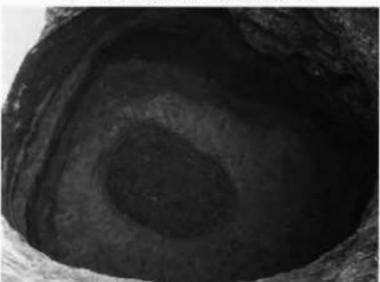
D-2号土坑全景（北から）



D-2号土坑遺物出土状況（北から）



D-3号土坑全景（東から）



D-3号土坑底面全景（西から）



D-3号土坑遺物出土状況（東から）



D-3号土坑遺物出土状況（南西から）



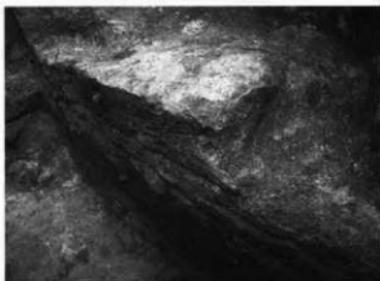
D-3号土坑馬具出土状況（南西から）



D-3号土坑焼土検出状況（西から）



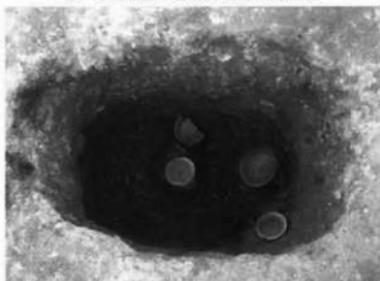
D-3号土坑遺物出土状況（南西から）



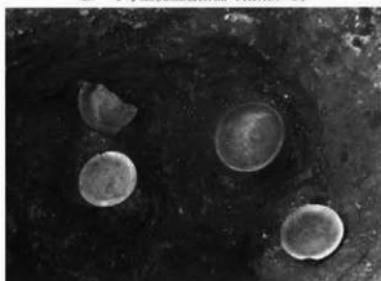
D-3号土坑下位土層断面（南西から）



D-4号土坑土層断面（南東から）



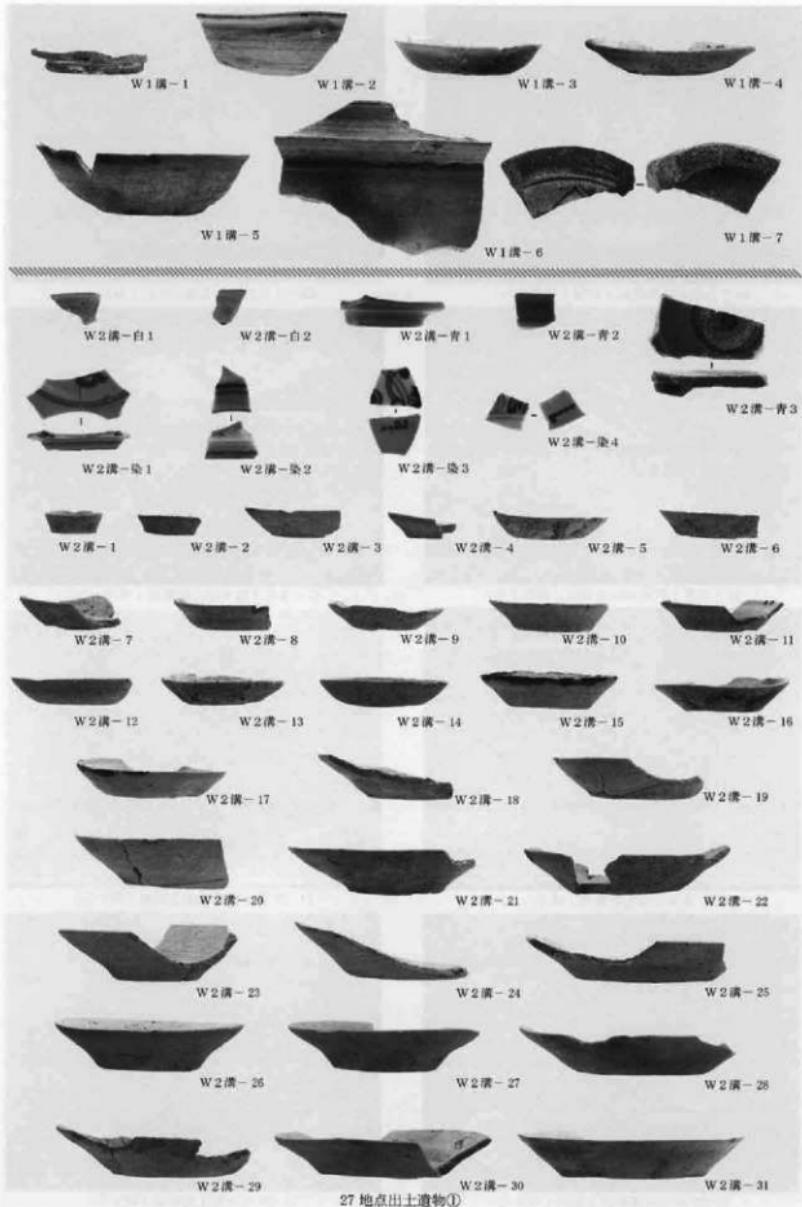
D-29号土坑遺物出土状況（南から）



D-29号土坑遺物出土状況（南から）



D-29号土坑土層断面（南から）



27 地點出土遺物①



W 2 滝 - 32



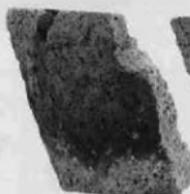
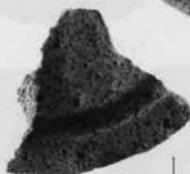
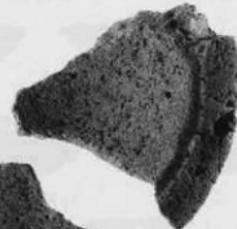
W 2 滝 - 34



W 2 滝 - 35



W 2 滝 - 33

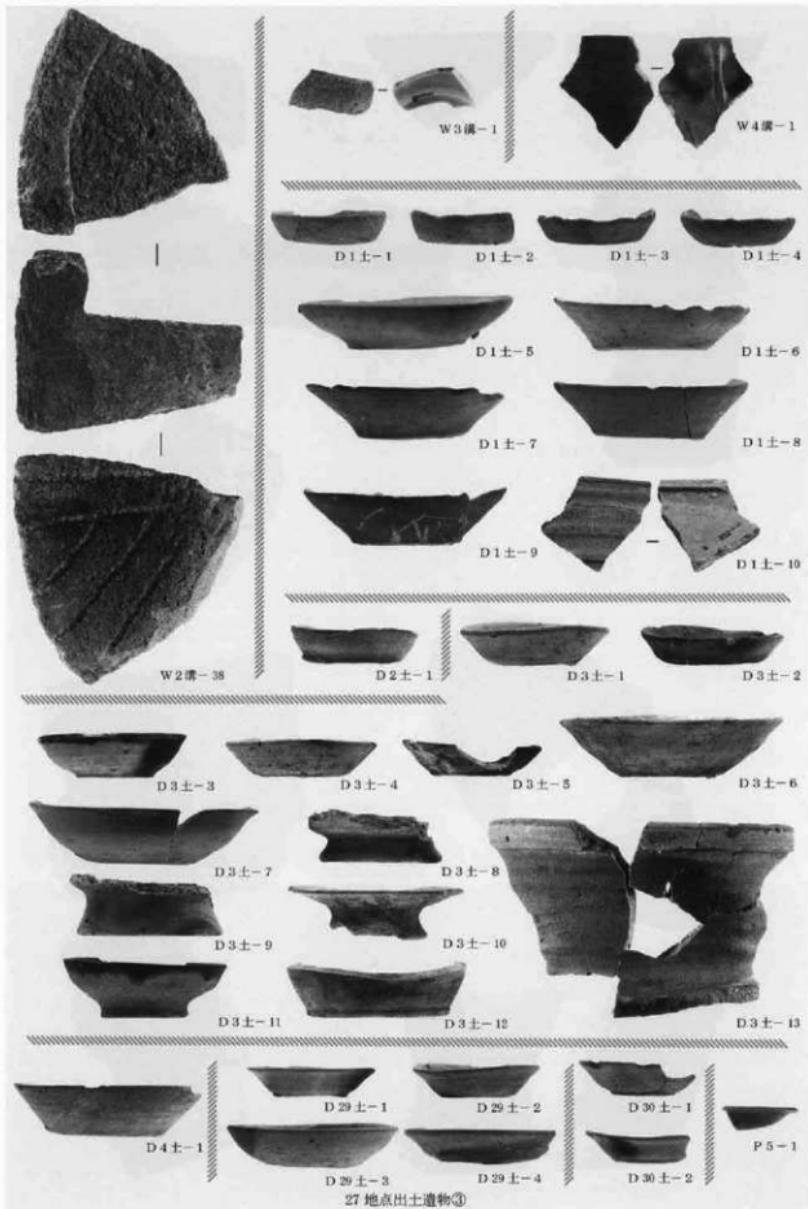


W 2 滝 - 36



W 2 滝 - 37

27 地点出土遗物②

27
地点

元總社蒼海遺跡群（21）

前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成21年2月27日印刷

平成21年3月6日発行

編 集／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

発 行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目 10- 2

Tel 027-231-9531

印 刷／朝日印刷工業株式会社



